

鹽原、那須附近

素練瀑 七名瀑の一、高さ二十丈。

雄飛瀑 七名瀑の一。

畑下戸、富士山、頂上の御嶽祠から鹽原中部の全景一眸に集る。

門前、妙雲寺、禪宗、甘露山と號する。平重盛の乳母妙雲尼の開基と傳ふ。

披雲峽、寺山と峽間山との間。

洗心瀑、七名瀑の一。

古町 倉下山の麓にある。洞内鐘乳石と石筍とがある。

源三窟、八幡神社、鹽原の總鎮守、逆杉は有名な巨木。

右の外福渡戸の路傍に現出する材木岩と稱するものは、層狀となつて現はれた火山岩の一種で、其の直立に駢列樹植せるが如き外觀を呈するのは、火山熔岩が急に寒冷に遇つて收縮したものであるといふ。又鹽原の地は之を被覆する火山灰中に海生動物の化石を存し就中其の芋石と稱せられるものは奇とするに足るものである。

(温泉) 旅館

大網 大網。

福渡戸 満壽屋・和泉屋・磯屋・松屋・丸屋・叶屋。

鹽の湯 明賀屋・玉屋・柏屋。

畑下戸 清琴樓・紙屋・天和屋・加治屋。

門前 宮田屋・松本屋。

古町 米屋・楓川樓・上會津屋・中會津屋。

須卷 須卷。

新湯 藤屋。

古湯本 原泉館。

宿泊料、各温泉一圓二十錢乃至五圓。間貸料一日一疊十五錢乃至五十錢。

161 那須温泉 那須郡那須村にあつて、東北本線黒磯驛(上野から五時間、二圓三十二錢)か

鹽原、那須附近

## 豊原、那須附近

ら其の咽喉たる湯本温泉まで四里六町、自動車(二圓)、馬車(一圓)、人力車(一圓四十錢)がある。

標高一千九百十二米、白煙を噴く那須嶽を繞つて古來有名な七湯に新しき旭温泉と黒田原温泉とを加へて現在九湯あり、那須野ヶ原西南に開け、余笹川の清流此の間を過ぎて山水の美しいふべからず、而も詩的情緒に富む傳説や殊に古き史乘に富み、相俟つて漫に遊志をそよられる地である。

玉藻の前の傳説で古くから聞えた殺生石の存在は世間周知のことであるが、此の温泉のことは既に古く正倉院文書、天平十年駿河國正稅帳に「依病下、下野國那須湯、從四位下小野朝臣、上一口、從十二口」と見えて居て當時貴紳の人々が遙々此の地に湯治に下つたことが察せられ、又延喜式や文武紀に下野國から硫黃を献つたことが見えてゐるのは、今も湯本に於て硫黃の採取の行はるゝことを考へ合せると、當時此の地の開發の進んでゐたことが想はれるのである。

又湯本の温泉神社は、早く清和紀に從四位下を授けられたことが見えて居り、又延喜式に列し、又下つて平家物語が彼の那須與一が扇の的を射る條に「別ては我國の神明、日光權現、宇都宮、那須の温泉大明神、願くはあの扇の真中射させ給へ」と記してゐるのを思ひ合はせると、此の神社の由緒の古いことが明らかであつて、同時に又一面此の温泉の歴史の古いことが知られて此の地に關する史的趣味を深くする。今社寶として與一が奉納したといふ鏑矢を藏してゐる。

殺生石は神社の附近、賽の河原と呼ばれ、焦石累たる不毛の地にある。石は七尺四方、高さ五尺許り、附近は硫黃の氣が紛々として鼻を衝く。芭蕉の奥の細道に「殺生石は温泉のいづる山かけにあり、石の毒氣いまだほろびず、蜂蝶のたぐひ真砂の色の見えぬほどかさなり死す」と記し、「とぶものは雲ばかりなり石の上」と實景を叙べてゐるのも面白い。

今七湯に就て左に表記する。(挿圖参照のこと)

(湯泉名)

(泉質)

(効能)

(旅館)

豊原、那須附近

## 鹽原、那須附近

湯本温泉、 酸性硫黄泉、皮膚病・腦病・脚氣・眼病等によい。 小松屋・松川屋・立花屋  
 大丸湯泉、 鹽類泉、 胃腸病に特效がある。 和泉屋・常磐屋等。  
 辨天温泉、 炭酸泉、 胃腸病に効がある。 大高。  
 北温泉、 弱鹽類泉、 小兒の病・不妊症に効がある。 熊ヶ谷。  
 高雄肢温泉、 硫黄泉、 皮膚病・腦病に効がある。 葭屋。  
 板室温泉、 鹽類泉、 リウマチス・神經痛に特效がある。 大黒屋・一井屋。  
 三斗小屋温泉、 鹽類泉、 貧血病・憂鬱病に特效がある。 大黒屋・煙草屋。  
 宿泊料一圓二十錢至乃三圓。

右の中湯本温泉は諸湯の代表的のものであつて、交通も最も便であり、設備も整うてゐる。又三斗小屋温泉は七湯中最高地に位し、入浴に適するのは夏秋の二季である。途中那須嶽の噴火を見ることが出来る。戊辰役の激戦地。

## 那須國造碑

本邦最古の碑石として著名なもの、西那須野驛から分岐する東野鐵道の終點黒羽驛(西那須野驛から八・二哩、四十一錢)から南一里(西那須野から東四里)、那須郡湯津上村大字湯津上にある。

文武天皇の四年庚子の歲所造、久しく草叢に埋もれてゐたのを、元祿中水戸光圀公が亭を建て、保護の法を加へられてから、廣く世に知らるゝに至つた。

碑材は花崗岩にして高さ四尺許り、碑文は一行十九字づゝ八行、百五十二字、正面は砥の如く磨いて左右其の他は自然石、扁石を凹めて笠の如くに碑石の上にかぶらせてあるの、土俗笠石と呼んでゐる。筆力渾雅遒勁、古色眞に拘すべく、今國寶となつてゐる。

黒磯驛の次は黒田原、謡曲遊行柳に有名な遊行柳を東南一里蘆野町の附近に訪ひ、更に豊原驛を過ぐれば次は白坂驛、地は早や磐城に屬す。次驛白河は白棚鐵道の接續點。松平樂翁公の藩治として名高き處。又戊辰の役に會津兵の官軍に抗したる地。其の白河城址は町の北方にあり、又樂翁公の築きし南湖公園は驛の南半里にあり(白棚鐵道の便あり)、殊

## 鹽原、那須附近

## 松島附近

に能因法師の秋風ぞ吹くの詠に名高い白河關跡は驛より南二里半（西白河郡古關村大字旗宿、白棚鐵道古關停留場より西一里半）、其の他附近には甲子温泉（驛より西六里）等あり、更に是より進めば東北本線の各驛及び郡山より岐るゝ磐越本線及び同西線の沿線には到る處史蹟・名勝・温泉等の尋ねべきものがあるが、さまでにはと思はれるから省略する。

上野から白河驛、五時五十四分、二圓六十一錢。

## 〔松島附近〕

（瑞巖寺、觀瀾亭、  
五大堂、鹽釜神社）

概説 「松島やあゝ松島や松島」と俳聖芭蕉をして筆を投ぜしめた其の松島は、廣袤六方に亘る松島灣内に散點する大小三百の島嶼の總稱で、世に八百八島と稱せられ、何れも趣致溢るゝ翠松を戴いて所謂日本三景の一に數へらるゝ絶勝をなしてゐるが、地質學上より之を觀れば、要するに第三紀の凝灰岩に屬し、海水の浸蝕によつて此の奇勝を現出したものである。

而も灣の沿岸には古代奥羽經營の重鎮たりし多賀城村に接して古くから交通の要津たりし鹽竈の地を始め幾多の貴重すべき史蹟を有し、天然の美と是等の史蹟とを併せて其の名勝たる價値を一層大ならしめてゐる。

松島の勝は其の中心たる松島村を始めとして實に附近數箇町村に亘つて大公園を成してゐるので、所謂四大觀（富山の麗觀、扇溪の幽觀、大鷹森の壯觀、多聞山の美觀）を始めとして之を十分に探勝せんが爲には少くも數日を要する。況して其の往復の汽車路丈に既に二十四時間餘を要する東京から一夜泊りの行程とするのはもとより非常に不十分たるを免れ得ない。併し此の天下の名勝、數時間の見學でも其の概況を探ることが出来るのは亦實に愉快である。

此の目的の下に松島見物をするには、東北線松島驛に下車（常磐線經由でもよい）、驛から一里の松島村に出で（此の間電車、三十分乃至一時間毎に驛と海岸五大堂との間を往復

松島附近

松島附近

してゐる）、同所を見物し、更に海路鹽竈に至り（汽船も和船もある）、鹽竈神社に参拜し  
此處より鹽竈線經由東北線岩切驛に出て歸路に着くか、或は先きに鹽竈に至り、歸路を松  
島驛からとするもよい。

松島驛、上野から十二時十八分、四圓五十一錢。

七月一日から九月十日まで割引列車がある。

松島鹽釜間汽船、一時間、三等三十一錢、二等四十九錢、一等六十五錢。

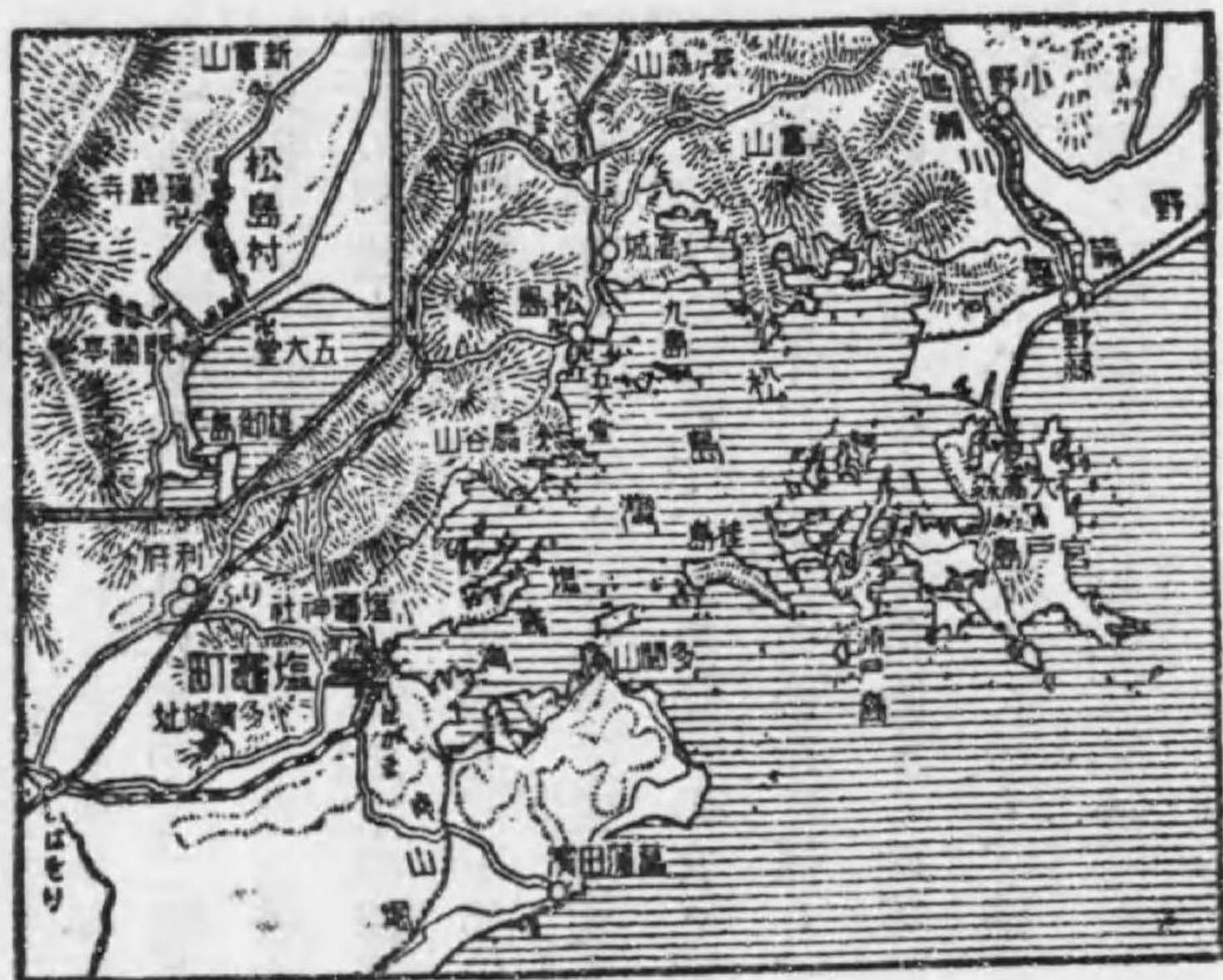
旅館（松島）パークホテル、觀月樓、白鷗樓、東洋ホテル。

（鹽釜）鹽釜ホテル、太田屋、海老屋、日和館。

宿泊料、一等五圓、二等四圓、三等三圓五十錢、四等二圓八十錢。

瑞巖寺

舊名松島寺又圓福寺ともいつた。慈覺大師の創建と傳へ、始め天台宗であつた  
のを文應年中禪宗に改め、後伊達政宗が之を修築して御成玄關及び玉座等を設けた。其の  
壯麗なる本堂は建築裝飾共に桃山式の趣味を發揮して美術史上貴重なもの、今特別保護建



松島附近

松島鹽釜附近

造物となつてゐる。其の内部正面に安置した  
正宗甲冑着用の木像は、英雄の風貌を遺憾な  
く寫し出したものであつて、之を見るにつけ  
ても建築の宏壯と相俟つて、正宗の瑞巖寺修  
築は軍事上の目的をも有してゐたものとする  
説が十分首肯される。

實に瑞巖寺は松島に於ける史蹟の中心とし  
て遊覽者の必ず立寄るべき處である。

觀瀾亭

村西觀月崎の斷崖の上にある。正  
宗が豊公から桃山御殿の一部を賜つて此處に  
移したものと傳へられ、瀟洒たる建築四周の  
美景を添へて雅致掬すべきものがある。御島

の勝も程近い。

**五大堂** 村東の一離島にあつて二橋を架してある（松島の中、橋を架してあるのは御島と此處との二所のみである）。島上松樹の下に五大明王を安置する堂があつて、坂上田村麻呂の創建と傳へてゐる。亦正宗の修築に係り、今特別保護建造物に列してゐる。

**鹽釜神社** 鹽釜町市街の西北、千年の老杉亭々たる丘上にあつて、其の別宮志波彦神社と共に國幣中社に列してゐる。武甕槌大神・經津主大神・鹽土老翁大神を祭るといふ。延喜式に列する古社で、又奥州一の宮と稱せられ、武門の尊崇の厚かつた社である。

社殿は慶長十二年正宗の修造に係り、更に寛文二年綱村が之を重修したもので、結構壯麗、社務所から松島灣を俯瞰する眺望頗る優麗である。此の地が古代に於ける日本民族東北經營の一中心となつてゐたのも、確に此の形勝によつたものであらう。

國寶たる刀劍二口を藏してゐる。

鹽釜市街の中央海老屋旅館の前に鹽釜神社があつて、往昔鹽土翁が製鹽を教へた時使用

したといふ古鐵釜四口を安置してゐる。釜の直徑は各約四尺八寸、元七口あつたといふ。

なほ松島附近には新富山（四大觀に併せて五大觀と稱せられる）の大觀や野蒜運河、菖蒲田海水浴場、正宗の開鑿した貞山堀等觀るべきもの少からず、殊に岩切驛の附近には、約一千二百年前蝦夷經營の爲に建てられ、又陸奥の國府をも兼ねて東北經營の中心となり、その後吉野朝廷の時代北畠氏が據つて著はれた多賀城の址及び天平寶字六年鎮守府將軍朝獨の建てた多賀城碑及び元僧祖元の建てたといふ蒙古の碑等あり、又稍々隔たつては金華山の勝あり、更に仙臺に至れば、東北隨一の都邑、雄藩の跡として正宗の築いた青葉城址瑞鳳山の靈廟（正宗以下三代の靈を祀る）、櫻岡公園、榴ヶ岡公園、青葉神社（正宗を祀る）林子平の墓、政岡の墓等あり、その他枚擧に暇ない程である。

上野から仙臺驛、十一時十七分、四圓三十錢。

同じく 岩切驛、十二時十五分、四圓三十七錢。

上尾、鴻巣、熊谷附近

## 二、熊谷、秩父、高崎、伊香保、栃木方面

### 〔上尾、鴻巣、熊谷附近〕

(瓦葺掛樋、蒲櫻、鴻の巣、熊谷堤の櫻、熊谷寺、妻沼の聖天)

#### 概説

大宮驛で東北線と岐れる高崎線は、西北にくくと進んで埼玉縣の管内を貫き、群馬縣内に入つて高崎まで通じてゐる。そして大宮から熊谷に至る間は荒川の流域を走り而も次第に其の沿岸に近づいて熊谷に至つては近く二町の間を迫るが、併し熊谷以北に於ては反對に之を遠ざかつて利根川に近づき、兩縣の境界即ち武藏・上野の國境に於ては遂に其の支流神流川を渡り、更に倉賀野驛の手前では同じく利根の支流たる烏川を渡つてゐる。かくの如く高崎線は此の兩河の流域を過ぐるが上に、更に沿線は古來の重要な街道に當つて趣味ある史蹟に富んでゐる。且つ又桶川・鴻巣あたりから關東平原の背景たる山

脈を大觀する所、吹上・熊谷の附近から秩父の山容を明らかにする所、共に他に得られぬ壯觀である。而も汽車は高崎まで何れも約三時間以内の行程で、日歸りに相當した距離である。

加之本線から岐れる秩父・上信兩鐵道の沿線は亦實に見逃すべからざる名勝史蹟を有してゐるから、よし秩父の如きは一夜泊りの行程としても必ず遊ばねばならぬ所であらう。

#### 瓦葺掛樋

大宮の次驛上尾驛から東約三十町北足立郡原市町大字瓦葺にあつて、樋は綾

瀬川に架せられ、關東三大土工の一と稱せられてゐる。又原市町は昔ながらの町の面影を存し、附近は所謂武藏野の自然のままの姿を觀るのによい。此處から東北線蓮田驛まではやはり約三十町、往復線路を變へて兩驛間を歩くの一日の散策によい。

#### 蒲櫻

上尾驛の次は桶川、驛から東北約一里半北足立郡石戸村大字石戸の東光寺境内

にある高さ三丈餘の大櫻樹がそれであつて、傳へて蒲冠者範頼の手植と稱する。樹下には貞永・弘安・永正・文應等の古碑があつて、之と蒲櫻の碑と對してゐる。

上尾、鴻巣、熊谷附近

上尾、鴻巣、熊谷附近

**鴻の巣** 桶川の次驛は、昔此處で鴻の鳥が其の卵を呑まんとした蛇を殺したので地名とするに至つたといふ傳説のある鴻巣である。町にある淨土宗十八檀林の一なる勝願寺（文永年間登戸村に草創、天正年間此の地に移る）は今衰へて昔日の面影はない。町から北一里箕田村大字箕田にある箕田八幡宮は、彼の頼光の臣渡邊綱の居住した地と傳へ、今も境内に綱の靈を祀る祠があるので聞えてゐる。

併しそれよりも附近で最も見るべきは、史學・考古學・人類界一等に有名な百穴であらう。が近來東上線が延長した爲、それは東京からは池袋から發する同線の武州松山驛からするのが便となつたから、坂戸・松山附近の項を参照せられたい。

**熊谷堤の櫻** 鴻巣の次驛は吹上、驛の西方一里半青山塚は武藏國造の墓と傳へられ、又驛から北一里半忍町の東には成田長泰の據りし忍城址あり、城東行田町は足袋の産地として聞えてゐる（熊谷から岐れる秩父電氣鐵道行田驛からすれば更に近い）。

吹上の次が熊谷驛、秩父電車の接續點、道路四通八達して商業繁華の地。有名な熊谷堤

は驛から南二町、荒川の沿岸一里に渡つて櫻花を觀るべく、殊に荒川下流の雜踏した觀花を好まぬ人は、此處に来て心靜かに花を賞することが出来る。花時は四月七八日頃から十四五日頃まで。櫻雲閣といふ三層の樓があつて遊覽者の用に供してゐる。

**熊谷寺** 熊谷の地は源家の猛將熊谷直實の出身地である。兵馬の巷に馳驅して赫々の武名を擧げた彼れ直實も、後發心して薙髮し、此の地に蓮生庵を結び遂に建永二年大往生を遂げた。後天正中滿海上人が此處に寺を建て、之を熊谷寺と稱した。寺は淨土宗、本尊阿彌陀佛は多田滿仲の子美文丸の念持佛、惠心僧都の作と傳へてゐる。直實の遺品を多く傳へ、又其の墓もある。

熊谷寺の南の石上寺は庭園の美を以て有名である。

**妻沼の聖天** 妻沼は熊谷から北二里二十町餘利根川の岸に臨む町であつて、有名な流行佛聖天様がある。聖天堂の境内は六千坪、中央本殿には歡喜天を祀る。此の像は黄金で齋藤實盛の子實長の信奉したものであるといふ。節分や祭典の時は參詣者が踵を接する有様

上尾、鴻巣、熊谷附近



秩父、長瀨附近

である。

妻沼と熊谷との間には自動車や馬車がある。

鴻巣驛、上野から一時三十五分、七十六錢。

熊ヶ谷驛、同じく二時間、九十六錢。

〔秩父、長瀨附近〕  
(長瀨、寶登山神社、秩父神社、鉢形城址、)

概説

高崎線熊谷驛から岐れて荒川の沿岸秩父街道に沿うて西走し、遂に秩父盆地に入り影森に終る秩父鐵道(二九・六哩)は、行手に秩父の諸峯を望んで風景に富み、其の波久禮驛以西は線路荒川の岸を走つて車窓の眺め更に勝り、殊に寶登山附近に於ては彼の秩父赤壁の稱ある長瀨の絶勝を賞すべく、綠泥片岩或は雲母片岩より成る懸崖の銀灰色を呈して燦然として日光に輝く所、荒川の浸蝕作用をも認むべく、殊に海岸の紅葉燃えて下紺



秩父長瀨附近

碧の水に映する美観はまた譽ふべきものもない。

而も又寄居驛附近は川越方面から來て厩橋に通じた昔の北國街道の貫くあり、重要なる史蹟に富んでゐる。更に進んで秩父盆地に入れば、今秩父絹の産で聞え、往古國府の跡として名高い秩父の町に式内の古社秩父神社を拜すべく、尙ほ時日の許すあらば附近より秩父の諸名山及び荒川の上流たる中津川の仙境をも探るところが出来る。

尙ほ荒川は鮎漁によく、武川・

小前田・寄居・長瀨・親鼻等では其の設備があつて、悠々一日を過すのも興がある。

秩父、長瀨附近

上野から寄居驛、二時三十七分、一圓三十七錢。

同じく 寶登山驛、三時二分、一圓六十六錢。

同じく 秩父驛、三時三十二分、一圓九十三錢。

**畠山重忠の館址**、熊谷驛から五つ目、永田驛の東方九町本畠村字畠山にあつて、廣さ方

一町餘、林木叢生する處其の殘壘の跡を認めることが出来る。滿福寺の境内に其の碑があり、又附近荒川の渡口に重忠が鶯の飛ぶ跡を追うて渡つたといふ鶯瀨の碑が建つてゐる。鶴ヶ峯の露と消えた名将重忠の英靈は、かくて永く後人の弔ふ所となつてゐる。

尙ほ永田驛から二つ手前大麻生線から八町、三尻村少間山の山腹に位する龍泉寺は眺望に富み、渡邊華山の隱棲した所として聞えてゐる。

又永田の次小前田線から五町の處には梅林があつて福壽草の産あり、又附近櫻澤の八幡社は眺望が勝れてゐる。

**鉢形城址** 小前田の次は寄居驛、秩父峡谷の口に當り、流れを隔て、鉢形の舊壘に對し

てゐる。城址は驛から西南約七町、鉢形村にある。荒川の碧潭に臨む懸崖の上にあつて頗る要害の地、北條氏此に據つて北國街道を扼し、上杉氏を牽制してよく其の南下を拒ぎ、終に天正十八年の落城に至るまで其の重鎮たりしもさこそと察せられる。荒蕪に歸してはゐるが、壘濠の跡歴々として指點すべきものがある。

驛から四十町には象ヶ鼻の奇勝あり、又同じく十二町には藤田氏の故墟花園城址がある。又寄居の次々驛樋口から十町には藤田氏の居城天神山城址がある。

**長瀨** 寄居以西の荒川の峡谷の勝景は到る處愛すべく、波久禮驛に近い其の懸崖絹雲母片麻岩露頭の美、樋口橋上眺望の美、本野上の巨巖大石の雄觀等枚擧に暇はないが、就中絶勝とすべきは長瀨である。長瀨驛から二町、野上村字藤谷淵にあつて、長さ約七町、河幅約一町、對岸は屏風を立てたるが如き懸崖をなして下紺碧の深淵に臨む。一面に露出せる岩石は悉く晶質であつて岩上數多の溝のあるは即ち荒川の浸蝕作用によつたもので、又所々石英脈の露出するあり、一步は一步より新なる奇景唯々造化の妙技を歎賞するのみ

## 秩父、長瀨附近

である。巖崖の盡くる所に白鳥島しらとりじまがあり、其の上に巨人釜がある。要するに秩父の奇景は此の特質を有する岩石に基づくので、之が荒川の清流によつて綾なされる所に一段の趣を添へてゐるものである。

溪に臨んで旅館長瀨館がある。

長瀨ながせから上流三町に位する虎石は、其の面に著しき褶曲を見せてゐる。

**寶登山社** 驛から約五町、寶登山中たからとうざんにあつて日本武尊東征の際の傳説を有してゐる。

祭神は神日本磐余彦命かみやまといわれひこのみこと・火産靈神ひのむすびのかみ・大山祇命おやまかみのみこと。今縣社に列し、開運盜賊除けの流行神となつてゐる。

秩父盆地を瞰下して眺望佳く、其の前面の丘陵は所謂寶登山公園で楓櫻多く又野生の躑躅があつて花の頃は満山爲に染め出される。

**秩父神社** 長瀨驛から更に南して秩父町に至る途中國神驛くにがみに近い國神村大字金崎は秩父

國造墳墓の地として、又黒谷驛くろやに近い原谷村大字黒谷は和銅の産地として名がある。又秩

父町は秩父盆地の中央に位して上古の國府の跡、今も秩父郡役所の所在地として交通・産

業の中心をなしてゐる。

附近に散在する秩父三十四番の札所は巡禮者が多いが、秩父神社は更に著はれてゐる。

驛より二町、俗に秩父妙見ちちぶみょうけんと稱せられ、式内の古社、今縣社に列してゐる。祭神は八意思

兼命やねのみこと・知々夫彦命ちぢぶひこのみこと。社殿は徳川氏の修築、龍虎の彫刻は左甚五郎の作と稱せられてゐる。

秩父第一の名山武甲山ぶこうざん(海拔四三二三尺)は秩父町から山頂まで二里。關八州の名山が一眸に集まる。

〔深谷、本庄、兒玉附近〕  
(深谷城址、平忠度の墓、  
金鑛神社)

**深谷城址** 深谷は熊谷の次々驛、戰國時代北國から關東に出る主要な街道に當つてゐた

爲其の當時の史蹟に富んでゐる。深谷城址は即ち其の一であつて、驛から北約五町、關東

深谷、本庄、兒玉附近

深谷、本庄、兒玉附近

管領山内房顯が築城に係り、此處で扇ヶ谷定正と戦つたことは史上に著れてゐる。

### 平忠度の墓

深谷驛の北十三町にあつて、傍に内室菊の前の墓も並び立つてゐる。壽永

の昔岡部六彌太忠澄は、一の谷の戦に水邊に走る一敵將を斃して後、其の鎧の間に挟んだ歌集一卷を得て始めて其の忠度なるを知り、憐んで此の地に葬つたのである。慕うて此地に來た室菊の前は墓前に櫻樹を植ゑて其の後を追うた。今忠度櫻と稱するのが即ちそれであるといふ。

あゝ忽卒な都落ちの際にも風流の道を忘れず、淀から馬を返して俊成卿の五條の邸に詠草を托した歌人忠度、後勅撰の千載集に採録せられたものは、讀人知らずとして載せられた故郷花の一首のみなるを見ては、榮枯盛衰の文雅の上にもあまりに迅速なるに驚いたことであらう。

驛の西北岡部村の普濟寺には岡部忠澄及び其の妻の墓がある。

### 金鑽神社

深谷の次は岡部、次は本庄、金鑽神社は本庄驛から三里半、同郡(兒玉郡)青

柳村二の宮にある官幣中社である。途中兒玉町までは電車(十九錢)、其の先き一里半は人力車(三十錢)或は馬車(二十錢)。

祭神は天照大神及び素戔鳴命。景行天皇四十一年の創建、日本武尊東征の際伊勢神宮で倭姫命から賜はつた火鑽金を御靈代として御室嶽に藏め、兩神を祀られたのが當社の起原であると傳へられてゐる。

境内にある柿葺二層の塔婆は一乘院奉仕時代の遺物、今特別保護建造物である。賽路には櫻樹多く花時は美觀である。

兒玉町に近い金屋村大字保木野は塙保巳一の出生地。

又本庄驛に近い北泉村大字東五十子は足利氏と兩上杉氏との古戰場、本庄の次驛神保原に近い賀美村大字勅使河原は北條氏と瀧川氏との古戰場である。

本庄驛、上野から二時四十分、一圓三十二錢。

深谷、本庄、兒玉附近

〔倉賀野、高崎附近〕  
(鬼石の奇勝、上州三古碑、高崎公園、清水觀音)

**鬼石の奇勝** 神保原驛から神流川を渡れば地は既に群馬縣多野郡に屬する。鬼石町は神流川左岸の新町驛から約四里の上流同じく其の左岸にあつて新町驛から鐵道馬車がある、(秩父電車本野上驛からは約二里)。

其の奇勝は町から西方約一里三波川の溪流に臨んで青色木理紋の奇巖によつて形成せられるもので、秋季の紅葉は此の奇景に更に一段の美を添へる。此の岩石は三波山系の名を以て呼ばれ、略北西南東の走向を以て關東山塊の東北部に露出し、其の特質として容易に薄板に剝け、且つ多量の絹雲母を含有するといふ。此處の岩石中、姥石・茶盆石・浦島の釣舟屏風岩・曼陀羅石・雲石は廣く人に知られてゐる。三波石とて庭園家の愛玩するものは皆此の地から出るのである。

鬼石町の大字で天台宗の古刹淨法寺を有する淨法寺村には、炭酸冷泉八汐鑛泉がある。

**上州三古碑** 新町の次は倉賀野驛、驛に入る前東方半里岩鼻村の火藥製造廠の凄じい煤

烟と其の大煙突とが認められる。行手には上信の山々が次第に近づいて來る。倉賀野は烏川の北岸に臨む中仙道の一驛で、其の東方群馬郡瀧川村大字下瀧村には、眞言宗の寺院にして櫻の名所たる慈眼寺を控へて居るが、それよりも猶ほ尋ねべきものは、其の西方多野郡の鑛川流域に千古の昔を語る所謂上州三古碑であらう。

其の一は八幡村大字山名の山上の碑であつて、倉賀野から約一里、高崎から下仁田に通ずる上信電氣鐵道(上野鐵道)山名驛(高崎の次驛)から約十町、山名八幡宮の後丘にあつて碑の高さ三尺幅一尺一寸許り、碑文五十三字、其の初なる辛巳は天平十三年或は白鳳十年と推定されてゐる。

其の二は山上の碑から約十五町、同村大字根小屋の金井澤と稱する小溪の一民家にある所謂金井澤の碑であつて、高さ二尺三寸、幅一尺七寸許り、古色蒼然漸く判讀せしめる程

## 倉賀野、高崎附近

度である。九行一百十餘字、終に神龜三年丙寅二月廿九日と記されてある。

其の三は三古碑中最も有名で、多賀城碑・那須國造碑と共に本邦三古碑の一に數へられる多胡の碑である。山名驛の次々驛吉井驛から約二十五町、吉井町大字池村にあつて鑄川に近い。碑は廣原の一隅大樹の下に建つてゐる。高さ四尺一寸、幅一尺六寸乃至二尺。碑文は六行八十字、文中和銅四年三月九日甲寅の文字がある。加之古勁なる其の字體は優に千二百歳の昔を語るものであつて、洵に稀代の珍とすべきものである。

## 高崎公園

烏川に臨み、中仙道の主要驛、大河内氏の城下として發達して來た高崎市は今高崎・信越・兩毛・上野四鐵道線の接續點として交通の衝に當り、前橋市と並んで蠶絲の取引が盛んである。其の高崎公園は兵營(歩兵十五聯隊)の南、烏川の清流に臨んで淺間の噴烟を望み、風光美、園内梅樹多く、且つ英靈殿を控へてゐる。園の北兵營の所在地は高崎城址である。驛から西五町。

驛から十町淨土宗大信寺には徳川三代將軍の弟にして寛永中罪に問はれて終に切腹した

駿河大納言忠長の廟がある。

## 清水觀音

高崎驛から西二十町、片岡村の觀音山にある。寺は眞言宗にして華藏山清水寺と號し、坂上田村麿の開基、僧祐清の開山と傳へ、沙門延鎮の作に係る千手觀音を安置す。

山は高さ約百米、臨目開潤、近くは淺間の噴烟・妙義の尖峰、遠くは常總の諸山を望み烏の清流・高崎の市街脚下にあつて高崎市附近隨一の景勝地である。

新町驛、上野から二時五十六分、一圓四十二錢。

高崎驛、同じく 三時十四分、一圓五十五錢。

## 〔前橋、伊香保附近〕

(前橋公園、伊香保温泉、榛名山、國府の跡)

## 前橋公園

高崎から東北一里半、利根川に臨んで上野隨一の都市をなす前橋市はもと松

前橋、伊香保附近

前橋、伊香保附近

平氏(十七萬石)の舊城下、兩毛線の過ぐるあり、伊香保行電車の通ずるあり、街路四通八達、高崎と共に上毛生絲の大市場として人口六萬餘を有し、市況頗る賑はつてゐる。公園は驛から東北十三町利根川に臨んで舊厩橋城址の一部を占めてゐる。厩橋城は天文以前は上杉氏、以後は北條氏に屬し、瀧川一益も一時此に在城したことがあつたが、天正十八年以後徳川氏諸氏を之に封じ、維新の際は前記松平氏の封城となつてゐた。公園の南、縣廳の所在地は元の本丸である。其の他湊陸毀たれて街巷となり、城地の舊制を十分に認め難いものはあるが、其の眺望に至つては實に雄觀である。即ち赤城・榛名・妙義の所謂上野三山の優姿を一眸に集め、又淺間の噴煙をも望んで風景描くが如く、舊厩橋城の景勝を追想せしめる。園内に公會堂臨江閣がある。

上野から三時三十五分、一圓六十九錢。

伊香保温泉

前橋及び高崎から電車もあるが、今東京からは兩市の間の新前橋驛から岐れる上越南線に由り、前橋から北方四里の澁川(高崎から五里半)に至り、同所から電車を

利用するがよい(澁川伊香保間二里十五町)。

上野澁川間直通列車一日四回運轉、

四時間十二分、一圓八十五錢。

澁川伊香保間電車、一時十分、八十

一錢。上野から連絡切符發賣、二

圓六十四錢。

伊香保の地は既に古く萬葉以來歌枕に入つて世に著はれてゐるが、又近くは蘆花の不如歸によつて其の勝景は廣く紹介されるに至つた。況して今東京からは交通が至便となつて急げば日歸

前橋、伊香保附近



伊香保温泉

## 前橋、伊香保附近

りも出来るし、入浴に避暑に益々好適の場所となつた。

伊香保温泉は上野三山の一榛名山の東麓、吾妻郡伊香保町にあつて海拔二千五百尺（盛夏最高温度華氏八十五度以下）、前に吾妻川を隔て、利根・吾妻兩郡の諸嶺を望み、又斜に赤城の優峯と相對して眺望開濶、而も市街は獨特なる階段式を成して戸々互に視望を妨げらるゝることがなく、就中町の南方最高所海拔二千七百尺にある伊香保神社（式内の古社、祭神、大己貴命）は眺望が最も佳い。又町の東南に聳え時鳥に名を得た物聞山も見晴しが勝れてゐる。

泉質は鹽類性含鐵泉、温度百十三度、貧血症・消化器病・婦人病等に効がある。

尙ほ此處には伊香保八景、黄金・七重・辨天の三瀧、大瀧、地藏河原、水澤觀音、ガラメキ鑛泉の如き世に知られた名勝が多い。又紅葉の美は特に賞すべきものがある。

旅館—伊香保ホテル（食事附一日五圓以上）、

木暮、蓬萊、千明、仁泉亭、千登世館等その他數十軒（食事附一日二圓五十錢内

外)

## 榛名山

伊香保に来て一晩泊ることが出来るなら、是非とも榛名山に登らねばならない。否榛名の勝を探らずしては未だ眞の伊香保を談ずることば出来ないのだ。

伊香保の町から榛名山中の湖水まで約二里、榛名神社まではそれから約二十五町、馬と籠とがあり、健脚なら歩けば一層愉快な路である。

榛名山は那須火山脈に屬する二重式火山、烏帽子岳・鬘櫛岳・掃部岳・氷室山等は其の外輪山を成し、榛名富士（小富士）は其の中央火口岳（一四五七米）をなして頂上に馬蹄形の火口を有してゐる。而して其の火口原（海拔一〇九四米）には榛名湖（古くは伊香保沼）を湛へ、之から發する沼尾川は外輪山を破つて北東に流れ、伊香保名所の辨天瀧等を作つてゐる。榛名富士は火口原を抜くこと三百米餘に過ぎないが、其の圓錐形をなす端麗な姿は鏡と澄む榛名湖を前景として一層美しく映えてゐる（伊香保の町は寄生火山たる二ツ岳の北面に位してゐる）。

前橋、伊香保附近



榛名湖は今東西十一町餘、南北十七町(湖面海拔一〇八三米)の一小湖であるが、昔は其の水が廣く火口原を包んで小富士も一の島として湖中に存在し、湖の東岸に續く昔から花菖蒲に名高い水澤地も其の湖底であつたといはれ、既に老齡に達した湖として將來に其の死滅を豫想されてゐる。

湖畔沼の原には湖畔亭とレーキホテルとがあつて湖水に育つた鱒の鮮しいのを食膳に上せてくれる。冬は此處を中心としてスキーが行はれる。

縣社榛名神社は掃部岳の中腹に鎮坐し、境内は奇巖聳立して特異なる風趣を成してゐる。昔は三千一百坊を有してゐたと稱せられ、新田義貞の奉納に係る鐵燈籠が古色蒼然としてゐる。

伊香保から澁川に引き返し、是から約五里吾妻郡中之條町に入れば(電車八十五錢、時間凡そ一時四十分)、澤渡(澤田村大字上澤渡村、中之條から二里)、四萬(澤田村大字四萬村、中之條から四里)、川原湯(長野原村大字川原湯村、中之條から五里)何れも馬車、

乗合自動車、人力車の便はあるが、今のところ何れも日歸りは無理、一夜泊として是非行かねばならぬ程の處でもないから此には細説を省く。

### 國府の跡

前橋から西一里、高崎を距る二里、元總社村の地は古の國府の跡で、今猶ほ總社明神がある(上越南線新前橋の次驛群馬總社から近い)。

又元總社の西北半里國府村大字東國分は、昔の國分寺の所在地で、今猶ほ其の遺址があるといふ。

兩地は利根川・烏川兩河の間に位して、上毛平野の中心を占め、交通も至便である。今日附近に上毛の中心たる前橋高崎兩市の發達を見るのも、此の自然の地勢の上に、將た此の地の古來の歴史の上に鑑みて、其の決して偶然でないのを知るのである。

### 〔伊勢崎、桐生、足利〕

(華藏寺公園、國定忠次の墓、蕨塚温泉、  
鏝阿寺、足利學校、足利公園、唐澤山神社)

## 伊勢崎、桐生、足利附近

## 概説

前橋から東兩毛線に沿ふ伊勢崎・桐生・足利の附近は、關東の機業地として産業上觀るべきもの多きのみならず、又足利氏の發祥地を始めとして史蹟・名勝の探るべきものが多い。而も兩毛線と連絡し或は之と交錯して東武鐵道の延長するあり、往復線路を變へて遊覽するに都合よく、又汽車も行程大抵四時間以内で日歸りに好適である。

伊勢崎驛、上野から 三時五十六分、一圓八十六錢。

足利驛、淺草から 二時四十六分、一圓四十三錢。

(小山經由 三時十九分、一圓七十四錢)。

## 華藏寺公園

伊勢崎驛から北半里、天台宗に屬する華藏寺附近の地を公園としたもので林地の風趣に富んでゐる。

## 國定忠次の墓

伊勢崎の次の國定驛から十五町、佐澤那東村大字國定の養壽寺境内にある。俠客の本場たる上州の地を踏んで、其の俠客中の俠客忠治の靈を弔ふのも亦意義あることであらう。

## 藪塚鑛泉

國定の次驛岩宿から一里半、東武線藪塚驛から最も近い山田郡西長岡村にあつて、藪塚と長岡と兩所にある。前者は單純泉(驛から八町)、後者は鹽類泉(驛から十六町)、共に胃腸病・神経痛に効能があるので、夏季などはなか／＼雜沓する。湯の量は多からず、設備も整つてはゐないが、頗る安あがりなので尙更客が多い(一日二圓以内である)。其の上地は三方山を繞らし、南方開けて展望のよい別天地を成してゐる。

岩宿の次は桐生驛、關東一の機業地として其れに關係した學校・工場の見るべきもの多く、又西の宮神社(北十町)、桐生天満宮(同十五町)等の名勝もあるが、史蹟を探る人の是非とも訪ふべきは東國境を越えて程近い足利の地であらう。

## 鏝阿寺

足利氏の發祥地なる足利の地の史蹟の中心を成すものは實に鏝阿寺であつて當寺の歴史を密かにせずしてはまだ足利氏の歴史を語る能はずである。

鏝阿寺は兩毛線足利驛から北西約五町にあり、土地の人は大日様と呼んでゐる。凡そ方百間の寺域周圍に惣堀を繞らし、一丈許の仁王を安置する南面の樓門、橋廊下を架する特異

伊勢崎、桐生、足利附近

## 伊勢崎、桐生、足利附近

の構へに先づ驚かれる。宏壯を極むる大日堂（本尊大日如來は足利氏の守本尊として著はれてゐる）を始め講堂及び四脚の西門は建久七年の建立、多寶塔以下は元祿以來の改造と稱せられ、丹土を以て塗つてあつて世に赤御堂の稱がある。今特別保護建造物に列してゐる。

當寺は八幡太郎義家の孫にして足利氏の祖たる義康（義國の子）の子義兼（法號銀阿）の開基に係り、其の義國以來父祖由緒の地にして別業たりし城郭堀の内を割きて氏寺とし其の持佛堂を改めて銀阿寺と號したものであつて、開山は足利氏一門の崇敬厚かりし理眞阿闍利、眞言宗に屬する。

墓地には足利義國、義康、義兼の石塔及び足利氏十三世の廟社がある。

寺寶甚だ多く、鎌倉時代及び足利時代に屬する文書を始めとして尊氏の寄附に係る其の陣中使用の幔幕、青磁の香爐・花瓶等枚擧に暇あらず、何れも銀阿寺及び足利氏の歴史を語る貴重なる證徴たるのみならず、併せて國史の重要なる資料たるものである。

銀阿寺から北、足利町の背を擁する城山に登れば、蛭蛭町の南方を過ぎて東に去る渡瀬川の對岸近く呼べは應へんとする處に、新田氏の故墟金山の岨起するを見る。等しく源氏から出て關東武士の仰望の的たりし兩氏消長の歴史を顧みれば、漫に願望を禁じ難いものがある（金山に就ては前の太田館林の項参照のこと）。

**足利學校** 銀阿寺に接して其の東方にあり、孔廟及び書庫あり、古珍書一萬二千冊を藏すと稱せられる。當校の沿革については或は淳和天皇の天長年間小野篁の創建なりといひ或は上古國學の遺制といひ、或は銀阿寺の開基足利義兼の建設といひ、諸説一定しないが兎に角銀阿寺の歴史と離るべからざる關係があつて、其の消長を共にしたことは動かすべからざるものゝ如くである。従つて足利氏の勢威衰へ關東紛亂の時代には、此の校も亦萎靡衰廢に歸したのを、永享年間上杉憲實が再興し、鎌倉圓覺寺の僧快元を座主とし、床版の五經法疏を彼の國から購求し、其の他古書を備へた。爾後住持の僧があつて江戸時代には金地院に附屬し、代々緇流に管せられて居たが、維新の際之を停められた。宗長の東路

## 伊勢崎、桐生、足利附近

の裏に「……諸國の學徒頭を傾け、日くらし居たる體かしこく且はあはれに見え待り」などとも見えて、實に關東文教の中心として戰國亂離の間にも我が國文學の命脈を保ちし所我が文化史上に特筆すべき場所たるを失はない。

孔廟には四子の像を左右に配祀し、尙ほ小野篁の木像をも安置する。其の杏壇門は先年焼失して今ない。又敷地内に今小學校が置かれてある。

**足利公園** 驛から西二十町、櫻・楓・躑躅多く、殊に園は渡瀬川に臨んで風光秀美である。

又驛から西北二里足利郡北郷村大字月谷にある行道山(一二〇〇尺)は眺望秀絶、山嶺の淨因寺は關東屈指の靈刹、堂宇壯麗である(人力車の便がある)。

**唐澤山神社** 足利から東して富田驛を過ぎると次は佐野驛、謡曲鉢の木に所謂佐野源左衛門常世の故郷といはれてなつかしい感じがする。驛から北三町古城山公園はもと唐澤山城主佐野信吉の居城のあつた處。

驛から北一里半(東武線田沼驛からは山下まで、十五町、同じく頂上まで二十九町)田沼町にある唐澤山は依藤太藤原秀郷以下六代の居城址(後治承年間十四世の孫成俊之を再興したといふ。而して慶長中前記信吉が佐野に移封せしめられて廢城となつた)たりし所、山嶺なる秀郷を祀る唐澤山神社(明治十八年創建)は今別格官幣社に列してゐる。山頂からは利根・渡瀬の二川及び秩父・富士の連峯を望んで風光絶佳である。(佐野へは淺草から東武線に由り館林乗換で行くのがよい)。佐野から更に東して岩舟・大平を過ぎ栃木に下車すれば錦着山公園(北二十町)、太平山公園(西一里)等がある。

### 〔足尾附近〕(梨木鑛泉、赤城山、足尾銅山)

**梨木鑛泉** 桐生から岐れて間藤に至る足尾線(二七・四哩)は主として足尾銅山の爲に設

足尾附近

## 尾尾附近

けられたものであるが、其の沿線は渡瀬川の溪谷で風色に富み、殊に霜葉の美は夙に雅客の間に喧傳せられてゐる。而も附近には此の鐵道を利用して探るべき名勝も少くない。梨木鑛泉は先づ其の一である。

桐生から四つ目の上神梅驛から北西一里勢多郡黒保根村にある（乗馬賃一圓、駕籠賃二圓）。食鹽を含む炭酸泉で、慢性粘膜炎加答兒、婦人病、瘰癧、呼吸器病等によい。

地は赤城の南麓にあつて海拔一五〇〇尺、深澤川の溪谷を前にして幽靜、赤城の名勝を探るべく、又赤城登山者が勞を癒すによい。

旅館—梨木館、宿泊料七十錢以上。

**赤城山** 上毛に入つて以來到る處其の雄姿を仰いで來た赤城の名山、今や近くその麓の地に來て更に之を登攀するのはまた愉快ではないか。上神梅の次驛水沼から三里、驛から赤城神社の一の鳥居まで約一里、二の鳥居まで更に約一里、次に天神峠（外輪山の一角）を越えて湖畔大洞に達する、此の間また一里。

## 尾尾附近

赤城山は榛名・妙義と共に那須火山脈に屬する火山で、一の二重式火山である。即ち黒檜山（一八九三米）・駒ヶ岳・五輪峠・野坂峠・荒山等の形成する外輪山は略々楕圓形を成して東西三軒半、南北四軒半、中央火口丘たる地藏山（一八四二米）此の中に聳え、火口原には大沼を湛へ、火口瀨たる沼尾川を發してゐる（沼尾川は根利川に入る）。

大沼は海拔一三〇〇米、面積一八二二方米の曲玉狀をなした一小老齡湖であるが、冬期は採氷が行はれ、附近の草地には放牧が行はれる。

湖岸にある赤城神社は式内の古社にして今縣社に列す。祭神は大沼神。

山上は避暑に適し、高山植物採集すべく、躑躅・紅葉も賞すべく、春から秋にかけて山頂は自然の一大遊園となる。

旅館—猪谷旅館。

尙ほ赤城登山の道は前橋からするもの（頂上まで約六里二十五町、三里の間人力車がある）、及び尾尾線大間々驛からするもの（五里三十町）等もある。

## 足尾附近

足尾銅山 本邦屈指の大銅山、足尾線の通洞・足尾・間藤の三驛は此の銅山驛であり、人口三萬數千を算する足尾町も此の銅山によつて發達したものである。

此の銅山の發見されたのは慶長十五年で、爾來徳川幕府が直轄してゐたが、明治に至り一時日光縣の所轄に歸し、後民業に移り、同十年以來古川合名會社の經營する所となつてゐる。鑛區は百九十九萬坪に餘り、採鑛・選鑛・製鍊等の機關よく備り、軌道の敷設があつて電車の運轉あり(馬車も使用してゐる)、其の他架空鐵索の設もあつて運輸の機關も備つてゐる。

足尾から中禪寺湖畔まで約三里、清瀧まで七里半。

上野水沼間、五時四十三分、二圓二十八錢。

同じく足尾間、七時間、二圓六十一錢。

## 〔館林、太田附近〕

(茂林寺、善導寺、館林城址、花山、金山城址、新田神社、金龍寺、大光院、高山神社、生品明神)

## 茂林寺

北埼玉の羽生驛から川俣の鐵橋によつて利根川を渡つて來た東武線の汽車は、

やがて邑樂郡の川俣驛に着く。次は館林である。此處から利根川までは南約一里二十一町渡瀬川までは北約二十三町、此の兩河の間の低地を占むる此の地方は、兩河の河道の變遷等によつて生じた多々浪沼・城沼等數多の沼澤を控へ、地層は地質學上最も新しき時代なる新生代の第四紀層に屬してゐるので、太古一面の大海であつたのが地球の收縮によつて海底が隆起し、又陸地から吐き出した土砂の沈積によつて現今の土地を形成するに至つた桑葦の大變化が明らかに認められる。

扱館林で有名な分福茶釜の茂林寺は、實は町の南六郷村大字堀工村にあるので、館林驛からは約二十三町隔るが、手前の川俣驛からすれば近くて約十五町である。

## 館林、太田附近

## 館林、太田附近

青龍山茂林寺は、曹洞宗、越前永平寺末、應仁二年八月上野國青柳城主赤井正光の建立で、開山は大林正通禪師。永祿中館林城主長尾政長の父景長が再興した。本尊は釋迦如來境内に大佛、守鶴堂がある。

例の面白い傳説ある分福茶釜は紫金銅製、口径八寸周圍四尺。將軍足利義照の元龜元年第七世月舟が千人法會を行つた時、監寺たりし守鶴此の茶釜を持つて來て多くの人に茶を分ち與へたので分福の名があるといふ。此の外當寺には寺寶が多い。

## 善導寺

館林驛から約三町谷越町にある。僧寂惠の開創、淨土宗に屬し、本尊は彌陀如來。寺傳によれば建治二年の建立(當時土橋村にあり)、榊原康政の再興であるといふ。寺域一萬百坪餘。關東十八檀林の一に列してゐる。

## 館林城址

又尾曳城址。館林市街の東にあつて驛から約八町、東南は城沼に沿ひ、西北は溝渠を繞らして昔時の要害を成してゐる。城は享祿元年七月上野國邑樂郡佐貫の人赤井山城守照光の起工、約三箇年八ヶ月を閲して天文元年二月竣工、爾後藩主屢々代り、弘化

二年羽前山形城主秋元志朝此に封ぜられて明治の廢城に及んだ。赤井氏の築城より凡そ三百四十三年、城は明治六年火災に罹り、爾來草莽に歸してゐるが、今毛斯倫株式會社や中學校が建つてゐる。

## 花山

分福茶釜と共に廣く世に知られた館林の名勝であつて、又躑躅ヶ岡或は躑躅ヶ崎と稱する。驛から約二十五町、西北は城沼を隔て、館林町と相對し、東南は館林桃林を控へて風趣に富む。躑躅約一千株、其の盛りは滿丘只々紅白の花を以て掩はれてゐる。

昔此の沼に身を投じた一婦人を憐んで郷人が一株の躑躅を植ゑて吊つたのが次第に繁殖したものだとも傳へられるが、實は寛永四年二月城主榊原康政が新田義貞の室勾當内侍遺愛の躑躅を新田莊南田島郷から此に移植し、後寛永二年秋元志朝が更に白紫色のものを増植したのだといふ。明治四十年三月、更に新田郡澤野村から數多の躑躅を移植した。

川俣驛、淺草から二時十二分、一圓十四錢。

館林驛、同じく、二時二十三分、一圓二十一錢。

館林、太田附近

## 館林、太田附近

**金山城址** 館林から中野・福井を經、利根川の南岸足利驛（兩毛線の驛は利根の北にある）に足利氏の史乘を偲び（足利の記事は前出）、更に西すれば次は太田驛、吞龍様に賽する人が多いが、併し太田附近の眞の史蹟・名勝を知るには、恰も足利の地が足利氏を中心として考へねばならぬ如く、此處昔の新田の庄を知らんが爲には、足利氏の親類たる新田氏を中心として之を先づ頭に置いて調べねばならない。

今の強戸村・島之郷村太田町等を含む昔の新田の庄は實に新田氏發祥の地で、其の新田山即ち金山は實に其の中心であつた。金山は太田の驛から十五町、標高二百三十五米、平夷より抜くこと凡そ二百米、寶城山・天神山・八王子山・茶臼山・觀音山等の十數峯に分れ、古成層に屬するも火成岩が迸出して峻嶺を成してゐる。山嶺は實に關八州を一眸に收むる形勝の地である。

金山城は新田義宗の子貞氏が義貞の志を襲いで應永二十三年此に城居し、伊良親王（宗良親王の子）の居館たる寶城殿を建設した。後天正十八年秀吉の小田原城攻略の時に當り當城主由良國繁は北條氏に與したので常陸の牛久に移されて金山は廢城となるに至つたが今猶ほ古井壘礎を存してゐる。

江戸時代には此處に林守を置いて山林及び松茸を保護させた。今宮内省御料林となつて満山老松蔚々として繁茂してゐる。

**新田神社** 金山上にある新田義貞を祀る縣社で、明治八年の創建である。社實として義貞が生品の神前で義兵を擧げた時の中黒の軍旗、陣釜、古瓦（天文二年の文字がある）等を藏してゐる。

**金龍寺** 金山の麓大光院の北約四町にあつて太田山と號し、曹洞宗に屬してゐる。應永二十四年新田貞氏が大見禪龍禪師を開山として義貞追善の爲に法會を行ひ、其の靈牌を此處に安置した。後天正十八年金山城主由良國繁が牛久に移さるゝに及んで當寺も共に同所に移されたが（取手、牛久沼附近参照のこと）、慶長年中館林城主榑原康政が再び本寺を建立した。寺には義貞の木像を安置し、堂後に義貞の碑塔がある。

館林、太田附近



館林 太田附近

**大光院**

金龍寺の南、驛から八町、之が有名な吞龍様のある處、淨土宗の巨利。義重山新田寺と號する。寺傳によれば大光院殿新田義重が深く佛教を信じ、圓光大師を渴仰して七堂伽藍を寺尾に創立したが後義貞が王事に死するに及んで一族離散し、伽藍も亦焼失した。後慶長十六年徳川家康は土井利勝・成瀬政成等をして此に堂宇を建て、義重の墓を移し、増上寺の僧吞龍を請じて開山となし、寺領三百石を寄附したといふ。關東十八檀林の一に列してゐる。

寺域は一萬坪に近く、本堂以下堂宇壯麗である。開山堂は明和六年の建立で吞龍自作の木像を安置する。毎年舊曆八月七、八、九の三日間末寺三十餘箇寺の僧を集めて吞龍上人の忌日法會を行ふが、子育ての靈驗で流行る吞龍様のことゝて遠近から來賽するものが踵を接する程である。

寺寶として新田氏に關する古文書や觀智國師の書簡、白河樂翁公の筆蹟等を藏してゐる。

**高山神社**

大光院より更に南、驛から數町の處にあつて、明治十一年十一月の創建、高山彦九郎を祀る縣社である。彦九郎は新田義貞の臣高山遠江守の裔で、寛政の三奇人の一人と稱せられた勤王家たるには世間周知の通り。

「國の爲め心つくしに高山の動もなくてはてしあはれさ」とは明治天皇明治九年東北巡幸の時其の勤王を追賞して詠ませ給ひし御製である。

**生品明神**

太田町の西北二里半、生品村大字市之井にあつて、四邊荒涼、社祠亦何等見るべきものはないが、これこそ太平記に「五月八日の卯の刻に生品の明神の御前にて旗を擧げ、綸旨を披きて三度はを拜し、笠懸野へ打ち出でらる」と見えた元弘二年義貞の旗擧の古蹟で、當年を追想すれば感慨無量である。太田の次驛木崎驛からすれば約三十町。

館林、淺草から二時二十三分、一圓二十一錢。

太田、同じく 二時五十六分、一圓五十七錢。

館林、太田附近

## 〔西郊の部〕

一、雜司ヶ谷、世田ヶ谷、府中、川越、  
立川、青梅、八王子方面

## 〔雜司ヶ谷附近〕

(鬼子母神、山吹の里、  
高田の馬場、小泉八雲の墓)

鬼子母神 雜司ヶ谷の附近は、落葉を踏んで更け行く秋の閑寂を味ふのにまたなくよい處であつたが、近來は人家が次第に立ち込んで漸く市街地化し、其の屬した高田村も近く町に編入された程で、昔のカラーは日に／＼薄れて行く。其の中に獨り昔に變らず流行つてゐるのは鬼子母神様である。省線目白驛からは四五町、市電早稲田終點及び護國寺からは何れも約半里はあらう。

日蓮宗に屬する威光山法明寺の内にあつて、天正六年の創建といふ。此の鬼子母神については、或は護國寺と法明寺との間の星跡清水に夜毎に星の下るを見て、之を掘つて見ると像を得たので、僧日照が之を祀つたと稱せられ、或は永祿四年に村民が村内の清土といふ地の畑から像を得て、之を法明寺の東陽坊に祀つたとも稱せられてゐるが、兎に角市内に近くはあるし、年中參詣者が夥しい。殊に毎年十月の會式には、市内の信徒の來集で雜踏し、護國寺の附近からは、太鼓の響題目の聲が終夜耳に滿つる有様である。境内には老樹が多く、さすがに幽靜な趣がある。

山吹の里 鬼子母神の南方七八町、俗に向砂利場といふ處がある。これこそ彼の武將道灌が衰の代りに出された山吹の花の意を解し兼ねて遂に文雅の道に入るに至つた故事の地と稱せられてゐる。戰國の世、武藏野の片ほとりに、一代の英雄を導いて風流を解せしむるに至つた少女は、そも如何なる素姓の者であつたらうか。さてもゆかしき傳説を有する山吹の里よ。

高田の馬場 向砂利場に近く高田の馬場の舊跡があつて今省線の驛にも其の名を残してゐる(馬場跡は驛から約六町)。赤穂義士の一人堀部安兵衛武庸が、叔父の仇を討つた物語は人のよく知る所。今學習院の中に安兵衛が刀を洗つた池といふのがあるといふ。此の地は昔高田少將忠輝の母堂の遊覧地であつた爲、後年馬場となるに至つても、其の名を冠したものだといふ。

小泉八雲の墓 鬼子母神の東練馬ヶ谷の墓地にある。日に月に殖え行く墓碑の間、千秋萬古北邙の塵を歎じつゝも、我がヘルン小泉八雲は文化史上に永遠に生きてゐることを思ふ時、百年同謝西山日なる人生にも無限の意義を感じる。

尙ほ附近で見るときは、早稲大學に近い穴八幡神社、蟲封じの神とて參詣者の絶える時がない。

## 〔練馬、石神井、野火止〕

(新小金井、長崎富士、練馬城址、石神井水泳場、石神井城址、平林寺、野火止の里、野火止用水)

### 新小金井

池袋から岐れる武蔵野鐵道東長崎驛(池袋の次)前、千川の兩岸二里餘に亘る彩雲美觀たとふるものもない。千川は保谷村上保谷新田から岐れる玉川上水の一分流にして元祿九年の起工、武蔵野村・石神井村・中新井村・長崎村等を経て巢鴨庚申塚の溜池に入るまで、五里餘、以下樋となつて小石川御殿、湯島聖堂、東叡山、淺草御殿等へ引かれた。屢々興廢があつて天明六年以後は單に田の用水にのみ用ひられたものである。

### 長崎富士

東長崎の次驛江戸田から東二町老杉森々たる淺間神社の境内の小高い處の稱で、長崎・練馬・上板橋・中新井等の諸村が一眸に收る。

驛前の武蔵野稻荷はもと瓢箪塚と稱し、先住民の遺蹟であるといふ。境内には白狐が棲

練馬、石神井、野火止附近

息してゐるといふので参詣人が多い。武蔵高等學校は驛から一町餘の處にある。

### 練馬城址

江戸田の次驛練馬驛から西七町、上練馬村向山ヶ谷戸の東北にあつて、石神

井川凹地帯の南方丘陵の一角に據り、東西四十八間南北四十二間、南に馬出しの址あり、北は二十餘尺の崖下石神井川の清流を控へてゐる。

當城は鎌倉の末期元弘の頃石神井城にゐた豊島泰景の弟景村の居城であつたといふ。後文明九年豊島氏が上杉定正に背き、尾長景春に與みして、江戸河越兩城の連絡を絶つに及んで、太田道灌に攻められて四月落城した。城址には草木が心なく生ひ茂つてゐるし、附近は例の練馬大根の畠が限りもなくつゞいて見える。

近頃發見されて有名な穴守辨天は、驛から東北二十五町下練馬にあるから、東上鐵道の上板橋驛からするがよい(赤羽、板橋附近の項参照)。

### 石神井水泳場

練馬の次驛石神井驛から南七町、石神井村上石神井にあつて東京府の直

營である。清冽なる三寶寺池の水を利用し、安全なる静水池が造られてあつて、理想的の

水泳場である。

三寶寺池は昔は方四五町の大きさを有してゐたが、今縮小して東西六十間、南北五十間餘、如何なる久旱にも涸るゝことがないと傳へてゐる。此の水は東に流れて石神井川となり、村の中部を過ぎて遂に板橋に出て、瀧野川の景勝をつくつて源委四里、王子で荒川に注いでゐる。

池畔は風光に富み、池中に中島があつて嚴島神社即ち辨天祠がある(附近にある一萬餘坪のグラウンドも理想的のものである)。

### 石神井城址

三寶寺池の南方丘上自然の地形を利用して造られた不規則な形狀をなして

ゐるが、東西凡二町、南北約一町半、土壘や空堀の跡が諸所に認められる。

當城は桓武天皇から出た秩父平氏の一族たる豊島氏累代の居城址である。豊島清光は保元の亂義朝に従つて功あり、後頼朝舉兵の際其の子葛西清重と共に之に従つて重用せられ爾來豊島氏は此の地方の大勢力となつた。後新田義貞の鎌倉攻に際して之に従つたが、當

## 練馬、石神井、野火止附近

時當城主は泰景、弟景村は練馬に在城した。後文明九年豊島氏は鉢形城に據つて古河公方に應じた長尾景春に與みし、上杉氏に背いたので遂に太田道灌の攻むる所となつて没落した。

尙ほ附近には豊島氏と關係深く、且つ其の過去帳を有する道場寺（豊島山無量院、曹洞宗）や石神井城の鎮守であつたらうと想像される氷川神社や應永元年の創建と傳ふる三寶寺（龜頂山密乘院、新義真言宗）等がある。

又驛から東三町、石神井村谷原にある長命寺は、谷原山妙樂院と號し、新義真言宗に屬する。戰國の頃小田原北條の一族増島勘解由重明が高野山に修行し、讃岐國彌寺谷の大師自作の像を感得して當地に安置し、其の甥重俊が高野山に倣つて諸堂を建立したので、東高野山と稱せらるゝに至つたといふ。境内幽靜、高野山を模して造つた御廟橋・蛇柳等もある。

石神井の次保谷驛の南四町には日蓮宗の妙福寺、同じく北二町には眼病に靈驗ありとい

ふ福泉寺等があり、又同驛からは平林寺及び小金井の櫻に何れも一里の距離である。

## 平林寺

池袋から岐れる東上線膝折驛から西二十八町、埼玉縣北足立郡大和田町大字野火止にあつて川越街道隨一、關東屈指の名刹である。金鳳山と號し、禪宗妙心寺派に屬する。大門より總門に至る間數町の老杉の並木（此の並木の間に櫻樹を點綴してゐて春は殊の外の眺めである）を始めとして六萬坪と稱する境内老木鬱蒼として茂り、多摩川の分流潺々として庭園を流れ幽趣掬すべく、其の間に配置された堂宇結構壯麗にして殊に名刹たる名に恥ぢない。

寺傳によれば當寺は永和元年石院和尚によつて岩槻に開基され、後徳川家康が鐵山和尚に命じて再興せしめたが、松平信綱が川越の城主たるに及んで之を現在の位置に移さんと志あり、信輝に至つて之を決行したといふ。

境内には松平信綱を始め増田長盛等諸名士の墳墓がある。

## 野火止の里

伊勢物語にある「武藏野はけふはなやきそ若草のつまもこもれりわれも籠

練馬、石神井、野火止附近

練馬、石神井、野火止附近

れり」の舊跡は、即ち此の平林寺のある大和田町の大字野火止であるとせられ、今平林寺内の業平塚といふものも亦一名野火止塚と呼ばれてゐる。

### 野火止用水

平林寺の側を過ぐる野火止用水は、北多摩郡小平村小川から岐れる多摩川上水の一分流で、志木町に至つて新河岸町に注ぎ、長さ約六里、沿岸を灌漑してゐる。

昔松平信綱が川越城主たりし時代に、家臣に命じて之を開鑿させたが、三年間水は通じなかつた。併し其の中砂塵が著しく減り、諸菜が今までになく美しく育つて、土中其の潤澤を來したことが知られてゐたが、果して三年後の秋大雨の時、水聲雷の如く響いて、此の水路に漲り、一時に新河岸川に落ちた様は目を驚かす許りであつたといふ。尙ほ池袋驛からの所要時間及び賃金は左の通り。

東長崎驛、九分、七錢。

練馬驛、十八分、十三錢。

石神井驛、三十分、二十一錢。

保谷驛、四十分、二十八錢。

上板橋驛、十六分、十四錢。

膝折驛、三十九分、三十二錢。

### 〔淀橋附近〕

(浄水場、十二社権現、成願寺、明治神宮)

### 浄水場

淀橋といへば浄水場を聯想する。それ程市民の生活に關係の密接な處だ。即ち此處にある浄水場から供給される水で三百萬の市民は生きて行かれるのだから。沈澄池・澁池・浄水池等の設備があつて、羽村から引いて來た多摩上水は漫々として此處に湛へてゐる。かくて清澄な水は全市に供給されて行く。此處の給水は明治三十二年に始り、同三十四年全市に及んだ。工費一千万圓と稱せれる。市民たるもの一度は來觀せねばならぬ處である。

淀橋附近

**十二社權現** 淨水場の土手について青梅街道から左に折れて數町行けば有名な角筈の十二社である。熊野權現の境内に鬱蒼たる木立の中、池あり、瀧あり、川あり、交通の開けなかつた江戸時代には、都人士の納涼の場所として此上ない處であつたが、今はあたら俗化されてしまつた。

でも熊野權現は今郷社として猶ほ城西の一名祠たるを失はない。祭神は伊弉册尊・速玉男命以下十二神で、紀州の熊野權現を勸請したものであるといふ。社傳によれば、應永の頃紀州の人鈴木九郎が此の地に住んで居た時、産土神熊野權現を觀請して尊信したが、後大いに富をなすに至つたので、同十年大いに宮社を造營して十二所の神が悉く備はつたので、社名とするに至つたといふ。後荒廢してゐたのを、享保の頃成願寺奉祀の宮となつて以來稍々舊態に復し、今日に至つたといふ。

市電の新宿或は省線の新宿驛から更に京王電車に乗り、天神橋・神宮裏等で下車すれば僅に數町である。

**成願寺** 十二社を北へ出て、西し、神田上水を渡れば成願寺で、既に此處は中野町字本郷に屬する。昔十二社權現の別當たりし寺。曹洞宗、多寶山と號する。十二社權現を創建した鈴木九郎が其の愛娘の變死を弔ふ爲に其の邸宅を毀して建てたものであるといふ。其の開創の當初建てられたといふ三重塔は今移されて青梅街道の北寶仙寺（新義眞言宗、明王山無動院）の境内にある。

（中野方面については更に項を改めて記述しよう。）

**明治神宮** 十二社・成願寺の歸路を青梅街道口から省線に乗つて原宿で下車すれば、明治神宮南鳥居の前に出る。五箇年の星霜と五百二十二萬圓の巨費とによつて大正九年十月竣成した。現つ神と國民の等しく仰ぎ奉りし明治の大帝、今や神威愈々高く此處に鎮りまして、天長地久此の國土を護らせ給ふことの畏さ。

省線代々木からすれば其の北參道、京王電車神宮裏からすれば其の西參道、市電青山明治神宮前からすれば其の南參道よりすることとなる。

## 三軒茶屋、駒澤附近

尙ほ山の手線新大久保驛に近い躑躅園は古くからの名所、殊に躑躅人形は聞えたものであつたが、近來は日比谷の名に壓されて寂びれた。

## 〔三軒茶屋、駒澤附近〕

(目青不動、松陰神社、幕末志士の墓、豪徳寺、世田ヶ谷城址、園藝學校)

**目青不動** 市内電車を澁谷で下りて、玉川電車に乗つて三軒茶屋で下車する(賃金七錢) 街道を真直に進むと、右側の稍々入り込んだ天台宗、竹園山教學院最勝寺の境内正面の堂内に安置してある。源頼政の守護佛、慈覺大師作と傳へ、木像の立像、今厨子中に藏められてある。元麻布の増長山教解院正善寺にあつたが、明治十五年當時青山元百人町にあつた此の寺に合寺となり、同四十年此の寺が現在の處に移るに伴つて不動尊も亦此處に移つたのである。五色不動の一。教學院は世田ヶ谷町大字太子堂に屬する。

**松陰神社** 目青不動から街道を猶ほも西に進み、道しるべについて右へ行けば神社の前

に出る(世田ヶ谷町大字若林に屬す)。祭神は吉田松陰、無格社ではあるが、祭神の徳を慕ふ人々、殊に附近にある其の墳塋を併せて訪ふ人々四時絶ゆる時がない。

神殿は明治十五年の造營、地は元毛利家の所有に屬し、文久二年高杉晋作等が吉田・頼・小林三士の墓を小塚原から移したのに基づくといふ。

**幕末志士の墓** 松陰神社の側なる松林の中にあつて、右から頼三樹三郎、小林民部少輔、吉田寅次郎、來原良藏、福原乙之進の順序に並んでゐる。尙ほ前方に綿貫治郎助と中谷主亮のとがある。三軒茶屋停留場から此處まで約十五町。又境内に接して桂太郎の墓もある。

**豪徳寺**

松陰神社から小徑を進み烏山用水を渡つて行けば、世田ヶ谷町大字世田ヶ谷の

豪徳寺に達する。此の間約十町、寺は鬱然たる森林に圍まれた一區劃を成してゐる。文明中世田ヶ谷城主吉良左京大夫政忠の伯母弘徳院殿の創建で、開山は昌譽禪師、當初は弘徳院と稱し、臨濟宗に屬したといふ。後天正十二年門庵宗關和尚が今の曹洞宗に改め、寺號

三軒茶屋、駒澤附近



## 三軒茶屋、駒澤附近

を弘徳庵と稱したといふ。寛永十五年彦根藩主井伊直孝が其の附近を下屋敷とするに及んで之を中興して其の菩提寺とした。豪徳寺の寺號は實に直孝の法名人易院豪徳天英居士に基づいてゐる。櫻田門外に斃れた大老直弼の墓がある。寺寶として吉良家系圖、吉良吉央の書簡、井伊直孝大阪出陣中使用したといふ軍扇等を傳へてゐる。

**世田ヶ谷城址** 豪徳寺の東南にあつて雑木や雑草が所得顔に生ひ繁つてゐる。それでも其の間猶ほ土壘や濠の一部や、櫓跡と傳へる高所も認められる。

世田ヶ谷の地は吉良治家が足利持氏から之を受けたと傳へられ、天正十八年には城主氏朝が生實に遁れたことが史に見えてゐる。又享祿三年に上杉朝興が此の城を陥れたことも記されてゐる。今櫓跡に残る櫻は御所櫻と呼ばれたことも舊記に見えて此の附近の大勢力たりしことを想はしめるものがある。

**園藝學校** 三軒茶屋から上馬引澤を経て駒澤停留場に下車すれば、約七町に東京府立園藝學校がある。校内四季の花絶えず、田園の情趣を味ふによい。

## 〔玉川、二子附近〕

(鈴木梅園、玉川遊園、櫻楓園、二子の渡、玉川の鮎漁、久地梅園)

**鈴木梅園** 駒澤の次は新町、次は用賀停留場、鈴木梅園はすぐ前にある。さして廣からぬ庭ながら、木は老木にして雅趣に富み、早春立ち寄るべき處。

**玉川遊園** 用賀停留場から瀬田を過ぎて行けば次は遊園地前、玉川電氣鐵道會社の經營する玉川遊園は西約二町、廣さ約一萬坪、花壇あり、小動物園あり、子供の遊ぶによきグランドあり、設備整へる上、眺望もよい。下には玉川菖蒲園あり、花の頃は一入の趣がある。

**櫻楓園** 遊園地前の次玉川停留場から程近く、多摩川に沿ふ約四十米の臺地にあつて眺望に富む。而も其の名の如く園内櫻楓賞すべく、春は殊によい。

特に園は附近地形の觀望に適し、河道の彎曲、洲、河跡沼等の狀況を實見すべく、且つ

玉川、二子附近

## 玉川、二子附近

玉川停留場附近の瀬田河原・兵庫島遊歩場・二子渡・對岸の諏訪河原・久地梅園一帯の地が一眸に集る。

**二子の渡** 玉川停留場前の渡しが即ち二子の渡しで、河幅六十間餘ある。此のあたりから調布附近にかけては所謂多摩川砂利の本場で、河原は満目河水の運搬して來た砂利で埋つてゐる。而して川の對岸は既に神奈川県に屬する。二子といふのは實は其の對岸橋樑郡高津村の大字二子で、川向四五町の宿である。此の地の二子塚といふものが舊記に見えてゐるが、今は其の石碑があるのみである。

**玉川の鮎漁** 多摩川は由來鮎に名があつて、此の附近から上流調布・立川・羽村・拜島までも其の漁獵があり、夏季涼みがてらに出かける人が非常に多い。殊に二子附近は東京から最も近いので其の客で大變に賑ふ(日本橋から約五里)。鮎漁及び舟遊びに關する費用は凡そ左の如くである。

屋根舟(船頭付) 二三人乗七八圓位。

鶉飼(一組) 人夫三人付一日、十圓位。外に祝儀隨意。

投網 一日 五圓。

友釣 道具料一日、八十錢。

羽網 人夫四人付一日、十五圓位、祝儀隨意。

**久地梅園** 川の對岸二子の料理店龜屋の手前から折れて右へ七八町、高津村大字久地の民家の裏庭にあるものだが、古木が多く、殊に今はない龜戸の臥龍梅に似た姿のものもあつて雅趣掬すべきものがある。徳川時代には屢々將軍の遊覽もあつたといふ。川邊梅林といふ標札が掲げてある。

電車賃、澁谷玉川間片道十九錢、往復三十七錢。

## 〔調布、府中附近〕

(深大寺、深大寺城址、布多天神、玉華園、玉翠園、  
稻田堤の櫻、大國魂神社、國府址、分臨河原)

調布、府中附近

## 調布、府中附近

**概説** 東京市の西郊神田上水と目黒川との間にある臺地の脊梁に通ずる甲州街道は、徳川時代に於ては東海・中仙の兩道に次いで重要視された街道であつた。而して府中の町は此の街道中の重要な宿驛の一であつて、其の東今の調布町即ち古の布田宿も繁昌してゐたものであつた。併し徳川の代には是等の地は重要視されたとはいへ、實は只々其の一宿驛と化し畢つてゐたのであつて、其れ以前に遡れば、其の地位は遙に重大なものであつた。府中の地名の示す如く、實に今の府中の地は武藏の國府であり、その中心をなしてゐたのであつた。而して其の瀕する多摩川は古調布を作り内藏寮に納めたと傳へられてたづくりの多摩川として既に萬葉以來詠歌に入つてゐる。

實に此の地方は多摩川中流の沿岸に位して文化の開発に恵まれた地であつた。而も古く東山道に屬してゐた武藏國が後東海道に編入せられ、相模方面から奥州に通ずる道が開けて以來は其の交通線の要街に當り、殊に鎌倉時代以後徳川の時代以前關東の中心點が相模にあつた時代には、實に其の中心點と奥羽・毛越地方との交通の要地、特に相模と密接な

關係のあつた上野との中間に位して此の地の地形と相俟つて戰略上重大なる地點となるに至り、従つて幾多の重要な史蹟・古戰場・名勝を有してゐるのである。

此の附近には今新宿追分から京王電車が通じてゐるし、其の上中央線からもさして程遠くないから、往復道を變へて兩線の間を徒歩するのも一日の行程としてよい。京王電車新宿からの賃金は片道左の如くである。

柴崎(二十九錢)。調布(同上)。府中(三十七錢)。

**深大寺**

王京電車柴崎停留場から北十五町、(中央線からならば境驛下車)神代村大字深大寺にある武藏野屈指の古刹である。寺は浮岳山昌樂院と號し、今天台宗に屬してゐる。

境内は背後に丘阜を負ひ、老木蒼鬱として繁茂し、清泉湧いて幽邃の趣を加へ、本堂、元三大師堂、庫裡、鐘樓が其の間にある。

寺傳によれば聖武天皇の天平五年の草創、開山は滿功上人、當時は法相宗に屬してゐたが、淳仁天皇の御代勅願所と定められ、後貞觀中國司藏宗郷叛逆の聞えあつた時叡山の惠

## 調布、府中附近

亮和尚が勅を受けて國分寺に來り、調伏の法を行ひ、其の功によつて當寺を賜つたので、天台宗に改宗したといふ。

其の後衰廢に歸してゐたのを、室町の末期世田ヶ谷城主吉良氏が堂宇を再建して寺領を寄附した。江戸時代に入り、正保三年回祿に遇ひ、伽藍悉く烏有に歸したので、今の堂宇は其の後の再建に係るものであるが、當時寺領五十石を領してゐたので、猶ほ見るべきものがある。

寺寶多きが中に金銅釋迦如來像は國寶に列してゐる。

尙ほ寺の背後神代小學校には此の附近から發見された石器時代の古器の藏せらるゝもの多く、附近の道路等からも古器物の發見せられることがあつて、此の附近が石器時代からの開發地たることを如實に物語つてゐる。

**深木寺城址** 寺の南方一町ばかりの俗稱城山にある。東南に突き出た丘陵の先端を占め三方は崖をなし、西方丘陵に連る方面は幅約五間深さ三間の空堀を以て劃せられてゐる。

内外二郭から成り、内郭は東西約三十間、南北五十間、外郭は東西二十八間半、南北約七十七間。東北の崖下には小川が流れてゐる。

城は天文六年上杉朝定が其の本據河越城を目標として北進せんとする北條氏綱の軍を牽制せんとして修築したものであつたが、朝定は天文六年七月十五日氏綱と入間川の右岸三ツ木原(河越の西南約二里)に會戦して敗れ、松山城に遁れ、河越は遂に北條氏に歸した。

**布多天神** 調布町布田にあつて京王電車調布で下車するとすぐ町の中央にある。式内の古社、今郷社である。祭神は少彥名命。もと多摩川の沿岸古天神と稱する地にあつたのを、洪水の憂があるので文明年中此處に移したものである。菅原道眞を配祀したのは後世のことである。社前數株の梅雅趣あり、早春杖を曳く人が少くない。

**玉華園** 調布から約七町、調布町前町長田部氏の經營に係り、園内廣くして花卉に富み又多摩川の風光を眼下に收めて眺望絶佳、此處から河原までは數町、春は紫雲英咲き亂れて興趣が多い。

## 調布、府中附近

## 玉翠園

玉華園から相距る五六町、狛江村字和泉にあつて二千餘坪の園内老木枝を交へて翠綠滴るばかり、多摩の清流近く帯の如く引く彼方、富士秩父の連山遠く連つて風光絶勝。又瑩狩の名所である。

## 稲田堤の櫻

京王電車調布から十五六町、玉華園について多摩川に下るほとり岸に沿つて櫻樹連り四月の中旬彩雲棚引く。稲田とは對岸神奈川縣橋本郡の村の名である。

多摩川調布町のあたりは鮎漁によく、夏季は竿片手に岸を往來する人が多い。附近に矢野口(南多摩郡大字稻城村矢野口)の渡あり、又古墳や板碑が散在してゐる。

## 大國魂神社

調布の町から西一里餘(東京から八里)府中町の府中にあつて、京王電中停留場から數町、甲州街道の南側にある。街道の北側國分寺驛から來る道路(約三十町)に沿ふ二百九十間の馬場大門の老櫓の並木及び一萬三千四百坪の境内の鬱蒼たる古木は相俟つて神域幽邃森嚴の趣を添へてゐる。祭神は武藏大國魂神、舊稱武藏總社六所宮、官幣社(小社)に列せられた際今の名稱に改められた。

當社は景行天皇の四十一年五月五日神託によつて草創せられ、成務天皇の御代天穗日命の裔武藏國造兄多毛比命が親しく大神を祀つてより代々の國造が祭事を掌るに至り、大化改新後此の地に國衙を置かるゝに及んで其の齋場に充てられ、武藏國內の顯著な六社の神を配祀されたので武藏總社六所宮と稱せられたといふ。

殊に此の地は東國交通の要衝たりし爲種々の史實を傳へてゐるものが多く、又武家時代以後其の尊信厚かりし爲神威愈々赫々たるものがあつた。即ち前九年の役には鎮守府將軍頼義其の子義家が出征の途次戰捷を祈つたといひ、頼朝が擧兵の際房總から當國に入つた時當社々前に兵を集めた所忽ち二十八萬餘騎を得たので神馬を獻つて神恩を奉謝したと傳へられてゐる。以後鎌倉時代に社殿造營のこと屢々史乘に見えて其の鎌倉幕府との關係の厚かつたことが知られる。其の後元弘の兵亂に一時此の社も荒廢に歸したが、鎌倉の足利氏小田原の北條氏等の尊信厚く、徳川氏に至り慶長十一年社殿を改築し、關ヶ原大阪兩役大捷後馬場を奉納して櫓を植ゑたのは特に著はれてゐる。

## 調布、府中附近

## 調布、府中附近

毎年五月五日の大祭には参拜者雲集して府中の町は非常に賑ふ。其の深夜消燈中神輿渡御の神事は昔から有名なものである。

攝社末社の數が甚だ多い。

## 國府址

大國魂神社南方の丘(府中本町)にあつて、今大部分畑地と化してゐる。(一部には小松なども植ゑられてゐる)。面積方二町許り、東、北の二方は臺地に連り、西南の二方は斷崖で下に水田を控へ、多摩川原を俯瞰し、又對岸の丘陵を望んで形勝の地。

崖頭に立つて其の樞要無比の地たりし當年を追想すれば感慨無量、時勢と共に變遷する土地の興廢を歎ぜざるを得ないものがある。

## 分陪河原

府中町の西南分梅、下河原・中河原の邊で、大國魂神社から約八町、水田あり、人家あり、一帯の廣い原であつて、屢々萬馬叫喚の地となつたことを回想すれば、史乘を偲ぶの情に堪へない。元弘三年五月十五日新田義貞が北條高時の弟左近大夫將監入道惠性の率ゐた大軍を撃破したことは其の最も重大なるものとして太平記梅松論等に著は

れてゐるが、後永享十年關東管領足利持氏と不和なりし上杉憲實の軍の此處に陣したこと、康正元年足利成氏と上杉房顯とが此處に戦つて上杉勢の敗走したこと、永享四年上杉謙信が北條氏の家人中條出羽守の軍を襲つたこと等多くの史實を傳へてゐて、當時此の地方が戰略家から如何に重大視されたかを知るに餘りある。實に關東に於ける屈指の古戰場である。

淙々たる多摩の水流、河原に咲く無心の待宵草、何れ興亡のあはれを語らぬものはない附近の天王森の左右に首塚胴塚等當時の戦死者を葬つた處がある。

此の附近は今螢狩の名所となつてゐる。此處から關戸の渡を渡れば、眺望で聞えた百草園は十町餘である。(立川、日野附近の項参照)

以上の外府中の町には武藏國造を葬つたと稱せられる天神山、貞觀中の開創と稱する妙光院(新義眞言宗、本覺山眞如寺)、慈覺大師の創建と傳ふる安養寺(天台宗、叡光山)、藤原秀郷の開基と傳へ、足利尊氏の中興に係る高安寺(曹洞宗、龍門山等持院)等見るべきも

## 調布、府中附近

## 中野、井の頭、國分寺附近

のが少くない。

尙ほ京王電車下高井戸停留場から北約三町の吉田園は、吉田甚五郎氏の所有、丘あり谷あり、池あり、瀧あり、廣き運動場等もあつて散策によい。

## 〔中野、井の頭、國分寺附近〕

(新井白石の墓、妙法寺、電信隊營、新井薬師、  
哲學堂、井の頭公園、小金井の櫻、國分寺)

**新井白石の墓** 中央本線電車驛東中野から近い中野町大塚の高徳寺内にある。寺は新井山寶喜院と號する。もと淺草にあつたが數年前此の地に移された。新井源公之墓と鑄られたさゝやかな石塔は、源公夫人日氏之墓とある同様の石塔と並んで立つてゐて、何等人目を惹くに足るものはないが、無比の碩學として二百年後の今日我が文化史の上に愈々異彩を放つてゐるのを思へば、只々敬虔の念に充つるのみである。

**妙法寺**

中野驛から南西二十二町、豊多摩郡和田堀之内村にあつて近郊に於ける池上に次ぐ日蓮宗の名刹、徳川時代からの流行佛である。寺は日圓山と號し、身延派に屬してゐる。

明和六年の火災に舊記を失つて沿革は詳かでないが、もと眞言宗に屬してゐたのを、元和の頃日蓮宗に改宗して妙仙院日圓が開基となつたといふ。境内廣濶堂宇壯麗、古くからの流行佛たる實を示してゐる。

御祖師様として信仰の中心となつてゐる日蓮上人の像は、曾て上人が伊豆配流の際に、高弟日朗が之を刻し、由井ヶ濱邊で、日夜上人の安全を祈念したが、上人赦免に遇うた時は四十二歳であつたので、自ら之に點眼し厄除の號を與へたので、厄除祖師と呼ばれて世人の信仰が厚いといふ。

而して此の像は元祿の頃碑文谷の妙法華寺から當所に移されたのだといふ。

毎年八月の法華千部會、十月の會式、新年の初開帳等には參詣者引きも切らず、廣い境

中野、井の頭、國分寺附近

## 中野、井の頭、國分寺附近

内も立錐の餘地がない程となる。

江戸時代には數町續いてゐたといふ門前町は、今さびれた部分もあるとはいへ、年中絶えぬ參詣者に名物煎餅や漬物等を鬻いでなかく賑うてゐる。

妙法寺から南方にある郷社大宮八幡は、源満仲始めて此處に奉祀し、以後源家の信仰厚かりし社と傳へ、廣い境内物さびて神々しさいふべくもない。

電信隊營 中野驛の北數町にあつて、高く聳ゆる無線電信塔、宏壯なる營舎に間はすしてそれと知られる。此處に交通旅團司令部がある。

新井藥師 驛から北十二町、豊多摩郡野方村新井にあつて妙法寺と一里を隔てゝ相對し亦流行佛である。

寺は松高山梅照院と號し、新義眞言宗に屬してゐる。天正年間の開創、僧行春の開基、第六世朝曇の中興と稱する。本尊藥師如來は坐像の石佛、子育藥師と稱せられ、又眼病に靈驗ありとて參詣者が常に絶えない。

門前の茶店はそれに伴うていつも繁昌してゐるが、殊に栗飯の頃は客で一杯である。

哲學堂 新井の藥師から更に北數町、豊多摩郡大字江古田小字和田山(和田義盛の館址)にあつて、妙正寺川に臨む丘陵を占め眺望が佳い。故井上圓了氏が明治三十七年哲學館大學認可の記念として四聖堂を建設され、その後之を精神修養的公園となさんとして經營されたもので、事々物々皆哲學上の名稱を附してある。孔子・釋迦・ソクラテス・カントを奉崇する四聖堂、聖徳太子・菅公・莊子・朱子・龍樹大士・迦毘羅仙を奉崇する六賢堂、平田篤胤・林羅山・釋凝然を奉崇する三學亭及び陳列所讀書堂等あり、庭内は毎日、四聖堂・六賢堂・陳列所は土曜日大祭日に限つて入場を許され、圖書館は三月から十一月の毎日曜に限つて閱覽を許される。

尙ほ野方町字上高田の萬昌院には吉良良央の墓がある。

井の頭公園 中央線中野附近以西立川に至る十數哩の間は殆ど少しのカーブもなく一路武藏野の中を直線に進行する愉快さ、とても他に味へないものがある。中野の次は吉祥寺

中野、井の頭、國分寺附近



## 中野・井の頭、國分寺附近

驛（此の間電車驛は高圓寺・阿佐ヶ谷・荻窪・西荻窪の四驛がある）、井の頭公園は驛から南三町、北豊多摩郡武蔵野村吉祥寺及び三鷹村牟禮に屬し、面積八萬二千坪、もと御料地であつたのを大正二年東京市に下賜せられたもので、俗に恩賜公園と稱する。市の經營成り開園したのは同六年五月であつた。

西方には御殿山と稱する方四町の丘（徳川の初期放鷹の際使用する其の殿舎があつた故に此の名がある）があり、蒼鬱たる林相が甚だ美である。而して其の麓の凹地に清泉が湧出して此處に廣さ約一萬四千坪の所謂井の頭の池を湛へてゐる。池は西北から東南にかけてY字形をなし、周回凡そ十四五町に及んでゐる。西北端に小島があつて辨財天を祀る。而して清冽なる此の池水は其の東南端から流れ出して所謂神田上水の源をなしてゐる。さてこそ井の頭の名も起つたのだといふ。

神田上水は此處から高井戸村・和田堀ノ内村・中野・淀橋・戸塚を經、小石川關口町の大洗堰に至り、左右に分れ、一は江戸川となり、一は關口臺町、關口駒井町等を経て砲兵工廠

に入つてゐる。此の長さ五里二十六町。昔は今の砲兵工廠即ち當時の水戸家の邸から更に神田猿樂町に入り、神田日本橋の兩區に及んでゐた。此の上水は天正十八年徳川家康が久保忠行に命じて引いたものであると稱せられてゐる。

尙ほ井の頭池畔に於ては其の水を利用して水泳場が造られてあつて夏季は此處で泳ぐ人が多い。

池中の辨財天は緣起によれば傳教大師の作、天慶年間源經基の奉安、従前の社殿は寛永十三年の建立と稱してゐたが、大正十三年四月二十五日火を失して焼失した。

辨天堂前の丘上にある大盛寺（明靜山圓光院、天台宗深大寺末）は舊辨天社の別當、建久八年源頼朝の創建と傳へられてゐる。徳川家康水試の茶臼といふものを藏してゐる。

池畔はかく種々の風物を添へて四時の眺め面白く、特に躑躅と紅葉との頃は一段の美趣がある。而も池中のトゲウチ、附近の高山植物に類する珍草等、博物學上の研究材料にも富んでゐる。（深大寺は此處から西南約一里である）

## 中野、井の頭、國分寺附近

## 中野、井の頭、國分寺附近

小金井の櫻 御殿山の西南を流るゝ水流は玉川上水であつて小金井の櫻とは此の少し上流境驛から小金井を經、國分寺驛に至る間約二里の長堤の花を稱するのである。

玉川上水は西多摩郡西多摩村大字羽村玉川附の多摩川の東北岸に閘門を設けて、多摩川の水を分流し、西多摩村・福生村・熊川村・砂川村を經、小平村に於て野火止用水を分ち、小金井村・武藏野村・三鷹村・高井戸村・松澤村・和田堀ノ内村・世田ヶ谷町・代々幡町を經て淀橋淨水場に入り、長さ約十里三十一町四十六間に達する。

此の上水は其の初承應二年幕府が伊奈忠克を奉行とし、芝口の町人庄右衛門・清右衛門の二人をして之を請負はしめたもので、翌三年六月竣工した。その後屢々改修し、今の水路は明治に至り和田堀の内村の代田から淨水場に至る間を新に開鑿したものである（徳川時代には新宿から江戸城を始め各所に引かれてゐた）。

此の上水の兩岸に植ゑられた小金井の櫻は、殖産興業に熱心であつた彼の八代將軍吉宗の享保中、多摩川村の名主川崎定右衛門が幕命を受けて吉野や常陸櫻川（結城・下館・笠間

附近の項参照）から移植したといふ。小金井橋から喜平橋の附近に至れば老幹枝を交へ四邊の野趣を添へて小金井の花の特色を十分味ふことが出来る。

花期は四月中旬から二十五日頃まで。

吉祥寺に下車して徒歩國分寺に至れば最も理想的である。境驛からは上水堤まで十町、國分寺驛からは同じく十五町、花期には臨時列車も増發され、又汽車は小金井にも停車する。其の上東京驛から國分寺までは省線電車あり、約三十分毎に運轉してゐる。尙ほ東京驛からの電車所要時間及び賃金は左の如くである。

東中野 三十六分、 十五錢。

中野 四十分、 十九錢。

吉祥寺 五十六分、 三十錢。

境 一時一分半、 三十五錢。

國分寺 一時七分半、 四十六錢。

中野、井の頭、國分寺附近

中野、井の頭、國分寺附近

### 國分寺

國分寺驛から西南十町餘、國分寺村大字國分寺にあつて、醫王山最勝院と號し新義眞言宗に屬してゐる。聖武天皇の天平十三年勅して國毎に置かれた國分寺の一、之が實に武藏國のそれであつたことはいふまでもない。

而して奈良朝の昔國々教化の中心として設けられた宏大な國分寺の多くが、比較的早く衰廢に歸したが中に、此の國分寺が平安時代鎌倉時代にも猶ほ其の勢力を維持してゐたことは、延喜式東鑑等によつても知られるので、傳説によれば、元弘の兵燹以來荒廢して今日昔の面影の見るべきものなしとはいへ、猶ほ、後世の築造に係る樓門本堂、仁王門、藥師堂等を有し、殊に國寶たる藥師瑠璃光如來（藥師堂安置、傳行基作）を始め、應永の修造若しくは造立と稱せらるゝ十二神將・日光佛月光佛等の諸像を傳ふることは、兼ねて其の寺運の永く維持せられたことを語るもので、彼の武州の中心として永く其の地位を保つてゐた府中と其の興廢を共にしてゐるかを想はしめるものがある。

丘上の藥師堂附近及び丘下の彼處此處、金堂・講堂・塔等の跡と推定せられる礎石の散在

するあり、又散在する布目瓦の破片殊に本堂に藏する完全なる瓦、まして郡名・郷名・氏名等あるもの等を觀れば、奈良朝に於ける國家的佛教の勢力、大陸文化の波及等に言ひ知れぬ興味をそゝられる。

此處から南すれば約二十町にして府中町に達すべく、大國魂神社馬場大門の並木は千年の縁を誇り、此の街道が樞要の地位にありしを語るに似てゐる。

### 〔東村山、所澤附近〕

（貯水池、元弘戦死者の碑、悲田所址、小手指原、北野天神社、勝樂寺、山口觀音）

### 概説

新しく出來た大貯水池、又それを中心とする大公園に名の出た東村山村、村山併に三富甘藷に著はれ、近くは飛行學校で發展の著しい所澤の町、現在見るべきものが多い上に、此の地方はまた共に茶ではされた狭山の地―武藏野西部の一角に横はる東西三里南北一里の丘陵―の東麓に當り、昔の鎌倉街道に當つて鎌倉室町兩時代に屬する史蹟

東村山、所澤附近

## 東村山、所澤附近

を多く有してゐる、而して現在國分寺から分岐して川越に至る川越線の過ぐるあり、又池袋から岐れて飯能に至る武蔵野鐵道の通するあり、探勝の便宜も多い。

## 貯水池

將來益々發展すべき大東京の市民を養ふべく新に築造された貯水池は、川越線東村山驛から西二十七町、徒歩四十分、自動車もある。多摩川の水を引き入れ山裾から山裾の間を利用して漫々湛へた上下の貯水池は周回させて三里、實に武蔵野の一偉觀である。池畔は雑木・松・檜等の林を繞らし、而も此處に四間幅の道路を設けて遊覽に便にし、森と水との大公園をなしてゐる。而して貯水池から浄水場に落つる水路急下場の落差は水力電氣四千キロに利用されて浄水場の壓力送水モーターを動かす設備となつてゐる。池畔を監視する五馬力二十人乗りの發動船を備へてあるのもすばらしい。その他種々の施設到底他の追従を許さぬ大かよりの物である。

## 元弘戦死者の碑

東村山驛から東すれば大字久米川で、同名の川が流れてゐる。實に元弘三年五月義貞が鎌倉に向ふ途次北條氏の軍を破つた古戰場である。此處から僅か足を

運べば同村大字野口の徳藏寺(福壽山、曹洞宗)に到る。驛から十町許りである。此の境内に今國寶たる有名な元弘戦死者の板碑がある。即ち義貞の鎌倉打入に際し之に従つて戦死した飽間齋藤氏三士の供養塔で、其の二人は「於武州府中五月十五日令打死」とあり、他の一人は「於相州村岡十八日討死」とあつて、實に當時新田軍の行動を知るべき貴重な資料となるものである。

此の塔はもと寺の西北なる將軍塚(新田義貞が此處に陣して軍を指揮したといふ)附近にあつたのを後此處に移したものであるといふ。

## 悲田所跡

東村山驛の次は川越線と武蔵野鐵道との交叉點たる所澤、廣い敷地を有する飛行學校や我が航空界最初の犠牲者木村・徳田兩中尉の記念像、新光寺、北條氏照の墓等見るべきものもある。

悲田所址は東南武蔵野鐵道東久留米驛から西六町、字笹塚にあつて、今附近に瓦の破片が多く散在してゐる。交通に不便な時代、殊更茫漠たる武蔵の曠野、行路の困難は更なり

## 東村山、所澤附近

## 東村山、所澤附近

宿るべき殿舎もなくしてなやむ人、或は病に罹つて苦しむ人々の多い爲、武藏介從五位下當宗宿禰家主以下六人の者が多摩郡と入間郡との境に悲田所を置き、宿舍五宇を建て、各々公廨の一部を割き、之を人々に貸し付け、其の利息を以て悲田所の費用に充てんことを願ひ出で、許され、之が爲に救はれた者が多かつたといふ。

## 小手指原

武藏野鐵道所澤の次は西所澤、次は三ヶ島村、此の兩驛の間、即ち狭山丘陵北麓の東部、入間郡小手指村の地は即ち有名な古戰場小手指原である。其の第一は久米川の戦と共に太平記に見ゆる義貞の鎌倉攻途上の會戦、其の第二は同じく太平記にある建武二年北條時行と足利軍との合戦、其の第三は正平七年宗良親王・新田義宗の軍と曾氏との合戦である。干戈の響絶え果てて、雑木林のほとり、秋草の所得顔なるも感懐深い。

## 北野天神社

西所澤驛から西十八町、小手指村大字北野にある縣社、式内物部天神社が之であるといふ。日本武尊東征の際物部天神・國謂地祇二社を祀られ、北野天神は一條天里の御代菅公五世の孫修成が勅命によつて勸請したものであるといふ。前田利家が當社

再建の際植ゑたといふ大納言梅、家康の植ゑたといふ絲櫻等の名木がある。

附近に八州の山を觀望すべき八國山、躑躅によい荒幡の新富士等の名所がある。

## 勝樂寺

三ヶ島驛から南一里餘、狭山丘陵の内部山口村大字勝樂寺にある。王辰爾山佛藏院と號し、新義真言宗に屬してゐる。高麗の歸化人王辰爾（敏達天皇の元年高麗の上つた表疏を讀んだと日本書紀に見ゆる人）を開祖とすと稱し、其の墓もあるが、惜しいかな

江戸時代の火災に衰廢し、今尋ねべき資料もない。

## 山口觀音

勝樂寺から東十二町、山口村大字上山口にあつて、所澤驛からすれば西南約二十四五町である。寺は吾庵山金乘院眞光寺と號し、新義真言宗に屬してゐる。本尊千手觀音は行基僧正の作、開山は弘法大師と傳へ、慶長七年の建立と稱する堂宇は附近では最も見るべきものである。

寺背の高地に登れば、例の狭山丘陵南麓の東部を占むる貯水池が脚下にあつて、甚だ眺望が佳い。

## 東村山、所澤附近

## 飯能附近

尙ほ丘陵の北麓宮寺村に狭山茶場碑があつて、三ヶ島村驛から西南三十三町に位してゐる。

所澤驛、池袋から一時十二分、四十八錢。

西所澤驛、同じく一時二十分、五十二錢。

三ヶ島村驛、同じく一時三十一分、六十一錢。

## 〔飯能附近〕

(天覽山、能仁寺、多峰主山、  
入間川の鮎漁、高麗郷)

**天覽山** 秩父街道に當り、養蠶機業で知られてゐる飯能の町は、秩父の連峯を背景とし入間川の上流たる名栗川を控へて風光明媚の地である。特に町の西北に峙つ天覽山(標高九十四米)は眺望の雄大を以て聞えてゐる。

武蔵野鐵道の終點飯能驛から十三町、頂上まで二十餘町、奇岩峙ち老松蟠踞する間、十

六羅漢の石像を安置し、もと羅漢山と稱したが、明治十六年近衛の特別演習に際し、明治天皇此に御登攀あらせられ、其の戦況を叙覽あつて以來今の名に改むるに至つた。名栗の清流脚下を洗ひ、武蔵野の曠原茫漠として天に接してゐる。

**能仁寺** 天覽山の南麓にあつて武陽山と號し、曹洞宗に屬してゐる。舊領主中山氏の菩提寺、上野の寛永寺と關係が深かつた爲彰義隊の敗兵が籠つたので、世に聞えてゐる。寺は當時兵燹に罹つて烏有に歸し、唯公辨法親王の筆に成る門額のみが災禍を免れたといふ。

従つて今堂宇の見るべきものはない。

**多峰主山** 天覽山の背後に聳ゆる山で、驛から十八町、標高二百七十一米、眺望更に雄大である。

飯能の町と東入間川町との間(約二里)には鐵道馬車があつて、約一時間にして達する。

**入間川の鮎漁** 入間川は荒川と共に夙に鮎に名がある。近來多摩川が濫獲の結果鮎が滅

少したのに反し、此の川は漁獲高が年々豊富なので出かける人が多い。東武線田面驛にも漁場はあるが、飯能附近は上流に位し、風色にも富むので更に勝れてゐる。一網七圓五十錢位。

### 高麗郷

飯能から北一里高麗村本郷を含む高麗村及び其の附近の高麗川村及び高萩村等の地は和名抄に所謂高麗郡高麗郷であつて、續紀(靈龜二年)に以駿河甲斐相摸上總下總常陸下野七國高麗人千七百九十九人遷于武藏國置高麗郡焉とある其の地である。従つて高麗川・高麗峠を始めとして今猶ほ其の遺蹟を傳ふるものが多い。

中にも高麗王を祀ると稱する高麗大宮(高麗村大字新堀)は附近の大祠として著はれ、又高麗山勝樂寺と號する聖天院は舊記に所謂高麗寺なるべしと稱せられてゐて、我が往古の殖民政策と、近時に於ける海外發展の狀とを彼此思ひ較べて、轉々今昔の感に堪へないものがある。

飯能驛、池袋から二時五分、八十三錢。

旅館—港屋、金子屋、石田屋。

## 〔川越、入間川附近〕

(堀兼の井、川越城址、喜多院、蓮馨寺)

### 堀兼の井

川越線所澤の次驛入會から東北約半里、堀兼村の淺間神社の境内にあるものがそれであると稱せられ、今其の傍に寶永五年と天保十三年との碑が建つてゐる。日本武尊が堀らせられたといふ傳説から、貫之の「はるる」と思ひこそやれ武藏野のほりかねの井に野寺あるてふ」を始めとして世々の歌枕にのれる堀兼の井といふものを之とするについては、學者の間に疑問とされてゐる處であるが、兎に角有名な傳説地として面白いもの

### 川越城址

川越線の終點、東上鐵道沿線第一の都邑、川越電車の終點として四通八達の要路にあり、川越絹に川越芋に物資の集散盛に行はれ、人口二萬五千を擁して今埼玉縣第

川越、入間川附近

一の都邑として立つてゐる川越の町の繁昌は、其の由つ来る所が久しいものだ。

昔の北國街道は此處から北は坂戸鉢形を経て前橋に通じ、南は入間から府中に通じてゐた。そして道路は今でも此處から放線形に各所に通じてゐる。戦國時代に此處を要地として城塞が築かれ、上杉氏が之を根據として防禦線を張り、後北條氏が亦之を抜くべく努力したのも誠に理であつた。

降つて徳川氏の時代に於ても此の地を特に重要視してゐたことは、其の此に封するものが毎に其の譜代の重臣であつたに徴しても明らかである。

川越城は長祿元年道灌の父太田賢清が築いたと稱せられ、或は又文明元年道灌が築いたとも稱せられてゐるが、兎に角當時扇ヶ谷上杉家にとつては江戸・岩槻と共に最も重要なものであつた。然るに多年の内訌によつて衰へた上杉氏は次第に新興の大勢力北條氏に壓迫され、遂に天文六年扇ヶ谷朝定は北條氏綱の爲に此の根據を奪はれて松山城に逃れた。その後兩上杉氏は古河公方と合體して其の回復を計つたが、却つて氏康の爲に敗られ、又

松山・鉢形の兩城をもおとされて、關東は北條氏の勢力の下に立つに至つた。

徳川氏に至り、寛永十六年松平信綱が此に封せられて大いに城郭を修築し、西を首とし本丸・二丸・三丸・外曲輪・田曲輪・新曲輪と分れ、三の樓臺、十二の城門が備つてゐたといふ。

今城址には中學校等があるが、猶ほ昔の富士見櫓跡にある御嶽權現の附近には濠や土居の跡が明らかに認められる。

縣社三芳野神社(祭神、素戔鳴尊・奇稻田姫)の所在地は元本丸の東外に當つてゐる。

尙ほ城址の北方にある郷社氷川神社は、或は入間郡式内三祠の一ならんかと稱せられ、町の總鎮守として崇敬されてゐる。

喜多院 城址の南方小仙波にあつて川越鐵道の驛から東約七八町。天台宗の古刹、徳川時代に寺運隆々たりし巨刹として城址と共に是非とも訪はねばならぬものである。

三方堀を繞らし老杉森々たる寺域に、徳川時代寺田七百石を領し、四萬四千坪と稱する



## 川越、入間川附近

境内に善美を盡した殿堂の光り輝いてゐた有様が先づ偲ばれる。

天長七年慈覺大師の創建と傳へてゐる。度々兵燹に罹り、盛衰があつたが、家康と關係の深かつた天海僧正が住するに至つて頓に勢焰揚つた。

もと東叡山と號したが、後江戸の寛永寺に之を附して星野山無量壽寺と號した。

寺寶多きが中に狩野吉信筆職人繪盡屏風、家光寄附橋友成作太刀、正安二年三月の銘ある銅鐘(多寶塔にある)は國寶に列してゐる。

又境内に續く東照宮には有名な國寶岩佐又兵衛筆三十六歌仙の額がある。

**蓮馨寺** 川越鐵道の驛から北約四五町、連雀町にある。孤峯山寶池院と號し、淨土宗に屬してゐる。關東十八檀林の一、永祿年間の草創、開山は鎮連社感譽上人存貞願故和尚と傳ふ。江戸時代の寺領は二十石。

池袋川越間、一時二十八分、七十錢。

尙ほ川越の次驛的場で下車すれば、驛の北入間川に鮎漁の設備がある。

## 〔坂戸、松山附近〕

(岩殿山、新月の瀬、吉見の百穴、松山城址)

**岩殿山** 東上線川越線の次は岩殿山、次は北國街道の驛として聞えた坂戸の町、岩殿山は此處から北西約一里半、比企郡高坂村にあつて標高百三十餘米、夙に眺望を以て聞えてゐる。

山上には正法寺觀音があり、其の本尊は約千五百年前、逸海法師が草庵に安置したものだといふ。が、永祿十年九月松山城落城の際兵燹に罹つて古記録殿堂烏有に歸して縁起は不明であるといふ。

觀音堂の後の小丘物見山から見下せば、關東平野の茫漠として連るところ、遠くは赤城妙義・筑波の諸峯それと指點すべく、近くは秩父の連山波の如く起伏し、脚下には高麗越邊の二川帯の如く引いて、亦獨得の視望を有してゐる。山側の九十九谷亦偉觀たるを失は

坂戸、松山附近

す躑躅紅葉共に賞すべきものがある。

**新月の瀬** 東武鐵道坂戸驛から西四里の越生町から西北更に一里梅園村大字津久根の地がそれである。全村悉く梅、而も越邊の溪流山谷の間を過ぎて山水の美を併せ、梅林として近郊第一に居るもの。坂戸越生間には日に數回馬車の往復がある。

**吉見の百穴** 坂戸の次は高坂、次は武州松山、有名な百穴見物は此處で下車する。松山の町から東十町餘、比企郡西吉見村大字南吉見の砂岩質の丘陵の半腹に、幾段にも亘つて規則正しく排列した二百三十七の横穴である。内部の廣さ大きなのは大抵二間四方位、高さは大人の身丈を容るゝ位である。此の穴の発見は明治三年にあつて、降雨の際鐵瓶大の穴口の露出したのに基づくといふ。後同六年和蘭人シールボルド氏が探検して矢の根・小刀等を発見したといふ。下つて同二十年故坪井正五郎博士が大々的に開鑿し、前記二百三十七の穴を発見して學界に發表せられてから、吉見の百穴として喧傳せらるゝに至つた。(當時其の内部から祝部土器・金環・銀環及び遺骨等を発見し、附近から埴輪をも發掘された。)

此の穴については、或は穴居の跡と稱せられ(坪井博士は此の説を主張してゐる)、或は埋葬の墳とせられ、或は倉庫と稱せられてゐるが、兎に角人類社會の發達史上に残してゐる好箇の資料である。前人の靈魂去つて既に幾千歳、此の遺跡に對して呼べども應へるものはないが、祖先の生活を今猶ほ目のあたり見る心地がして彷徨去るに忍び難いものがある。由來關東平野は最も先住民の遺蹟遺物を多く殘存してゐる地方であるが、中にも此の遺蹟は特に珍とすべきものである。

**松山城址** 百穴から左手に見える丘が即ち松山城址である。平野に突起した丘陵の突角岩室山に據つて築かれたものであつて前方は入間・足立の平野を瞰下し、脚下には市川の流を繞らし、稍々隔たつては荒川を控へて要害の地、今猶ほ郭の跡等歴然たるものがある。

城は戰國時代上杉氏に屬して實に川越城の後壘たりしもの、後北條氏・上杉氏等之に據り、天正十八年秀吉の小田原征伐の際其の手に歸し、徳川氏の治下に入るや松平家廣此に

## 立川、日野附近

封ぜられ、慶長七年其の濱松に移封せらるゝに及んで廢城となつた。松杉鬱々として擅に繁り、市川の流れ舊に依つて麓を洗ひ、漫に戰國の史乘を語つてゐる。

城址の下にはもと此の城下町として發達した松山の町が展開してゐる。江戸時代には、江戸から中仙道熊谷及び西上州への往還、人馬繼立の間道として當時四百餘の民家があつたと傳へられるが、今人口七千餘を算するに過ぎない。

高崎線鴻巣は此處から東二里半、松山との間には自動車も馬車も人力車もある。

## 〔立川、日野附近〕

(普濟寺、多摩川の鮎、谷保天満宮、高橋不動、百草園、關戸の渡)

普濟寺 中央線國分寺の次は青梅鐵道の分岐點たる立川である。此のあたりは戰國時代に於ける武藏七黨の一たる立川氏の郷邑で、普濟寺は實に其の菩提所であつた。寺は驛から西南十町、多摩川北岸の武藏野臺地の一端にあつて近く多摩川を俯瞰し、又關東山脈

の連山の彼方に富士を望んで眺望快潤、立川氏本據の地たりしといふのもさもこそと思はれる。

玄武山と號し、臨濟宗延長寺派に屬してゐる。寺傳によれば、立川宗恒が正平中鎌倉建長寺の物外和尚を招請して開山としたといふ。其の後多くの門末塔頭を有するに至つたが立川宮内少輔照重に至り小田原北條氏と共に滅亡し、當寺も衰微するに至つたといふ。今境内に照重の築いたといふ土居及び堀跡を残してゐる。

又境内に有名な六面塔がある。高さ五尺二寸、幅一尺四寸、用材は秩父石、同質の臺石及び笠石があり、二王及び四天王を浮彫とし、延文六年辛丑七月六日施財性了立道圓刊の銘が刻してあるが、手法雄健、當時代の彫刻の様式を遺憾なく發揮したもので、物外和尚の木像(坐像)と共に國寶となつてゐる。此の外境内には、附近なる立川宮内の首塚と稱するものゝ邊から明治初年に發掘した板碑が七、八十基あつて、其の最も古きものは文永に屬してゐる。

## 立川、日野附近

## 立川、日野附近

尙ほ普濟寺から多摩川の下流、日野渡より萬願寺の渡にかけた川原は古戦場で、永正元年上杉(扇谷)朝良と上杉(山内)顯定とが戦つた地である。

**多摩川の鮎** 立川の附近はまた鮎漁によく、驛前に中村亭、塚善等案内所があり、又漁場(驛から十五町)にも案内所がある。

**谷保三満宮** 驛の東南一里十町、谷保町にある。社傳によれば菅原道眞の三男にして武藏分倍 莊栗原郷に配流された道武が、父の太宰府に死せしを聞いて追慕に堪へず、道眞の坐像を彫んで祠を建てたが、後現在の地に移されて、後宇多天皇の時天満宮の勅額を賜つた。今道武をも合祀すと。老杉森々として物さびた境内、九百餘坪に亘る梅林に春は清香がたゞようてゐる。

**高幡不動** 立川驛を發して多摩川の鐵橋を渡れば、やはり鮎漁で都人士の遊ぶ日野町に着く。(普濟寺からなれば、日野の渡を経て徒歩十數町の道である)驛から東南に進むこと約二十町、高尾山の琵琶瀧から發する淺川に架した高幡橋を渡れば、地は七生村大字高幡

で、數町にして不動堂がある。

寺は高幡山明王院金剛寺と號し、新義真言宗に屬してゐる。大寶以前の開創と傳へ、弘法・慈覺兩大師相次いで之を再興し、屢々勅願所となつたといふ。弘法大師の作と傳ふる本尊丈餘の不動明王坐像は威靈あたりを拂うてゐる。「康永元年六月廿八日修復功畢」と背後に記されてゐるのを見ても、其の古きを知るべく、又堂に掛けられた鰯口には、文永十年癸酉五月二十日の銘があつて古來名がある。

又境内には貞永六年及び嘉吉元年の板碑あり、堂後には八幡社がある。

**百草園** 不動から多摩川南岸、丘陵の下を通ずる街道を更に進むこと約二十町で、七生村大字百草の百草園に達する。今は廢寺となつたが、もと慈岳山松蓮壽昌禪寺と號した黄檗宗の名刹の跡、風に眺望を以て聞えた處である。今横濱の青木氏の所有に歸し、遊園地とされてゐる。

多摩川の清流脚下を洗ひ、兩毛秩父の翠黛より東北に連る武藏野の遠望、頓に氣宇の濶

## 立川、日野附近

## 立川、日野附近

大するのを覚える。

園の西隣には、もと松蓮寺奉祀の宮にして今郷社たる八幡神社がある。

**關戸の渡** 百草園から多摩川の下流十町餘、南多摩郡多摩村大字關戸にある。此の地は古の鎌倉街道の一驛で、此の渡は實に其の街道の主要な渡津として戦略上亦重要視された處である。太平記に「義貞數箇所の戦に打勝ち給ひぬと聞えしかば、東國八箇國の武士共願ひ付く事雲霞の如く、關戸に一日逗留ありて、軍勢の着到つけられけるに、六十萬七千餘騎とぞ注しける」と見えてゐる。

此の渡を渡れば、對岸は例の分限河原で、府中の町もすぐ其處、京王電車の驛まで百草園から約一里餘の道で、歸路を此に取るのも面白からう。

立川驛、東京より一時三十分、六十一錢。

日野驛、同じく一時三十八分、六十六錢。

## 〔羽村、青梅、日向和田附近〕

(瀧山城址、多摩川の鮎、北斗山、吉野の梅林、御嶽、鐘乳洞)

**瀧山城址**

立川から分岐する青梅線電車立川の次々驛拜島下車、途中大日堂を拜し、渡船によつて多摩川を渡れば、對岸は南多摩郡加佐村で、城址は其の大字瀧山にあり、拜島驛から南東十七町に當つてゐる。

多摩川を脚下に控へて懸崖峭立、廣漠たる武藏野を大觀して頗る眺望に富んでゐる。本丸を始めとして數郭に分れた規模の猶ほ明らかに認めらるゝものあり、雄大なる山城たりしことが知られる。

城はもと北條氏照が甲斐の武田氏に對する北條氏の前衛として據つてゐた處で、後天正六年氏照が八王子に移つて以來廢城となつたが、甲陽軍鑑によれば永祿十二年武田信玄此處に來攻して拜島に陣し、勝頼自ら陣頭に立つて大いに戦つたが、氏照よく防戦して武田

羽村、青梅、日向和田附近

羽村、青梅、日向和田附近

氏は終に之を抜くことが出来なかつたといふ。

**多摩川の鮎** 拜島の次は福生、次は羽村、此のあたり亦鮎漁によく、羽村驛前の門松屋は其の案内をする。

羽村驛から南三町に東京市上水道の堰がある。

### 北斗山

羽村から小作驛を過ぎて行けば青梅綿に名を得た青梅町、平将門が建てたといふ青梅山金剛寺境内の老梅が青梅の地名を起すに至つたといふ木である。北斗山は一名金比羅山。驛から數町坂を上げれば小祠あり、此處から多摩川の溪谷、武藏平野、八王子附近の連丘、甲相の諸峰等を望む風光は頗る美である。

驛から南西八町多摩川に架した萬年橋の附近は溪谷奇趣に富んでゐる。

### 吉野の梅林

青梅の次驛宮ノ平の次は、日向和田、次は二俣尾(三田村に屬す)、吉野の梅林は後の二驛何れからしてもよい。多摩川の南岸、其の溪谷に臨む吉野村の民屋、家として梅樹あらざるはなく、天然の大梅林を成してゐる。小高き山上に登つて見下せば、一

村梅花に埋れて、淵となり瀬となる多摩の溪流其の間に隠見し、一仙境を現出してゐる。

桃の頃またよく漫に桃源の昔を想はせる。

### 御嶽

二俣尾から二里半、内一里半は人力車を通ずる。三田村にあり標高八百六十米山麓から坂路約三十町、頂上に大國主命及び少彦名命を祀る社殿あり、結構頗る壯麗靈驗著しとて登山の行者の絶ゆる時がない。社邊は幽邃にして名所多く、殊に瀧に富み、夏季の登山避暑に絶好の地である。又其の紅葉は夙に世に聞えてゐる。

旅館—金溪館、大黒屋、宿泊料二間内外。

二俣尾以西多摩の溪流を廻れば景趣一步は一步より奇である。約四里半にして日原川と多摩川との落ち合ふ氷川村がある。人力車は此處まで通ずる。

有名な鐘乳洞は此處から日原川に沿うて北すること約三里。二俣尾から北西七里半にある。

羽村驛、東京から、二時間、

八十一錢。

羽村、青梅、日向和田附近

八王子、高尾附近

青梅驛、同じく 二時二十八分、九十二錢。  
日向和田同じく 二時三十九分、九十七錢。  
二俣尾、同じく 二時四十四分、一圓二錢。

〔八王子、高尾山附近〕（八王子城址、大善寺、高尾山）

**八王子城址** 中央線野驛を發して次驛豊田を過ぐれば、やがて行手に大市街が展開して来る。いふまでもなく八王子市である。昔から甲州街道の主要驛として榮えた處であるが、近時に於ける發展は殊に目覺しく、人口四萬を擁して市制を施行し、機業の大中心として横濱線をも分岐するに至つた。市況活氣に富むも理である。而して更に西の方目を放ては、甲武の國境をなす山脈は近く其の背を壓して、昔時に於ける險要の地として此處に大規模の八王子城の築造を見るに至つた理由が悟られる。

城址は八王子の驛から西一里餘、元八王子・恩方・淺川の三村に亘つて稀有の大規模を有してゐる。館址と稱せらるゝ千疊敷跡、天守閣跡等歴然として諸所石垣を有してゐる。附近は今御料林に屬し、巨木森々として人跡を絶つ。

當城は瀧山城と同じく北條氏が武田氏に備ふる爲城いたもので、北條氏照は天正六年瀧山から此處に移つた。蓋し瀧山の地は形勝ではあるが、街道より偏在して甲州口の防禦として適しないものがあつたからであらう。天正十八年秀吉の小田原征伐に當り、氏照は小田原城にあり、當城は其の重臣が守つてゐるが、上杉景勝・前田利家の來り攻むるに及んで終に落城した。

**大善寺** 驛から西北十五町八王子市大横町にあつて、觀池山往生院と號し、淨土宗、關東十八檀林の一。

開基は北條氏照、開山は讚譽牛秀上人である。氏照の配下が悉く其の檀家となつてゐたので、今も戰歿者の位牌を安置してゐる。もと瀧山にあつたが、城と共に元八王子に移り

八王子、高尾附近

## 八王子、高尾附近

其の落城に際して兵燹に罹り、後此處に再移したと傳へられる。

其の他市内には鄧鞆公園(驛の北十町)、梅洞寺辨財天(驛より東南二十町)、及び武田信玄の女松姫の開基たる信松院等見るべきものがある。

**高尾山** 八王子驛を發し甲州街道に沿うて西南に走ること十分餘にして、汽車は高尾の登山驛淺川に着く。

紅葉の名所として、關東屈指の靈場として、十三州見晴しの場所として都人士の間に隠れなき高尾山、之を地質上から見れば、小佛系に屬する古生層の岩石から成つてゐて、山頂見晴し臺は標高六〇一・六米、峻坂逶迤として曲折し、老松古杉鬱蒼として之を蔽うてゐる。山腹北側に蛇瀧あり、同じく南側に淺川の源たる琵琶瀧がある。

驛から山麓まで約半里、自動車・人力車がある。山路は一町毎に道程を示す標柱があつて二十八町と號してゐる。

標柱の盡くる處に古刹藥王院あり、見晴し臺は此處から更に數町、特立して視野を妨ぐ

るものなく、十三州の山河を大觀する眺望、思はず快哉を叫ばしめる。一面蒼茫として天に接する關東平野の彼方、筑波の孤峯淡く翠黛を描き、他面關東山脈の諸峰波濤と重疊し富士の靈峰其の上に立つて雲表に入る光景また筆舌の及ぶ所でない。近く右方を走つて漠々たる相模灘に入る馬入川の末、青螺と浮ぶ江の島、稍々遠く武藏野を流れて東京灣に入る多摩川、一々指點せられて關東地方の地形の一眸に知らるゝ愉快さ、實に高尾の勝は此の見晴しを以て最とする(淺川驛から徒歩往復約三時間を要す)。

藥王院は高尾山有善寺と號し、新義真言宗に屬し、天平十六年行基菩薩の開基と傳へる。護摩堂・大日堂・藥師堂等結構壯麗である。又境内に近い飯繩權現は、永和年間有善寺中興の僧俊源の勸請であるといふ。

琵琶瀧は幅二三尺高さ丈餘に過ぎぬ小瀧であるが、精神病者の此處に療養するものが多い。

見晴臺から小徑をだつて小佛峠に出で、駒木野川に沿うて落合に出る道は、地理理科



與瀨、猿橋、笹子附近

の研究資料に富み、健脚家には面白い行程である。  
八王子驛、東京驛から一時五十二分、七十六錢。  
淺川驛、同じく 二時十三分、八十四錢。

## 二、猿橋、甲府、諏訪方面

### 〔與瀨、猿橋、笹子附近〕

(桂川の鮎漁、桂川下り、猿橋、駒橋発電所、富士登山北口、笹子隧道、天目山、勝沼葡萄園)

**概説** 中央線淺川驛を出て西すれば、汽車はやがて武甲の境の小佛峠にさしかゝる。隧道の暗を出入すること凡そ十回にして身は既に甲州の地に入る。

甲府盆地を中にして四周山岳を繞らす甲斐の國、山梨縣(山無)とは抑も誰が名づけしな

と思ふもをかしく、英雄信玄公を生んだ其の山河の依然たるを見ては、漫に懷舊の念に充つ。

而して甲斐最東の驛與瀨から西猿橋を経て笹子に至るの間は、甲斐絹の産に名高い所謂郡内山地にして、中央線は馬入川の上流たる桂川の溪谷に沿って到る處其の奇勝を見るべく、同線の特徴は此の附近に来て始めて其の一斑を知ることが出来る。

**桂川の鮎漁** 與瀨及び次の甲斐絹で名高い上野原附近は鮎漁で近來聞えて來た。桂川の鮎は大いさに於ても味に於ても共に多摩川其他に比して勝れてゐるので、漁期には此處に遊ぶ人が多い。

**桂川下り** 與瀨の驛から西南十町勝瀨から相州の厚木まで約八里、其の間初め約三里の所謂湘南赤壁の奇勝を始めとして激湍急流を直下するの快また他に求め難く、所謂千里江陵一日還の概がある。此の舟行凡そ三時間、厚木から東海道線平塚驛に出て(此間三里半、自動車二十五分、九十錢)日歸りが出来る。而も春ならば躑躅、秋ならば紅葉が兩岸の翠

與瀨、猿橋、笹子附近

## 奥瀬、猿橋、笹子附近

峰を彩つて更に趣を添へる。

又若し八王子方面へ出て歸京せんとならば、根小屋で下船（奥瀬から約四里）、此處から横濱線の橋本驛若しくは相原驛（各約一里徒歩）から乗車するとよい。

## 猿橋

周防の錦帯橋木曾の棧橋と共に日本三奇橋に數へらるるもの、町の中央桂川の兩岸相迫る處に一の支柱をも用ひず兩岸より巨材を層疊して架せられてあつて幅三間、長さ十五間、水面まで實に百五十尺、橋上に立つて唾すれば、水面に達するまでにいろは歌を唱へ終ると稱せられ、誠に無類の奇景を成してゐる。

猿橋の驛から八町、東京からすれば、猿橋驛に入る前鐵橋通過の際右方に瞥見することが出来る。

## 駒橋發電所

猿橋驛から西半里、北都留郡廣里村字駒橋にある東京電燈株式會社の發電所であつて、實に桂川の水力を利用するものである。此處に於ける放水は更に下流八つ澤（上野原驛附近）發電所で利用せられて又水力電氣を起してゐる。

## 富士登山北口

猿橋の次驛大月驛から富士登山北口たる上富士吉田まで約十五哩の間電車があつて、二時間十分内外、賃金一圓。古くから開けた登山口として聞えてゐる。秀麗な富士の姿は眼前にあり、裾野の秋晴に千草八千草の花を愛でるのも一入の興である。此處から御殿場まで約七里、鐵道馬車で五時間。桂川の水源地たる山中湖（三日月湖或は臥牛湖の名もある）が此の途中にある。

尙ほ大月驛の東北半里、賑岡村舊岩殿にある岩殿山には、武田の逆臣小山田信茂の城址及び岩殿権現があり、山頂は眺望開闊、郡内の山河が一眸に萃まる。

## 笹子隧道

大月の次驛初狩の次が笹子驛、上越線開通以前に於ける最長の隧道として聞えた有名な笹子の隧道は此の驛から西初鹿野驛との間にあつて、延長一萬五千二百七十五呎、約六年の歳月を閲して明治三十五年七月に竣工した。汽車が之を通過するに要する時間約八分、我が國鐵道開通以來の難工事たりしと稱せられ、其の東口に伊藤博文の筆「因地利」、其の西口に山縣有朋公の筆「代天工」の文字が刻されてあり、甲府の驛には桂公の

奥瀬、猿橋、笹子附近

奥瀬、猿橋、笹子附近

筆に成る同隧道の記念碑が建てられてゐる。

### 六目山

初鹿野驛から約一里東八代郡木賊村にあつて、其の山麓田野村にある天童山景徳院(曹洞宗)は實に天正十年春三月武田勝頼最期の場所である。勝頼織田氏の鋭鋒と新府城に戦つて勝たず、小山田信茂の岩殿城に據らんとして却つて其の叛覆によつて笹子の嶮に阻まれ、遂に此の僻陬に逃れ入り、敵兵の急迫を受けて此處に自盡し、信玄公百戦の功も一場の夢と消え去つた。

徳川氏此處に寺領七十五石を給して武田氏の菩提を弔はせたといふ。度々火災に罹り今僅に勝頼の廟を存するのみである。

### 勝沼葡萄園

初鹿野の次は勝沼驛、此の附近に來れば、早や郡内山地は背後に去つて、西に開くる甲府盆地を俯瞰する愉快さ。甲州葡萄に名高い葡萄園は驛から南十町、見渡す限りの葡萄棚、瑠璃の玉をつぶる長き房、甘露と舌打つ其の味、「勝沼や馬子も葡萄を食ひながら」の句を思ひ出す。附近の大善寺は眞言宗に屬し、行基僧正の開基聖武天皇の勅願

所、行基僧正作の薬師如来像は國寶に列してゐる。

奥瀬驛、東京驛より二時三十七分、九十九錢。

猿橋驛、同じく 三時三十七分、一圓三十四錢。

大月驛、同じく 三時四十七分、一圓三十八錢。

初鹿野驛、同じく 四時五十分、一圓六十一錢。

勝沼驛、同じく 五時五分、一圓六十九錢。

### 〔甲府附近〕

(鹽山鑛泉、舞鶴城公園、善光寺、酒折宮、大泉寺、郷國ヶ崎城址)  
(湯村温泉、積翠寺鐘泉、甲州御嶽、新府城址、増富鑛泉)

### 概説

甲府市を中心とする甲府盆地は、山國たる甲州唯一の大平野であつて、さすがに高距は二百五十米であるが、面積二百平方軒(十二方里半)、釜無川・笛吹川の潤すあつて地味豊沃、甲府市を始めとして人口集中の大なる都邑が發達し、今日縣下の中心地とな

甲府附近

つてゐる。

而も此の重要さは昔時に於ても同様であつて、彼の國府國分寺も實に此の盆地に置かれた。信玄公も此の盆地に對して施設する所が多かつた。徳川幕府が甲府の地に其の露親若しくは重臣を封じ、後之を直轄地とした如きも亦實に之を誇するものである。

されば此の盆地には甲州文明發達の蹟を見るべき史蹟が甚だ多い。而も此の地方の地質が水中の沈積物から成り、地層に腐蝕した蘆荻類を包含し、又周圍の山腹に段丘を有すること等によつて、往古は湖底であつたと説かれるのも如何にもとうなづかれて、興味は遠く地質時代の昔にまで遡る。況して今日盆地の南北に聳ゆる富士・八ヶ岳の秀麗なる山容も未だ出現しない時代もありしかと思へば興味はいよゝゝ加つて行く。

**鹽山鑛泉** 勝沼の次驛鹽山驛の北六町、昔時鹽を産したといひ、今松樹齋蒼として松茸を産する鹽山の東麓にあつて、炭酸泉、溫度六十度で加熱して入浴する。花柳病・疝氣・痔疾・皮膚病・婦人病等に効がある。

温泉場から約二十町、松里村字小屋敷の乾徳山惠林寺は臨濟宗に屬し、元徳二年夢窓國師の開基、武田晴信の壽藏所、天正十年織田信長の軍に焼かれたのを、徳川家康復興し、後柳澤吉保修理を加へ、伽藍の古雅壯麗縣下無比である。

尙ほ鹽山の次驛日下部から北十五町には笛吹川の一奇勝にして歌枕たる差出の磯あり、更に其の次驛石和驛に近い石和川は謡曲鶉飼に著はれ、町から二十町の英村は古の國府の所在地。更に又二十町の一宮村には、國分寺の遺址があつて、猶ほ礎石を存してゐる。

**舞鶴城公園** 石和の次驛は甲州の中心なる甲府市の驛、今製絲業盛に行はれて人口五萬六千を包擁し、殷賑なる市街の發達を見るにつけても、信玄公以來の民政策、富國策が偲ばれて、轉々戰國英雄の業績を敬慕する。國境を圍繞する四周の峯巒遠く天然の大城壁を成し、此處に開けたる一望十里の沃野は信玄公の據つて以て立つた唯一の寶庫であつた。彼が此の寶庫の開發充實に努めたのも洵に故あつたといはねばならない。

甲府の市が亦今甲州の史蹟名勝の中心たる觀あるのも自然の勢であらう。而して其等の

## 甲府附近

武田氏と關係の深いものが多いのも亦當然のことであらう。

驛に下車すれば其の東南側に累々たる石垣を観るもの即ち舞鶴城公園である。舞鶴城は淺野長政の築く所、柳澤吉保に至つて完備したもので、今其の一部は中學校及び停車場の一部となつてゐる。東西五町、南北三町、附近一帯は更なり富士の靈峰を仰いで眺望絶佳又縣下有數の櫻の名所である。

**善光寺** 驛の東二十三町里垣村板垣にあり、伽藍は永祿年中武田信玄の造營に係り、本尊は三國傳來の閻浮檀金の彌陀如來、境内數千株の櫻樹あり春は花見の場所として假停車場も設けられる。

**酒折宮** 善光寺から東二町、里垣村酒折にあつて、日本武尊駐軍の古蹟「新治筑波を過ぎて幾夜か寝つる」の御詠に名が高い。本居宣長の撰文、平田篤胤の書に成る酒折宮壽詞、山縣大貳撰の酒折の詞碑等がある。酒折夜雨は甲斐八景の一。

**大泉寺** 驛の北十町、相川村古府中にあつて、曹洞宗に屬す。大永元年武田信虎の開基

堂宇壯麗、其の武田氏の靈廟は天正年間勝頼の創建、信虎以下三代の木像を安置してゐる其の他寺寶として武田氏に關する什寶古文書を多く藏す。

大泉寺から數町の相川村岩窪に信玄の墓がある。安永八年の建設、碑は高さ一丈二尺、「法性院機山信玄之墓」と刻してある。

**躑躅ヶ崎城址** 相川村字古府中にあつて驛から北約半里、永正六年武田信虎石和の石和館を移して此處に築き、信玄を経て勝頼に至つたが、天正九年七月勝頼織田の軍を防がんとして葦崎に移つてから廢城となつた。東西百五十五間、南北百六間、塹濠の跡猶ほ見るべく、特に背後に聳ゆる要害山の險を併せて一層其の城塞的價値を發揮してゐる。従前は徒に荊叢の蔓るに委せてあつたが、今公園となつた。眺望絶佳、甲府盆地を俯瞰して武田氏の偉圖を偲べば、轉々佇立を禁じ得ぬものがある。

境内に武田神社があり、又附近に古府中梅林がある。

**湯村温泉** 驛から西北二十五町、大宮村にある含鹽酸性硫黄泉で、アルカリ性を含む。

## 甲府附近

## 甲府附近

慢性リウマチス・皮膚病・痔病に効がある。土地高燥、武田古城址・大泉寺等杖を曳くべき場所が多い。

旅館―明治温泉、富士廼屋、弘法湯、宿泊料一圓乃至二圓。

**積翠寺鑛泉** 驛から北一里十五町相川村にある收斂性緑礬泉、リウマチス・脚氣・神経系統病・胃病によい。地は要害山の麓にあつて其の山上雄大なる眺望を恣にし、又武田古城址・機山公の墓等尋ねべき名勝が多い。

旅館―養會温泉、要害温泉、宿泊料八十錢乃至貳圓。

**甲州御嶽** 甲州奇勝の第一、又實に中央線沿道奇勝の第一に推され、鯉巖激湍の妙鹽原・耶馬溪と肩を並べ、殊に紅葉の美を以て鳴つてゐる。地は中巨摩郡宮本村にあり、金峰山の一支脈に屬し、山中金櫻神社あり、甲府から北四里、約三時間の行道である。(途中天神平までは自動車、神社までは人力車を通ず)。武田古城址の傍、湯村温泉等を過ぎて北し、東山梨郡千代田村に入れば、荒川の奔流北より來るなり、是より中巨摩郡猪狩村に至

る約二里の間は、所謂御嶽新道の昇仙峽であつて、其の花崗岩より成る峽谷の絶景、造化の妙技人の氣魄を奪ふものあり、殊に覺圓峰聳立し、仙娥瀧落ち、昇仙橋架かる邊は、昇仙峽中最も奇を極むる處である。猪狩の村落を過ぎ約半里にして宮本村御嶽に達する。

金櫻神社は往古は此の裏山なる金峰山(二九九〇米)に鎮坐ありしを、雄略天皇十年此處に神靈を分つて奉祀すと傳へられ、日本武尊東征の際登山して國家鎮護を祈らせ給うたといふ。祭神は日本武尊・少彥名命。郷社に列してゐる。本殿・神樂殿・寶庫等結構甚だ壯麗である。

境内老杉多く、遙に富岳を隱見する所絶妙といふより他ない。

旅館―大黒屋、松田(金櫻神社前)

御嶽の歸途は下黒平温泉(神社から五十町)を過ぎて増富村に至り、葦崎驛に出來ることも出來る。

甲府から歐澤に出で、身延を経て東海道岩淵まで富士川下りの行程は、最も豪快なもの

## 甲府附近

## 甲府附近

であるが、約三日を要することとなるから暑す。

**新府城址** 甲府の次々驛にらまきから西一里、七里岩の上にあつて、天正九年武田勝頼の築

く所、同十年織田信長の鋭鋒を受けて落城した。城壁の址が猶ほ依然として残つてゐる。

**増富鑛泉** 韮崎驛にらまきから北六里、北巨摩郡増富村ふくみにあつて、驛から二里半は馬車人力車の便あり、其の先きは乗馬又は駕籠。交通不便な爲客は殆ど未だ地方人に限られてゐる。

日本第一のラヂウム含有冷泉、世界第三に推されてゐる。リウマチス・脳神経系統病・心臟病・胃腸病に効がある。土地高燥、遙に富岳を望み、金峯山きんねにかけて紅葉が頗る美觀である。

旅館—金泉湯、三英館、藤本。宿泊料八十錢乃至二圓。

甲府驛、東京驛から五時五十三分、一圓九十七錢。

韮崎驛、同じく 六時二十三分、二圓十四錢。

## 〔諏訪附近〕

(諏訪神社、諏訪温泉、スケート場、高島公園)

## 概説

中央線ちゆうおうせん韮崎驛にらまきを發して西北に進行すれば、甲府盆地は漸く後に去つて、汽車は次第に八ヶ岳山麓の高地にと上つて行く。神代櫻に名高い日野春驛、駒ヶ岳・八ヶ岳の登山口たる小淵澤を過ぐれば、やがて甲信の國境、海拔は愈々高まつて遂に本邦最高(三千二百尺)の驛富士見に着く。富士は更なり八ヶ嶽・駒ヶ嶽・御嶽・乗鞍ヶ嶽・鎗ヶ嶽等に萃め、盛暑猶ほ輕寒を覺ゆる絶好の遊暑地。而して此處から汽車路は次第に緩傾斜の下りとなつて、寒天に名高い茅野驛を過ぐれば、やがて行手翠巒の間油繪の如くに浮ぶ一大明鏡、これこそ諏訪湖である。

八ヶ嶽の噴火によつて出來たといふ堰塞湖、海拔二五〇〇尺、今周圍四里二十二町、水深最深七米を算するに過ぎぬ老齡湖たりとはいへ、諏訪平をして信州最古の開發地たらし

## 諏訪附近

諏訪附近

め、又現今潑潮たる産業地たらしめてゐるものは、實に此の湖水の賜である。湖岸には神代史に名高い健御名方富命を祀る官幣大社諏訪神社が鎮座まします。湖を廻つて都邑が發達してゐる。岡谷や上下の諏訪には烟突が林立してゐる。而も湖岸には温泉が湧く、夏は避暑の好適地であり、冬は快戯スケートの練習場となる。何といふ恵まれた諏訪の地であらう。日歸りの出來ぬ地ではあるが、誰しも一度は遊ばねばならぬ地であらう。

上諏訪驛、東京驛から八時三十八分、二圓七十六錢。  
下諏訪驛、同じく 八時五十七分、二圓七十九錢。

**諏訪神社** 上社下社の二社あり、上社の祭神は健御名方富命、下社の祭神は其の妃八坂刀賣命、下社は更に春秋兩宮に分れてゐる。上社は中洲村にあつて上諏訪驛から南一里半守矢山にあり、下社は下諏訪町の東岡にあつて驛から秋の宮まで六町、春の宮まで八町、上下南社の距離は約三里、相對して湖の兩岸を扼し、古來武神として神威赫々、今中央線無比の名社となつてゐる。兩社とも社域森嚴、我が大和朝廷國土經營の蹟を回顧すれば、

崇敬の念愈々加るものがある。



**諏訪温泉** 上諏訪温泉は上諏訪驛の附近に散在し、徒歩五分乃至十分で達する。鹽類泉、温度百四十度、リウマチス・神經衰弱等に効がある。下諏訪温泉は下諏訪驛から東北數町、鹽類泉、温度百度、胃腸病・頭痛等に効がある。兩温泉とも殷盛なる機業地にあり湖水に臨んで展望廣闊。



## 諏訪附近

浴宿は常に満員である。

旅館—(上諏訪)、牡丹屋、布半、諏訪ホテル、鷺之湯、湖月館等。

(下諏訪)、龜屋、桔梗屋、丸屋、鐵鑛泉等。

**スケート場** 湖の周圍に數ヶ所あるが、就中上諏訪驛を距る約二町の鶴遊館前及び下諏訪驛を距る約十町の高濱灘の二箇所が著名である。又下諏訪には驛より約五町の諏訪神社秋の宮の側の水田の結氷を利用してスケート場を特設してゐる。

諏訪湖上には昔から冬期嚴寒の頃有名な御神渡と稱する奇現象がある。之は諏訪明神が女神の許に通はれた御渡の跡と稱して湖畔の住民の間には神聖視されて來たものであるが實は之は湖面に生じた氷殻が、温度の低下につれて容積收縮し、其の脆弱な部分に龜裂を生じ、其の空隙に新しく出來た氷殻の爲、温度の上昇と共に膨脹する餘地を失つて遂に堤防狀を來したものである。

而して此の所謂御神渡を生ずる頃となると湖面は二尺位の厚さに結氷して人馬の往來が

自由になる。同時に諸所のスケート場も開かれて湖畔は是等の快戯に熱中する人で埋められて來ることとなる。スケートに快を盡しては更に温泉に浴して悠々湖畔の風物を賞する。何といふ恵まれた遊樂境であらう。

**高島公園** 上諏訪驛から西南五町、老松鬱蒼たる丘上にある。地はもと諏訪頼長居城の跡で、古は湖中に突出した要害の地であつたが、今は湖岸が埋没して水を距る數町の處となつた。城濠石垣の跡猶ほ存し、近く諏訪上社を老松古杉の間に隱見し、又遙に下社を望んで風光明媚である。

## 三、妙義、淺間の二山と碓氷峠の紅葉

## 〔妙義附近〕

(妙義山、磯部鐵泉、貫前神社)

## 妙義附近

妙義附近

**妙義山** 上野三山の一、奇勝を以て天下に聞ゆる妙義山は、北甘樂郡の北西部から碓氷郡に跨り、白雲(東北)・金洞(中央)・金鶏(東南)の三峰から成つてゐて、海拔一一六〇米、那須火山脈に屬する舊火山である。而して板狀及び柱狀節理を呈する集塊熔岩から成り、甚だしく侵蝕作用を受けて奇景を呈してゐる。

世に名高い妙義の石門といふものは、右の中金洞山にあつて四箇あり、其の中第一石門は最も大で高さ六十餘尺、幅五間を超え、眞に無類の奇觀を呈してゐる。その他金洞山は大黒岩・大蠟燭岩・動き岩・東胎内潜等の奇勝を有してゐる。

又白雲山には辨天の岩窟・胎内潜等(中腹に妙義神社がある)、金鶏山には筆頭岩・子持岩等の奇勝がある。

登山は信越線松井田驛よりすれば西南一里十町、中約一里の妙義町まで人力車もあつて最も便である。而して其の探勝通常は第一日を白雲山(最も峻嶒にして最も眺望に富む)に、第二日を金洞・金鶏の二山に費すのであるが、若し一日に之を探るなら、白雲山は途

妙義・淺間の諸山を望んで眺望甚だ佳である。  
妙義附近



妙義山

中の大の字岩迄として金洞を觀るか、或は白雲山を割愛して金洞・金鶏の二山を觀るか何

れか一を選ぶがよい。案内料、妙義町から一日二圓乃至三圓。

尙ほ妙義山は紅葉が最も美觀であつて觀楓期間には上野驛から二三等割引往復乗車券が發賣される。

旅館(松井田)、港屋・菱屋支店。

(妙義町)、菱屋・東雲館。

**磯部鑛泉** 松井田の一つ手前磯部驛から四町、鹹味ある炭酸泉、胃腸病・神経痛等によい。地は北碓氷川に面し、榛名。

浅間附近

**貫前神社** 北甘樂郡一ノ宮町一ノ宮にあつて磯部驛からすれば一里十六町、高崎から發する上信電氣鐵道一之宮驛からすれば五町。國幣中社に列してゐる。祭神は經津主神、天武天皇の白鳳七年の鎮座。源頼義義家奥羽征伐にあたり此の神に祈つた。新田義重の祈願所であつたといふので徳川家康は社殿を造營した。單層入母屋造檜皮葺の其の本殿は特別保護建造物となつてゐる。其の他總門・額殿・樓門・拜殿等結構壯麗、神寶たる鏡三面は國寶に列してゐる。

磯部驛、上野驛から三時五十七分、一圓七十八錢。

松井田驛、同じく 四時十五分、一圓八十六錢。

〔浅間附近〕（小瀬温泉、追分、草津温泉、）

**浅間山** 其の雄俊なる姿に、其の絶えざる噴烟に、上信の境地を彩る浅間の山は後撰集

の昔にも「富士の烟のかひやなからむ」と詠せられて、昔から猛烈な活動の頻發を以て名

があるが、併し其の登山は比較的容易であつて而も又平日は何等の危険もなく、極めて愉快な探勝となる。

那須火山脈に屬する大活火山、長野縣北佐久郡と群馬縣吾妻郡とに跨り標高二五〇〇米、橄欖複斜石安山岩を以て構成された複式火山にして、牙山は第一外輪山、前掛山は第二外輪山、浅間山は中央火口丘であり、浅間山頂には御釜と稱する直徑三百五十米の圓形的



浅間山

火口を戴いてゐる。天明三年大活動の際迸出した鬼押出と呼ばれる熔岩流、小浅間・石尊

浅間附近

等の寄生火山、火口瀬たる蛇堀川、火口原たる湯ノ平等見學の資料に富んでゐる。殊に風の無い日に登山すると、火口内も容易に覗くことが出来るし、轟々たる響と共に噴出する濃煙、砂礫の高く天を衝く壯觀また他に求め難いものである。而も山上から望む上州甲州の諸山、殊に玲瓏たる富士の其の上に獨立する偉觀またたとふべきものもない。

登山は杳掛・追分・小諸の諸驛から出来るが、杳掛が山頂まで約三里、追分からは三里十町である。案内料一日三圓位。

**追分** 往時中仙道と北國街道との追分で、今も衰廢した街道の民家の建築其の他に昔の驛の趣を見るべきものがある。俗語追分節は此處から起つたものと稱せられてゐる。此處から淺間に登山すれば、途中赤瀧の勝を探ることが出来る。

**草津温泉** 輕井澤から分岐する草津輕便鐵道終點嬪戀驛(輕井澤から約三時間)から三里(自動車も馬車もある)、吾妻郡草津村にある硫黄泉、温度百四十度乃至百四十八度、微毒皮膚病・淋病・外傷等に特效がある。

古くから有名な温泉であつて、東鑑の如きも頼朝の入浴したことを載せてゐるが、最近ラヂウム含有量の多いことを以て世界有数の地位に押され、特に繁昌してゐる。草津名物たる時間湯は特に名がある。温泉の湧出量の多いこと西の別府と並稱されて、町中を熱湯が滔々と流れてゐる。

地は海拔四千五百尺の高原で、西に白根の雄峯、北に濫峠屹立し、吾妻・岩室・萬座・淺間の諸山繞り、東南廣漠たる高原の彼方八州の山嶽起伏する狀を望み、而も濛々たる淺間・白根の噴煙を望む光景極めて壯觀である。

又白根の探勝は滞在客無上の快遊で、其の絶巔十三州の大觀は消え難い印象をとゞめる。旅館―大東館、大阪屋、望雲館、一井館、日進館、草津ホテル等。

**小瀬温泉** 草津輕便鐵道小瀬驛から五町の小瀬温泉は炭酸泉、温度八十度、神經衰弱・胃腸病等に効がある。淺間の東南麓、四圍翠巒を繞らし、湯川の清流を抱いて一勝境を成してゐる。

碓氷の紅葉

沓掛驛、五時四十四分、二圓十四錢。  
追分驛、五時五十分、二圓十八錢。

〔碓氷の紅葉〕

(碓氷峠、熊野神社、思婦石、  
輕井澤、霧積温泉)

日本武尊が吾孺者耶と三歎し給ひし古跡として、又函嶺と並んで關東の二大要害に推された地として、吾人の史的回顧の情緒をそよる碓氷の峠は、上信の境に跨つて標高三千八十八尺、所謂アプト式軌道に旅情を樂しましむるの地である、亦天下屈指の紅葉の名所として推すべき所、東京からは日歸りでも優に其の大體を探勝することが出来る。

其の探勝の行程についていへば、若し健脚にして且つ一泊の餘裕があるなら、東麓の横川若しくは熊ノ平驛下車、新道を経て新輕井澤に出で同所に一泊、翌日更に舊輕井澤から舊道を下つて前記の驛から乗車歸京の途に就くのである。但し徒歩通じて約五里乃至八里

である。

次は日歸り、輕井澤驛下車、健脚なら新道を経て碓氷峠に登り、舊道を経て坂本に出で、更に新道を登つて熊ノ平乗車、或は舊輕井澤から峠に登り、紅葉道(峠の見晴平から熊ノ平に至る)を下り、横川乗車、此の行程は約四里である。而して又紅葉道から熊ノ平乗車の経路は最も樂で徒歩約二里に過ぎない。若し又全く徒歩を厭うて往復とも車窓から眺めることとしても、三里の上り約一時間を要する程の徐行であるから、悠々觀賞することも出来る。

峠には縣社熊野神社あり、前面に妙義を始め秩父甲斐の連山を、東北に榛名赤城の諸峯を望む大觀に

碓氷の紅葉



碓氷峠輕井澤

## 碓氷の紅葉

加へて脚下に見渡す碓氷川兩岸の紅葉、只恍惚として其の美に酔ふのみである。神社から十數町の處に日本武尊の傳説ある思婦石といふものがある。

輕井澤は東洋屈指の避暑地として外人の間に知られた處であるが、又秋季此の美觀を控へて實に恵まれた境地である。

尙横川驛から北三里半碓氷郡霧積にある霧積温泉（硫黄泉、火傷・腫物・其他一般の負傷に効がある）は、碓氷嶺後を廻る山水明媚の地、殊に亦紅葉の美に富んでゐる。

碓氷嶺の紅葉を賞し、歸途更に妙義のそれを觀れば、其の妙味又格別なものがある。

熊ノ平驛、上野驛から五時五分、二圓三錢。

輕井澤驛、同じく 五時三十五分、二圓九錢。

## 〔南郊の部〕

一、品川、横濱、大船、藤澤、江の島、鎌倉、横須賀方面

## 〔目黒、品川附近〕

（大圓寺、目黒不動、甘藷先生の墓、祐天寺、  
紅殿山、北の天王、東海寺、海晏寺、千體荒神）

大圓寺 有名な不動様で遊ぶ人の多い目黒の地は、山の手線はもとより、今は蒲田に行

く電車さへ通じて發展著しく、従前は野趣に富んだ南部の散策地として喜ばれた此の地も此の頃は郊外とは感じられない程になつてしまつた。名物の栗も筍も近頃は大抵他から仕入れられてゐる。それでも古書をたづねて名所探しをして見れば、さすがに其の蹟の残つてゐるのが嬉しい。

白金臺から目黒川に下る坂（市電の停留場も省線の驛も此の坂の上にある）が行人坂（寛

目黒、品川附近

永の頃湯殿山行者が此の坂に庵を結んでゐたので名づけたといふ)、又夕日ヶ岡と呼ばれて紅葉の名所だつたといふが、今その跡方もない。

坂の中途五百羅漢のある大圓寺(松葉山、天台宗)は、明和九年此處から千代大橋まで焼き拂つた有名な大火の火元、五百羅漢は其の時の遭難者を供養する爲に作られたといふ。併し今五百はない、苔むした其の石像は只二三十を残してゐるのみである。

**目黒六動** 行人坂を下つて目黒川に架つてゐる木橋(昔は石橋で中央の高い太鼓橋であつた)を渡つて尙ほも行けば不動堂がある(驛から西約九町、目黒蒲田間電車不動前停留場から西五町)。五色不動中特に名あるもの。寺は泰叡山瀧泉寺と號し、天台宗に屬す。創立については確説がないが、或は大同年間慈覺大師の草創と傳へてゐる。本堂の外大日堂、虚空藏堂、鬼子母神堂があつて何れも結構壯麗である。境内の不動瀧は誠に小さいものだが、それでも夏はあびに来る人が多い。

又境内に近い比翼塚は、「傾城に誠ないとは誰が云うた、目黒に残る比翼塚」の唄に名高い平井權八と小紫とを葬つたものである。

北約二町の白鳥神社は大同年間の創立、日本武尊を祀る村社であるが、十一月に行はれる酉の市は仲々の賑ひである目黒競馬場は不動から程近い。

**甘藷先生の墓** 不動堂の背後の丘上にあるさゝやかな碑であるが、其の刻文によれば、昆陽先生が生前に作られた壽塚で、其の死後此に葬むられたものである。尙ほ碑面に「甘藷流傳使天下無饑人是予願也」とあるを見ても、其の當時甘藷先生と呼ばれて天下の敬愛感謝を受けた由來も推し測られて偉大な功績を欽慕するの情に堪へない。

尙ほ此の墳域の附近は有名な太古人住居の遺跡で、従前は往々古土器の破片などの發見されることがあつたが、今は殆ど見當らない。

**祐天寺** 不動から約十町、申目黒にあつて、驛から西北十四町に當る。此處はもと増七寺第三十六世祐天上人の隱居地であつたのを、上人入寂後法弟祐海が遺言によつて享保四年當寺を建立し、上人を開山としたもので、明顯山善久院祐天寺と號し、淨土宗に屬して

る。明治二十七年九月火災に罹り、今昔日の觀はないが、阿彌堂安置の阿彌陀如來像は  
惠心僧都の作と傳へ、西方六阿彌陀の第六番である。

尙ほ境内に祐天上人及び祐海の墓がある。

祐天寺から數町、實相山正覺寺(日蓮宗)内安置の鬼子母神は、開運鬼子母神として流行  
してゐる。此處から驛まで十町。

### 御殿山

目黒から

歸路を大崎にとり、省線五反田驛を経て大崎驛に下車すれば、近く妙

花園の花を賞することが出来る。更に驛の前から居木橋を渡り、左へダラム坂を上れば

有名な御殿山である。慶長以前の街道は大井の權現臺から此の御殿山の北麓に出で、八ツ

山・高輪臺・二本榎と進んだのだといふ。徳川時代には五十三驛の初程、江戸の咽喉として

其の直轄の下に置かれた品川宿、今も山の手線の起點、京濱電氣鐵道の出發點として交通

の要地を占め、市内に變らぬ繁華を見せてゐる。併し其の爲に史蹟の害はれたものも少く

ない。御殿山の如きも其の一つである。でも歴史をたどれば其處に言ひ知れぬ情緒が湧い

て来る。

御殿山には長祿の頃太田道灌の館があつたと傳へてゐる。徳川氏入國後此處に殿宇を建  
てたので御殿山の名があるといふ。當時將軍は遊獵にことよせて諸大名の江戸參勤を迎へ  
たものであつたが、家光に至つて其の事止み、寛文の頃御殿も焼失したが、其の頃吉野の  
櫻を多く移植して以來御殿山は飛鳥山と並べ稱せられる花の名所となつた。然るに幕末に  
至り黒船來つて太平の長夢を醒ますや御殿山の土は運ばれて今も残る所謂御臺場が築かれ  
つゞいて明治に至り鐵道工事は更に其の舊態を變じ、殊に近來郊外の發展につれて御殿山  
の殘骸は全く住宅地と化し去つたが、さすがに晴れた日など品川灘の蒼波を隔て、遙に房  
總の山々を望む光景亦棄て難いものである。

御臺場は江川太郎左衛門英龍の計畫で嘉永六年から工事に着手、翌安政元年六砲臺完成  
した。消極的な其の當時の築城思想の表象、幕末歐式要塞の標本として残る此の臺場、何  
といふ好箇の記念物であらう。



御殿山から品川の大通りを南する、其處此處から響く絃歌の響、昔の東海道の宿驛の名残は猶ほ去りやらぬ。

### 北の天王

北品川京濱電車北馬場停留場に近い處にある郷社品川神社がそれである。祭神は天乃比理乃賣命、尙ほ宇賀乃賣命・素盞鳴命をも祀る。南の荏原神社(郷社)が南の天王と呼ばれるのに對して之は位置の上からかく呼ばれてゐる。境内は小公園を成し、其の俗稱富士山の頂に登れば品川灣の蒼波に浮ぶ白帆の彼方、遠く房總・三浦の二半島をも望んで風光甚だ勝れてゐる。

南の天王は南品川品川橋の際にあつて、毎年六月六日から九日に亘る大祭は北の天王の大祭の日と一致し、御輿や山車で品川の通りは此の上ない雑踏である。

### 東海寺

北の天王から西約二町、嘗ては寺領五百石を有したと聞く有名な巨利の衰へ果てた有様に先づ驚く。臨濟宗大徳寺派、萬松山と號す。寛永十五年將軍家光の開基、開山は有名な澤庵和尚、當初は寺域遠く北步行新宿(北品川の北)から西北居木橋の附近にまで

及んでゐるが、元祿六年の回祿以來衰へたといふ。稍々離れて東海道線の踏切近く、三共製藥會社の裏手なる墓地に澤庵和尚・加茂眞淵・服部南郭等の奥津城を弔へば無量の感慨がある。

### 海晏寺

品川神社の前から京濱電車に乗つて南し、鮫洲で下車(片道賃金六錢)すれば、約一町にして至る(品川驛から約二十二町)。「あれ見やしやんせ海晏寺、眞間や高尾の龍田でも、及びないぞえ紅葉狩り」、江戸ツ子の紅葉狩りに昔は聞えた名所であるが、今は老樹が伐採されて殆ど見所もなくなつた。

當寺は建長三年北條時頼の開基、開山は大覺禪師、本尊千手觀音は所謂鮫洲觀音、當寺門前の海でとれた鮫の腹中から出たので、時頼が之を聞いて堂宇を建立し、觀音の淨土に準じて補陀落山と命じ、四海平晏の意で海晏寺と號したといふ。もと臨濟宗であつたのを更めて今曹洞宗に屬してゐる。

境内に北條時頼の古塔及び岩倉貝視・松平春嶽の墓がある。

## 大森、羽田附近

**千體荒神** 海晏寺から北二町許り、海雲寺(龍吟山、曹洞宗)の境内にある。昆首羯摩の作と傳へ、寛永二十年九州天草の荒神原から移したのだと傳へてゐるが、火防の神として都下近郊の信仰厚く、三月と十一月との二十七八日の大祭には夥しい参詣人がある。

品川驛、東京驛から十五分、九錢。

## 〔大森、羽田附近〕

(伊藤公の墓、木原山、大森海水浴場、鈴ヶ森、本門寺)  
洗足池、九品佛、新田神社、羽田梅屋敷、穴守稻荷

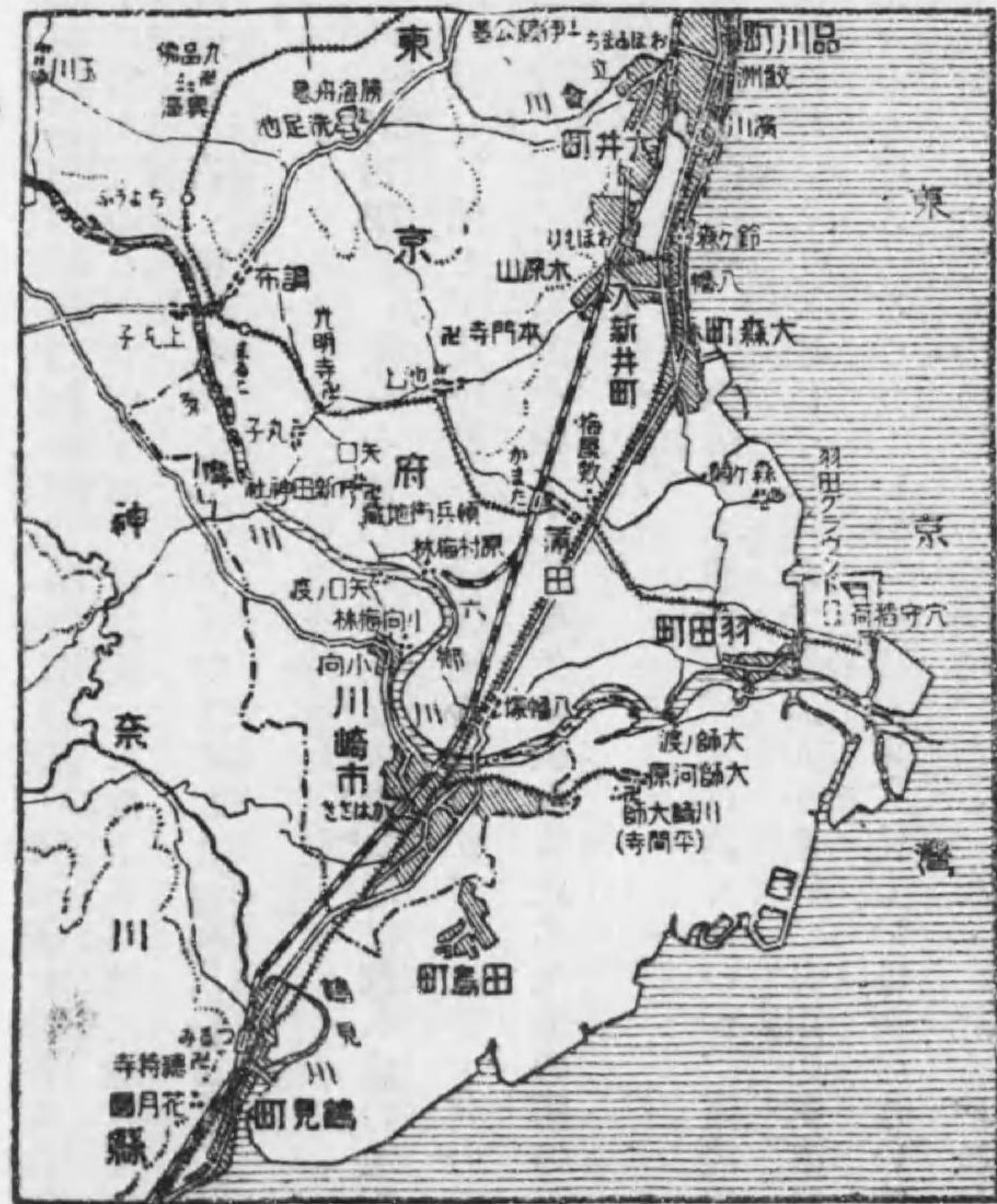
**伊藤公の墓** 省線大井驛から西約十三町、大井町谷垂にあつて、墓畔には櫻樹が多い。身は哈爾登原頭の露と消えても、名は千歳我が政治史に列するの人。もと附近數町の處にあつた記念すべき恩賜館は、今明治神宮の外苑に移された。山の手線五反田驛からしても約十三町である。

**木原山** 省線大森驛前の高丘がそれである。標高約二十餘米、大井町と入新井・池上・馬

込の三村に亘り北西から南東に達して近く東京灣に臨む大森臺地の一部であつて、頗る眺望に富んでゐる。昔の東海道は此處から池上矢口渡に通じてゐた。明治以後別荘地として發達し、古く梅の名所として知られてゐた八景園の如きも今は私人の有に歸してしまつた。

我が考古學界に曙光を放つた有名な大森貝墟は即ち此の地で、明治十三年米人モールス氏の發見に係り、當時數多の發掘物を得たが、今は殆ど其の跡方も認め難い程となつた。但し近く南に東京灣を瞰下して風光の美なる此の地形の勝のみを見ても、太古人の居住地と選んだことがうなづかれる。

**大森海水浴場** 大森驛から東六町、水は清くないが、遠淺で波靜かに、而も東京最寄の海水浴場として夏季は子供連れで遊ぶ人が多い。品川の御臺場を近く前にし、遙に房總の山々をも望んでなつかしい磯の香に浸る、忙しい餘裕のない生活をしてゐる都人士にとつて此處はせめてもの海遊びの享樂地である。海岸に近く砂風呂があり、松淺、伊勢源など



大森、羽田、田鶴見

いふ旅館料理屋もある。

**鈴ヶ森** 大森驛から東八町、京濱電車鈴ヶ森停留場から約一町、舊幕時代の仕置場として知られた處。鈴ヶ森とは附近入新井村大字不入斗にある村社八幡神社（式内の古社、鈴ヶ森八幡と俗稱す）に鈴の如き音を發する鈴

石といふものがあつたので、此の森を鈴ヶ森と呼ぶに至つたといふ。丸橋忠彌も白井權八も八百屋お七も此の刑場の露と消えたのであつた。人魂火の燃えたらん刑場の跡も星移つては別莊旗亭が所狭く建ち並んで、南無妙法蓮華經と刻んだ無縁塔が僅に昔を語り顔に残つてゐる。

大森驛、東京驛から二十一分、十五錢。

**本門寺** 省線蒲田驛前から池上電車があつて約十分にして達する（賃金十一錢）。大森から西南二十町、池上村にあり、身延・中山と共に日蓮宗の三頭として著はれてゐる。長榮山大國院と號し、弘安四年池上宗仲の建立、日蓮上人入寂の地である。

境内六萬七千餘坪、宏壯なる堂塔伽藍が其の間に配置されてゐる。就中其の樓門（人母屋造銅板葺五間三戸、左右に仁王像を安置し、中央に光悅筆長榮山の額を掲ぐ）及び五重塔（高さ十五間、第一第二層本瓦葺、其の他は銅板葺、十界曼陀羅を安置す）は、共に慶長十三年の建立で、今特別保護建造物に列してゐる。其の他日蓮・日朗・日輪三上人の像を安

置する十三間四面の祖師堂、十間四面の釋迦堂（天井雲龍の畫は狩野隆信の筆）、日蓮上人の骨を納むる眞骨堂（上り倚り懸りの柱あり）、上人茶毘の跡に建てられた多寶塔、清正の像を安置する清正堂、日朗日輪の墓、池上宗仲夫妻の墓、清正及び夫人の供養塔、狩野元信探幽の墓、星亨の墓等あり、背後の松濤園は夙に泉石の美趣を以て聞え、又西郷隆盛と勝安芳とが江戸城明渡しの議を決した處として名高い。

寺寶甚だ多きが中に、今國寶たる日蓮上人眞蹟の法華經は最も著はれ、其の淋漓なる墨色、遒勁なる筆力、目のあたり上人の人格に接する思がある。

毎年十月十二、十三日の會式には參詣者殺到して其の雜踏言語に絶する。京濱電車は特に終夜運轉を行ふ。

本門寺丘陵の東麓には明ほの樓光明館等の鑛泉宿兼料理屋があつて、いつも都人士で賑つてゐる。

又本門寺の南方田圃の間には池上競馬場がある。

尙ほ本門寺は目黒蒲田電車新田停留場から北十一町に當つてゐる。

### 洗足池

本門寺から西北約一里目黒不動堂から西南一里、馬込村にあつて、目黒蒲田電車洗足池停留場から南七町、（或は大岡山で下車してもよい、賃金目黒から十一錢）呑川と

立會川に挟まれた丘陵中にあつて、四方の谷合から流れ出る水を湛へて田用水に供したもので、今は周圍二十町許りに過ぎぬが、昔はもつと廣い面積に及んで池上の地名も此の地に基づいたといふ。又千束の池とも書く。往昔此處で日蓮上人が足を洗つたと稱せられて、今池畔に其の袈裟掛松の遺跡、御松庵及び最近に出來た上人の銅像等がある。

池畔は丘陵起伏して土俗九十九谷ありと稱し、幽邃の境である。又勝海舟の墓、西郷南洲留魂祠（もと木下川薬師境内にあつた）等があつて感慨の深いものがある。附近は次第に別荘地として發達してゐる。

### 九品佛

目黒蒲田電車奥澤停留場から西七町（賃金目黒から十六錢）、玉川村奥澤にある

淨眞寺（九品山唯在念佛院、淨土宗）の稱である。堂宇壯麗、三字の佛堂に丈六金色の阿彌

## 大森、羽田附近

陀佛三體宛を安置してあるのでかく呼ばれてゐる。當寺は延寶六年阿彌上人の草創と傳へ境内に其の墳墓がある。今芝の増上寺の別院となつてゐる。寺地はもと吉良氏の城址と傳へ、寺域は今も土壘を繞らしてゐる。此處から玉川電車駒澤停留場まで約一里である。

尙ほ奥澤の次の調布停留場から南二町には、田園都市株式會社の經營になる田園グラウンド、西十五町には等々力の瀧(玉川電車駒澤からは約二十町)、同じく十八町には満願寺其の次多摩川停留場前には眺望に富む淺間神社、又次の丸子停留場附近には目黒蒲田電鐵の經營する丸子水泳場及び御嶽神社(東七町)等がある。

**新田神社** 目黒蒲田電車新田停留場から西五町(賃金目黒から二十六錢)、荏原郡矢口村矢口、多摩川の矢口の渡附近にあつて新田義興を祀る府社である。建武六年北畠顯家を援けて鎌倉を攻めた義興が、後足利基氏を圖らんとして延文三年十月遂に此の矢口渡頭に誘殺されたことは太平記に縷説されてゐる。而も亦義興を討つた江戸堯寛が後此の渡に於て其の亡靈に遇うて悶死したので、村人が義興の靈を祀つて新田大明神と崇むるに至つたこ

とも同書に見ゆる所である。

祠後の塚は即ち義興の墓地である。滔々たる多摩の水流は千歳盡きせぬ忠臣の恨みを語つてゐる。

本社の西南にある十騎社は此の時義興に従つて討死した十三士を祀るもの、又附近の頼兵衛地蔵は、かの矢口の渡して義興を苦しめた渡守頼兵衛の守本尊であつたといふが、今絶えず石つぶての供養を受けて全身孔だらけである。

尙ほ新田停留場附近には光明寺(北五町)、原村梅林(西南五町)等見るべきものがある。

**蒲田梅屋敷** 省線蒲田驛(目黒蒲田間電車の終點も此の構内にある)から東七町、私設京濱電車梅屋敷停留場の傍、園内はさして廣くないが、老梅數百株、雅致に富み、安永天明の頃から聞えた東海道的一名所、園内に明治天皇玉座の跡がある。國道改修の爲近々取拂はれることになつてゐる。

梅屋敷から約四町郷社たる蒲田神社は俗に蒲田八幡と呼ばれ、貞觀六年八月十四日清和

大森、羽田附近

天皇の勅によつて官社に列せられた古社である。

又驛から東二町の菖蒲園は、嘗ては遊覽者が多かつたが、今衰廢してしまつた。

### 穴守稻荷

蒲田の驛から東一里十二町、羽田町字鈴木新田にあつて私設京濱電車の蒲田から岐れる支線の終點より約三町東にある(品川から穴守まで二十二錢)。羽田町の附近は六郷川の形成した沖積地であつて、其の鈴木新田は文政年間鈴木彌五右衛門が開墾したもので其の名があり、稻荷の社は其の南方に突出した、砂洲に鎮座してゐて縁起は新しいが文政年間大暴風雨の際其の神靈によつて堤防の決潰を防いだと傳へられてゐるが、殊に明治十八年鈴木家の古藏に住んでゐた狐が或病人を救つたといふので、流行神となり、赤い鳥居は數町に亘つて重り合ひ、賣店茶屋は軒を連ねて繁昌してゐる。祠の後にはお穴と稱するものがある。又小丘があつて眺望がよい。

又境内の裏手には報知新聞社の公開する扇ヶ浦海水浴場及び京濱電車の經營する約五萬坪の羽田グラウンド、羽田辨財天あり、河口の舟遊釣魚と相俟つて夏季は人出が多い。其

の他鑛泉もあつて、附近には羽田館を始め旅館兼料理屋が多い。稻荷から對岸の川崎大師までは大師渡を経て約一里五町ある。

尙ほ羽田と大森との中間の森ヶ崎は兩者に勝る海水浴場、殊に含鐵鹽類泉もあつて保養によい。梅屋敷の手前の山谷で下車すれば東南十五町である(品川から山谷まで十二錢)。旅館兼料理屋—可人舎、養生館、光遊館等。

### 〔川崎、鶴見附近〕

(川崎大師、小向井の梅林、總持寺、花月園、  
碧血の碑、新子安海水浴場、小机城址)

**川崎大師** 川崎は南郊工業地帯中目覺しい發展を來して最近は市制も施した。京濱第一の流行佛川崎大師のある地ももとは大師河原村であつたが、町となり、更に川崎の市制施行と同時に其の市區に編入された程で、將來も益々流行するであらうが、同時に益々俗化することも免れ得ぬだらう。

それでも省線川崎の驛から約二十七町の途中六郷川土手の櫻花のトンネルは棄て難いものだ。私設京濱電車の支線は川崎から岐れて大師から約三町の地獄まで行つてゐて便利ではあるが、花の頃は川崎から歩くのがよい。六郷川の沖積地の展開してゐる状を見るのも一層の興味がある。

川崎大師堂、本名は金剛山金乘院平間寺、眞言宗に属す。本尊は弘法大師五寸の像、崇徳天皇の大治年間漁夫平間兼乗が海中から得たと傳ふるもの。厄除大師として古くから流行し、十一代將軍家齊の如きも四十二の年に此に参詣したといふ。宏壯なる本堂始め他の堂宇の結構を見ても如何に流行してゐるか推し測られる。毎月二十一日の縁日には電車も汽車も賽客あふるゝ許り、門前の達磨や麥稈貝殻の細工物を鬻ぐ店はいとはしき許りに客を呼ぶ。境内はもとより押し合ひへし合ひの混雑である。

大師公園は梅櫻多く林泉の美はあるが、例の俗境と化し去つてゐるのが惜しい。

此處から大師の渡(河幅約一町)を経て穴守に至る行程は時間約三十分賃金十五錢位、一寸面白い味がある。

京濱電車品川から大師まで約四十分、二十七錢。

### 小向井の梅林

川崎驛から西北十五町、六郷川に沿うて梅樹數百株、野趣に富んだ村落

自らの梅林である。成島柳北以來世に名を得た。もと御幸村に属したが最近全村川崎市に編入されて、此の地も同市に属することとなつた。此處から舟で大師或は穴守に行くのも興がある。

川崎驛、東京驛から三十五分、二十六錢。

### 總持寺

省線鶴見驛から約八町(四十一分、三十一錢)、京濱電車鶴見停留場から約三町

(品川から二十五錢)、曹洞宗の大本山諸嶽山と號す。もと能登の鳳至郡櫛比村にあつたが明治三十一年火災に罹つて一山烏有に歸してより、此の地に移されたのである。伽藍は富士見臺二見臺を合せた丘上に建立されてゐて、北は帝都を烟霧の中に望み、南は東京灣の靜波を瞰下し、西は富士の秀峯を仰いで眺望佳絶、二十餘宇と稱する殿堂の中既に佛殿を

始め十餘宇成り、其の規模の宏壯關東一として參詣者の眼を驚かしてゐるが、過般の大地震の被害が甚しかった。

當寺はもと定賢律師が榮山禪師の徳を欽慕し、請じて開山としたのに創り、後醍醐天皇の元亨中禪師が御下問に奉答したるによつて紫衣を賜り、日本曹洞宗出世本山とせられたといふ。電車、品川から二十五分、二十五錢。

### 花月園

二見臺の南に開けた一大遊園地、廣さ約二萬坪、四季の花奔を植ゑ、禽獸類を飼育し、茶亭及び運動場等を設けて理想的の設備を施してゐる。總持寺から徒歩約二十分、花月園停留場から約三町、省線鶴見驛から南十六町。

### 碧血の碑

總持寺から東海道を鶴見川に沿うて下れば、其の河口鶴見町字生麥の宿の西はづれ、松並木の間にある。此處こそ彼の有名な生麥事件—文久二年英人リチャードソンが勅使大原重徳を護衛して歸路の途にあつた島津久光の先驅の爲に斬殺された—の跡であつて、碑面には中村正直の撰文が刻されてある。此の地には當時の變事を親しく見聞した

古老もなほ生存してゐる。過云六十年見まぐるしき時勢の變化を顧みて感慨無量である。

省線鶴見驛から南二十町、京濱電車生麥停留場からすれば近い。

### 新子安海水浴場

京濱電車新子安停留場から東一町餘(品川から三十錢)、省線東神奈川驛から東北十五町。京濱電車の經營する海水浴場で、遠淺にして、波靜かに、大森・羽田等に比べて水清く、無料更衣所等の設備もあつて、近來子供連れで遊ぶ人が多い。

尙ほ附近に浦島寺と俗稱される護國山觀福寺(淨土宗)があり、又浦島明神もあつて、傳説をとかく現實化して見たがる人情が何時の世にも何處にも變らずあるのが面白い。因に觀福寺は清和天皇の勅願所、開山は檜尾僧都と傳へてゐる。

### 小机城址

東神奈川から分岐して八王子に至る横濱線小机驛から西五町、橋本郡城郷村小机にあつて、鶴見川流域の平野に突出した臺地の一端を利用したものであつて、東西の兩郭及び土壘の跡等猶ほ歴然たるものがある。

城は初上杉氏に屬し、後北條氏に歸して世々笠原氏此に居り、以て天正十八年落城に及



んだ。

嘗て文明九年上杉氏の臣長尾景晴が叛亂を企てた時、矢野兵庫助といふものが當城によつて之に應じた。太田道灌之を攻むるに當つて「小机は先づ手習の始めにいていろはにほへとちりぢりになる」と詠んだと傳へられてゐる。

尙ほ小机驛前の雲松院(臥龍山乾徳寺、曹洞宗)は大永年間城主笠原信爲の開基と傳へ、境内に笠原氏の墓あり、又其の系圖等をも傳へてゐる。其の他ハリス來朝の際の椅子及び敷物等を藏してゐる。

### 〔横濱附近〕

(本覺寺、横濱港、三溪園、野毛山、掃部山、磯子海水浴場)

### 概説

五十三次の宿驛にも數へられなかつた蕞爾たる一寒村より僅か六十年間に發達して帝國六大都市に列した横濱市は、東京を距る西南十八哩、東京灣の西岸武蔵の國の南

端に位して、帝國第一の貿易港、北日本一の輸出港、我が國內外航路の大中心として其の繁榮を誇つてゐる。尤も過般の大震災に甚大の痛手を負うたとはいへ活氣に満ちた都市として復興の勢目覺しく其の港市としての機能は敢へて昔日に劣らない。

かく新興新進の地であるから其れに伴ふ港市としての新しい施設に富んでゐる、併し反對にそれ丈古色掬すべき歴史的の名勝に乏しい。併しこれが即ち横濱の横濱たる所であらう。故に横濱地方に遊ぶには此の横濱の特色をよく把へて見たいと思ふ。

東京驛櫻木町間電車、約五十分。四十四錢。十二分間毎に運轉。

### 本覺寺

今こそ新興の横濱市に編入されたが、昔は東海道<sup>とうかいどう</sup>の要衝にあたり、殊に幕末黒船渡來後は其の外交談判の舞臺となつて名の出た神奈川<sup>かんながわ</sup>の地、殊に其の本覺寺はハルリス寄遇の場所、我が國が始めて外國と條約を締結した開國記念の場所である。寺は町の背後眺望佳なる高島山<sup>たかしやま</sup>にあつて日蓮宗<sup>にっれんしゅう</sup>に屬してゐる。我が開國の當初此處に米國旗の翻つてゐたことがあるかと思へば一種の感にうたれる。

## 横濱附近

横濱港 は本牧鼻、鶴見川口を以て港門とし、其の幅約四哩、深入約二哩半、其の築港工事は明治二十二年着手、大正六年に及んで竣工した。其の南防波堤は南山手の堺堀川口から北に突出すること約八百九十間、北突堤は神奈川町舊砲臺の附近から東南に延長すること約一千百間、南突堤と相對して其の間に船舶の通路を開き、南北兩突堤とも各其の先端に燈臺の設がある。港内水深最低海面下三十二尺、中に税關棧橋(長さ約五町)、繫船岸(延長千百三十七間)あり、倉庫・起重機等の設備も整ひ、棧橋は二萬噸級の大汽船四隻を、繫船岸は大汽船十餘隻を何れも同時に繫留することが出来るといふ。

櫻木町驛下車、大岡川に架した辨天橋を渡り、屈指の商衢たる本町を進み(途中南仲通に正金銀行がある)。税關及び税關棧橋附近を見物し、海岸通に出て防波堤の内外に碇泊してゐる大船巨舶の夥しき狀を觀れば、東洋有數の港市たる實が一層明らかに知られて愉快である。

此處から中村川に架した谷戸橋を渡り、住宅地たる山手町の丘陵を経て三溪園に至る道

は約二十町、足に任せて歩けば宛然公園の中を歩く感がある。

## 三溪園

横濱市隨一の遊覽地であつて櫻木町から東南一里十町、本牧にあり、原富太郎氏の私園を公開されたもの、驛から市電に乗れば本牧停留場から約五町である。

園は本牧鼻の西方三之谷にあり、海に臨んで丘あり、沼池あり地形の變化に富むが上に梅林あり、躑躅あり、藤棚あり、松林あり、花木花卉に四季の景趣が多い。而も其の間由緒に富む三重塔・東慶寺の建物・楠公祠及び風雅なる茶亭を配して一層の風致を添へてゐる。殊に海岸より、根岸灣を隔て、杉田の丘陵を望み、遠く横須賀觀音崎一帶の翠岳及び房總の山々をも模糊たる雲烟の間に指點する風光は筆舌の盡し難いものがある。春は汐干狩にも好い。

## 野毛山

櫻木町驛から西八町、大神宮があつて今伊勢山と稱してゐる。社地は港内及び市街を瞰下して展望の適地、且つ櫻樹が多く花見によい。又中腹の不動堂も眺望と花見とに好適である。

## 横濱附近

杉田、金澤附近

**掃部山** 櫻木町驛から西北十一町、井伊掃部頭の銅像があるので名高い。此の銅像は過般の大地震で回れ右をしたが、十三年一月の大餘震でまたもとの方向に向き直つたのが面白い。附近には八重櫻が多い。

**磯子海水浴場** 市電八幡橋から西數町、磯子町の海岸は所謂屏風ヶ浦の一部を占めて風景美、本牧と共に近年海水浴場として名が出た。而も附近の旅館には皆ラヂウム温泉の設あり、又是等の旅館が夜間一齊に點するイルミネーションは頗る美觀である。

磯子町の眞照寺は近年夏菊の名所となつて六月初旬の花頃は訪客が多い。

〔杉田、金澤附近〕（屏風ヶ浦、杉田の梅林、金澤八景、）

（稱名寺、金澤文庫）

**屏風ヶ浦**

横濱の本牧鼻から久良岐郡金澤村の富岡鼻に至る驛人約三里の根岸灣、外人の呼んでミシシツビベールといふ其の海岸の中、磯子から杉田に至る一里許りの間は、眺望

絶佳で之を屏風ヶ浦と稱する。市電八幡橋から乗合自動車もあるが、屏風ヶ浦の廣い濱道左に其の風光を賞しつゝ足に任せて歩くのは梅の時分なら少し寒くはあるが、實に愉快である。

**杉田の梅林**

杉田は屏風ヶ浦村に屬してゐる。文化四年佐藤一齋が此の地に遊んで杉田

村觀梅記を草してから其の名が頓に揚つたが、要するに其の梅林は海を控へてゐるのが一の特色である。元祿中増植され、現在は三萬株に餘るといふ。後に丘陵を負ひ槎牙たる其の樹間から東京灣の蒼波を隔て、彼方に上總の山々を望む光景はまた得難いものである。

殊に妙法寺（牛頭山と稱す）、日蓮宗、文和年間創立。開基日荷上人、開山日祐上人、東漸寺（靈洞山と號す、臨濟宗、正安三年建立、開山宏覺禪師、關東十刹の一）の境内は老木が多い。花時には茶亭も出來て梅干などを鬻いでゐる。

**金澤八景**

杉田から二里、金澤村にあつて鎌倉時代には隣村の六浦莊村と共に六浦莊の一郷であつた。此處から鎌倉雪の下へは約二里。鎌倉が武家政治の舞臺として繁榮した頃

杉田、金澤附近

には此の八景も鎌倉人士は更なり遙々上方から下つた人々の遊覽に出かけたことが多かつたらしく、従つて其の勝景は特に天下に名を成したものであるが、惜しいかな時勢が變つた。同時に物變つて金澤の海岸は當時よりも海水が退き、今は田畝が多くなつて昔程の景勝がない。剩へ他の地に比べて交通が不便である爲探勝の客が多くない。でもさすがに音に聞えた名所だ、棄て難い趣きに富んでゐる。殊に我が文化史上に特筆すべき金澤文庫・稱名寺が其の間にあり、此の歴史的背景の前に金澤八景は猶ほ生命がある。

八景は、洲崎晴嵐、瀬戸秋月、小泉夜雨、乙艦歸帆、稱名寺晚鐘、平瀉落鴈、野島夕照、内川暮雪であつて、明の心越禪師が支那の西湖に似てゐるといふので、名づけたのに始るといふ。而して其の眺望は能見堂と九覽亭とが最も勝れてゐる。能見堂は杉田寄りの處、筆捨山上にあつて、巨勝金岡の筆投松の跡方が残つてゐる。海上、夏島・猿島・烏帽子岩を望んでさすがに風致に富んでゐる。(稱名寺金澤文庫は此の山下にある)筆捨山から瀬戸の斷橋を過ぎて行けば瀬戸神社、社の南海中に突出した處には竹生島から勸請したとい

ふ辨天祠がある。此處が所謂秋月の勝地である。瀬戸に行く途中六浦村の東にあるのが上行寺、日祐上人の創立、下總中山法華經寺の末寺である。瀬戸神社から、西南へ八町行くと古利金龍院がある。此處は八景の中心に當つて境内の飛石山は山上の展望開濶、八景は勿論、筆捨山上の能見堂をも併せて見ることが出来るので九覽亭と呼ばれる。此處から見る野島の夕照は最も勝れてゐる。

九覽亭に近く泥龜新田に有名な牡丹園がある。土地の豪家が經營してゐるもので、一寸類のない程見事なものだ。

**稱名寺** 金澤村大字寺前筆捨山下にあつて、金澤山彌勒院と號し、眞言律宗に屬してゐる。文永六年金澤實時の本願で其の子顯時と共に力を合せて建つる所、稱名寺とは實時の法號によるものである。開山は妙性禪師、龜山天皇の勅願寺である。當時北條氏の一門として鎌倉で勢力のあつた金澤氏開基のこととして、寺領豊に、七堂伽藍の具はつてゐた様子が元亨中の古圖によつても察せられる。後足利氏小田原北條氏等の崇信厚かつたとはいへ、

到底昔時の盛大に比すべきものなく、徳川時氏に及んでは寺領僅に百石を有したに過ぎない。従つて今は本堂・阿彌陀堂・經藏・鐘樓等を存するのみで、金堂・講堂・五重塔等の往時の輪奐は見るに由もない。但し由緒ある當時のこととして寺寶に富み、就中實時・顯時・貞顯三代の影像、龜山天皇御念持物愛染明王像、文永六年の鑄造に係り正安年間（1191-1199）の改鑄に成る鐘は國寶に列してゐる。

又境内には實時顯時父子の墓あり、謠曲「六浦」に名高い青葉楓もある。

### 金澤文庫

今稱名寺の境内總門内右手の畑中にある土藏—古文書佛書などが塵埃裡に山積されてある—が金澤文庫と稱せられてゐるが、之は近時再興された文庫で、あの史乘に名高い金澤文庫の後身に過ぎない。但し金澤文庫が新舊何れにしても稱名寺と離るべからざる關係を有することに於て變りはない。

金澤文庫の創立者については或は實時、或は顯時、或は貞顯と種々に傳へられるが、多分實時で、其の年代は實時が六浦莊に籠居した以後か或は文永七年以後建治元年（1191）の間にあ

るかと稱せられてゐる。

金澤の地は實に金澤氏の領邑であり、而も當時鎌倉近郊屈指の風光明媚の地であつた。

稱名寺も之が爲に此の地に建てられた。殊に實時父子の好學は此の地に文庫をも創建するに至つたのであつた。而して當時文庫は稱名寺後の山間にあつた。—今寺後の畑地となつてゐる文庫ヶ谷と呼ばれる平地が其の跡であらうと推定されてゐる。—而して稱名寺の榮えた頃には此の文庫も三棟あつて盛んなものであつたらしいが其の後時勢の變轉と共に此の文庫も衰廢してゐたのを、上杉憲實が再興したが、其の後再び荒廢に歸し、徳川の世に及んでは殆ど衰滅に歸してしまつた。それが近時再び復興を計られてともかく前述の文庫が存在してゐるのである。

武家時代以後武士の百戰攻城の武勳は赫々として史乘に輝いてゐる。併しながら此の文庫が足利學校と共に我が文化の上に貢献した無形の力に至つては測り知るべからざるものがある。金澤文庫舊跡と記された石柱のあたり昔なつかしさに佇立を禁じ難い。

戸塚、藤澤、茅ヶ崎附近

〔戸塚、藤澤、茅ヶ崎附近〕

(畠山重忠戦死の跡、田谷の穴、九十九谷の奇勝、遊行寺、  
鶴沼海水浴場、茅ヶ崎海水浴場、寒川神社)

**畠山重忠戦死の跡** 五十三次神奈川の次驛は程ヶ谷、「御とまりはよい程ヶ谷」と留め女のつつかまへた處、又鎌倉街道に當つて昔から榮えた地、此の頃は次第に工業地と化して來た。

畠山重忠戦死の跡は驛から西北一里半、都筑郡二俣川村牧ヶ原にある。智謀一世を覆うて頼朝の寵を受け、源平の戦には義經の幕下として勇名を馳せた重忠も讒に遇うて元久二年六月北條義時と鶴ヶ峯に戦ひ、次いで七月再び此處に北條勢と悪戦苦闘し、遂に原頭の露と消えたのであつた。蕭々たる風は今猶ほ廉直なりし忠臣の憾みを訴ふるかと聞かれる。

尙ほ驛から東南一里半には俗に粗木の観音と稱する弘明寺がある。

**田谷の穴**

横須賀線の分岐點大船の驛から北約二十町、定泉寺の後園にある穴が所謂田谷の穴で、壁も天井も悉く佛體・鳥獸・花卉の類を彫刻されてあつて頗る奇觀である。

**九十九谷の奇勝**

大船の驛から東約一里、小坂村字岩瀬の東南の谷奥、今泉不動の境内にある。寺は今浄土崇に屬し、稱名寺と號してゐる。不動堂から東南に登攀すること十町にして標高百六十米の大平山上に出る。南は二階堂谷、北は颯川の谷、此處に幽邃なる九十九谷の奇勝開けて、陰陽の瀧の奇景を併せて夏猶ほ寒い境地を展開してゐる。

**遊行寺**

大船から西に進んで境川を渡れば藤澤驛、江の島電車の起點であるが、先づ驛から近く見るべきは名高い遊行寺。北約八町、大富町にある。時宗の總本山、藤澤山清浄光寺と號し、正中二年侯野五郎景平の開基、開山は一遍上人第四世の吞海上人である。此の寺の住職たる人は皆宗祖一遍上人遊行の跡をついで全國を遊行する風習があるので、寺名を俗に遊行寺と稱するに至つた。南北朝争亂の頃から戰國時代にかけて此の寺門遊行巡

戸塚、藤澤、茅ヶ崎附近

## 戸塚、藤澤、茅ヶ崎附近

化の蹟著しく異彩ある歴史をなした。尊氏の如きも寺領六萬貫を寄附したことがあり、一山宏壯なものであつたが、火災の爲衰へ、殊に過般の大震に被害甚しく今は昔日の觀はない。寺寶多く、就中後醍醐天皇御像一幅及び粟田口降光の筆として名高い一遍上人繪詞傳十卷は今國寶となつてゐる。傍の長生院に小栗判官滿重及び照姫の墓がある。遊行寺の附近に義經の首塚と稱せられるものがある。

## 鵜沼海水浴場

鵜沼は藤澤町の管内で驛から約二十町、江ノ島電車によれば約五六分。

前に江ノ島の青螺を控へて水靜に、磯を傳へば、江ノ島茅ヶ崎にも達すべく、遠くは富士大山を仰ぎ、又互相の翠微を望んで、適の海水浴場であり、近年別荘地として發達して來た。旅館—東屋。

鵜沼から境川の河口に至る一帯の地を砥上ヶ原と稱してゐる。往時は茅ヶ崎に至る二里餘の平原を指したのを今縮小したのである。康正元年上形定正が北條憲宣と戦つた古戰場である。

## 茅ヶ崎海水浴場

藤澤の次は辻堂、其の次が茅ヶ崎、南湖院を以て聞えた保養地である

が、殊に風光に富み、海岸は遠淺にして水清澄、海水浴に適するので近年別荘地として發展が著しい。而も近來開通した相模鐵道は將來に横濱線と橋本驛に於て連絡する豫定であるから其の發達も益々期待される。

浴場は驛から南八町に位してゐる。附近には所謂茅ヶ崎八景がある。中にも落雁に勝れた相模川河口の柳島は富士・箱根・大山の諸峯を望んで眺望八景の首位にある。

## 寒川神社

茅ヶ崎驛から西北一里半、高座郡寒川村にあつて茅ヶ崎から岐れる相模鐵道

によれば約十四分、寒川驛から數町の處にある。古相模の國の一宿、今國幣中社。祭神は寒川比古命、寒川比女命の二柱。源頼朝以下北條氏の崇敬厚く、往時は結構壯麗であつたが、元龜天正の際兵燹に罹り、又維新の際神佛分離の爲藥王寺も破却されて今舊觀を留めない。只々の鳥居から二の鳥居に至る數町の賽路及び社後には老木が蒼々として天を摩してゐる。一月八日には武佐弓祭、七月十五日には濱降祭等古式な祭典が行はれる。

附近に明治四十一年發掘された古墳がある。

程ヶ谷驛、東京驛から四十八分、五十一錢。

戸塚驛、同じく、一時三分、六十六錢。

大船驛、同じく、一時十一分、七十四錢。

藤澤驛、同じく、一時二十一分、八十一錢。

茅ヶ崎驛、同じく、一時三十四分、九十四錢。

### 〔鎌倉、江の島附近〕

(鶴ヶ岡八幡宮、頼朝公の墓、光明寺、由井ヶ濱、大佛、長谷觀音、  
稻村ヶ崎、建長寺、東慶寺、圓覺寺、壽福寺、龍口寺、江の島)

**概説** 東京を距ること三十二哩(汽車一時間半)、三方丘陵に圍まれて南方の一面相模灘なまに開く方一里の地區、これこそ天下の名勝たる鎌倉かまくらの地である。來遊者四時絶ゆる時な

く、來住者日に月に増加する状態にある鎌倉かまくらの地は勿論風光の美に富んでゐる。良好な海水浴場を有してゐる。保養地として適する氣候風土を惠まれてゐる。併し其の能く天下に名を成してゐる所以は實に其の貴重な史蹟に負ふものが多い、實に足一度鎌倉かまくらの地を踏めば到る處として史蹟ならざるはなく、其の山河一として史實を語らざるはなく。鎌倉は實に源頼朝みなもとのかみちかによつて創始された武家政治の舞臺として天下の中心たること百四十餘年、其の後に於ても久しく關東かんとうの中心たる地位を保つてゐた。其の後戰國爭亂の世となり鎌倉かまくらの地も其の累を被つて荒廢に歸してゐたのを、明治の世に至り鐵道の開通と共に新しき方面に於て復活して次第に都人士の別莊地となり、又御用邸も置かれ遊覽者保養者の多き湘南しやうなん其の比なき盛況を呈するに至つた。而して過般の大震災には被害夥しく、市街は殆ど全滅し、前陳史蹟の被害も甚しかつたが、併し市街地は復興の氣運盛に、又史蹟も幸にして被害を免れたものも少からず、且つ其の破壊されたものも漸次復舊を計られつゝあつて、従前の盛況に復するものも遠からぬことと思はれる。





鎌倉附近

既に述べた如く鎌倉の地は其の區域は寧ろ狭小なものであるが此處に包含する史蹟に至つてはとても牧擧することが出来ぬ位で、況や是等を委しく巡見踏査するなら殆ど旬日を費しても足らぬ位であらう、況や之を日歸りの行程とし而も江の島をも併せて見ること

とすると勢割愛せねばならぬものが甚だ多い。依つて此にも極めて重要なものゝみを掲ぐることにする。

鎌倉江の島を併せて見物するなら其の廻遊乗車券(一圓九十二錢)を利用し、鎌倉驛に下車、驛以北の史蹟をなるべく徒歩で探り、後驛前から江の島電車に乗り、途中の名勝を探つて江の島を見物し、又電車で藤澤驛に出て乗車するがよい。或は又此の逆の行程をとつてもよい。

**鶴岡八幡宮** 驛から東北五町、大臣山の上にあつて、鎌倉の史蹟の中心である。其一の島居は遠く由井ヶ濱邊にあり、老松の行樹に古色ゆかしき若宮大路に當つて驛の附近に二の島居あり、更に三の島居(此の中には過般の震災の爲倒壊したものもある)を経て紅白の蓮を植ゑた放生池。之に架したる赤橋、何れ趣に富まぬのはない。次に拜殿(過般の震災に倒壊した)、静御前の舞に名高い若宮堂、其の向に高い石段の左側には之も公曉に名高い大銀杏、石段を上げれば結構美を盡した樓門(之も過般の震災の爲倒壊した)・廻廊・本殿

## 鎌倉、江の島附近

徳川十一代將軍家齊の造營、文政十一年の落成、廻廊には數多の社寶が陳列されてある。祭神は應神天皇・神功皇后・大仲媛、初め後冷泉天皇の康平六年源頼義が安倍貞任討伐の時、戦捷祈願の爲石清水八幡宮を勸請して由比郷鶴ヶ岡に奉祀したが、後頼朝幕府を開くに當り之を大臣山の麓に移し、更に建久二年の火災後此の處に再移したものである。今社格は國幣中社である。

八幡宮の後丘にある頼朝公を祀る白旗神社は過般の震災に被害が多かつた。

頼朝公の墓 八幡宮から東して神奈川縣師範學校の外構に沿うて田圃に出ると、此處は昔の大倉郷、頼朝屋敷跡である。方六町許りの地域、これが天下兵馬の大權を掌握して居つた公の住居の跡、殊に當初は幕府さへも此處に置かれてあつたかと思へば、質素簡略なりし武家政治の昔を思つて一種の感に充たされる。八幡宮から東方三町に當る。

頼朝公の墓は其の北方貝吹山の西麓にあつて石の玉垣を繞らして高さ六尺許の五輪塔が立つてゐる。「草も木も靡きし秋の露消えて空しき苔を拂ふ山風」、數百歳の下猶ほ長明と

同じ感に打たれる。

附近に大江廣元及び島津忠久の墓もある。

鎌倉宮 頼朝公の墓から東約五町、驛から十六町（途中にある荏柄天神は頼朝館の鬼門の鎮守であつた）、大塔宮護良親王を奉祀する官幣中社、明治二年の創建である。鳥居に懸る鎌倉宮の額は明治天皇の御筆、社後の土窟は親王が幽せられ給うた處と傳へてゐる。親王の御墓は此處から東南字二階堂理智光寺の山の上にある。

光明寺 鎌倉宮から頼朝屋敷跡の南の通路に出で島山重忠屋敷跡を右に、北條屋敷跡を左に見て南下すれば比企ヶ谷に日蓮上人辻説法の跡がある（驛から東三町）。途中葛西ヶ谷に入り、北條高時の墓及び北條氏滅亡の跡たる東勝寺跡を吊ふのもよい（驛から東五町）。又比企ヶ谷から日蓮宗妙本寺（開祖日朗）を過ぎ、更に東南松葉ヶ谷に入つて安國寺に日蓮上人の跡を訪ふのも面白い（日蓮上人が立正安國論を草したと傳へる窟がある。驛の東南十町）。

## 鎌倉、江の島附近

さて光明寺は材木座にあり、驛から十八町に位す。浄土宗關東總本山、天照山と號す。北條經時の創建、境内に經時の墓あり。山門天照山の額は後花園天皇の宸筆。此處から爲朝の傳説ある矢の根井及び由井ヶ濱の東端を劃する飯島崎が近い。

**由井ヶ濱** 東は飯島崎から西は靈山ヶ崎に至る二十町餘の砂濱、驛から直行すれば南七町許り、電車も此處に停る。青砥藤綱の傳説で名高い滑川や稻瀬川が注いでゐる。江の島返子・葉山等を望んで眺望に富み、海水浴に適して夏季は雜踏する。昔弓馬の調練所たりし所、傳へられる史實が多い中に「源光行の海道記に「數百艘の舟ども、綱をくさりて大津の浦に似たり。千萬宇の宅軒をならべて大淀のわたりに異ならず」とあるは、當時鎌倉の繁昌した一斑が窺はれて感懐が深い。

**大佛** 驛から南西二十町、御輿嶽の西麓、老松鬱蒼たる丘阜を後にし、露坐して慈眼温容衆生に臨んで居られるのがそれである。寺は廣徳院と稱し浄土宗光明寺に屬してゐる初め源頼朝大佛を造らんとして果さず、後北條泰時此處に大佛を建立したが、暴風に倒さ

れ、今のは建長四年八月（時頼の時代）鑄造せられたものである。大佛は金銅の阿彌陀坐像、丈三丈五尺、周圍十六間二尺、面長八尺五寸、眼長四尺、耳長六尺六寸、其の圓滿なる相好、其の卓拔せる伎巧、海内無比、又實に世界的逸品と稱せられ、今國寶に列してゐる。

大佛の殿宇は明應四年八月十五日海水の爲にさらはれて以來大佛は露佛にてまします。過般の震災にも幸にさしたる禍害のなかつたのは誠に喜ばしいことであつた。

**長谷觀音** 驛から南西十八町、大佛を距る三四町、觀音山の中腹にあつて海光山新長谷寺と號し、浄土宗に屬す。脚下に長谷の市街を望み、由比葉山の長汀、三崎一帶の翠微を一眸に收めて眺望佳絶。寺は天平八年の建立と傳へ、堂内二丈六尺の楠木造十一面觀世音像は元正天皇の御代春日佛師の作と稱するものである。

文永元年の鑄造に係る鐘は建長圓覺のそれと共に鎌倉三大古鐘に數へられてゐる。附近には源義家の臣鎌倉權五郎景政を祀る權五郎神社及び昔星影を見たと傳へる星の

井、及び有名な七切道の一にして昔の京都通路に當り鎌倉の大手たりし極樂寺切通、北條泰時の開創した靈鷲山極樂寺、十六夜日記で知られた阿佛屋敷跡等がある。

**稻村ヶ崎** 鎌倉驛の西北なる源氏山は其の脈西南に延びて先は三派に分れ、一は東方靈山ヶ崎となり、一は即ち西方稻村ヶ崎となつて海に迫つてゐる。斷崖六十米、鎌倉時代の初めから其中世極樂寺切通の開けるまでは此の崖下を京都街道が通じてゐたのであつた。元弘三年五月二十一日新田義貞が此に劍を投じて海神に祈つたことは太平記の明文によつて普く人口に膾炙してゐる。

稻村ヶ崎から以西腰越の海岸小動の岩までは六町一里の七里あつて七里ヶ濱と稱せられ風光明媚、中程に日蓮の傳説に名高い行合川、濱の盡くる處に小動岩・小動神社がある。

若し是から江の島を見物して日歸りするならば西するのであるが、尙ほ更に鎌倉の史蹟を探らんとすれば、此處から引き返して北、山内方面を巡見するがよい。

**建長寺** 八幡宮から西北、鎌倉七切通の一にして其の搦手、東北諸州との交通路たりし

巨福路坂の上にあつて驛から約十七町、鎌倉五山の第一、北條時頼の建立、開山は宋の大覚禪師道隆、今禪宗建長寺派の大本山、創立の祭の堂宇は應永の兵火に烏有に歸し、今残る山門は永享年間足利持氏の再建で、幸にも過般の震災に屋根を壊したのみで他は無事であつたが、佛殿・鐘樓・方丈等は倒壊した。併し建長七年の鑄造に係り鎌倉三大古鐘の一たる巨鐘は無事であつた。

従來佛殿内には國寶たる時頼の木像が安置されてあつた。是から更に進めば龜ヶ谷坂長壽寺(臨濟宗)に尊氏の塔あり、尙ほ東北に行けば山内管領館跡、明月院最明寺跡、時頼の墓等あり、勤儉下を率ゐた大政治家の佛を偲んで轉々欽仰の念に堪えぬものがある。

**東慶寺** 驛から北二十二町、北條時宗の後室覺山尼が不幸な女性を救はんがために創建された臨濟宗の尼寺、俗に縁切尼寺と稱せらるゝ處、第五世用堂尼は後醍醐天皇の皇女、第二十世天秀尼は豊臣秀頼の女と稱せられる。昔から此に逃れて悪縁を絶つた女人の數はさぞや多い數に上つたことであらう。



## 逗子、葉山附近

出し天女降居したといふのだから素晴らしい。

島は高さ二百四十尺、周囲二十町、絶壁をなして上に緑樹を載せてゐる。江の島神社は邊津宮・中津宮・奥津宮の三祠に分れ、多紀理比賣命・市寸島比賣命・多岐津比賣命等を祀る。奥津の宮を西に下れば白菊の傳説で名高い稚兒ヶ淵、更に細道を下り棧橋を渡れば所謂辨天窟、洞口を入ること約四十間にして洞穴二つに分れ、奥に大日如來像を安置されてある。

島上は風光絶佳、四時を通じて遊覽者が多く、旅館料理店が多い。旅館へゑびすや、岩本樓、金龜樓等、宿泊料參圓乃至五圓。名物、榮螺の壺焼、貝細工。

## 〔逗子、葉山附近〕

(逗子海岸、葉山海岸)

逗子海岸 逗子驛は東京驛から三十四哩餘(一時間半、八十九錢)、田越川の流りに沿う

て行くこと十町許で海岸に出る。湘南屈指の海水浴場別荘地として名聲高い丈に海岸の風光甚だ勝れてゐる。

右大崎から左鳴鶴崎に至る弓状の渚、新宿の濱と稱し、豆相の翠巒淡蕩の間に横る彼方富士の靈峯雲表に聳え、江の島の青螺近く碧波の上に浮んで飽かぬ眺、此處に小説不如歸で名高い浪子不動、平維盛の遺子六代御前が非業の最期を遂げた柳作、北條早雲と戦つて自殺した三浦道香の墓ある延命寺、名所も少くない。

旅館―養神亭。

葉山海岸 逗子と相並ぶ湘南屈指の海水浴場別荘地、逗子から自動車もあるが、一歩々々飽かぬ海岸の風光を稱しつゝ行けば一里の道はすぐである。

日蔭の茶屋から長者ヶ崎に至る海邊、逗子よりも眼界大に、豆相の山富嶽の眺めも一層勝れてゐる。頼朝公が大山祇命を勧請したと傳ふる森戸明神、潮干狩によい名島、さては眺望雄大な大楠山(二六〇米)等足を運ぶべき處が多い。

## 逗子、葉山附近

横須賀、浦賀附近

旅館―日蔭の茶屋、長者園、鍵屋。

### 〔横須賀、浦賀附近〕

(追濱飛行場、海軍工廠、安針塚、龍本寺、衣笠城址、  
大津海水浴場、走水神社、觀音崎、ペルリ上陸記念碑)

**概説** 急速な發展を來して人口九萬を包容する横須賀市、我が開國の歴史に名高い浦賀の町、相連つて三浦半島の東北岸を占め、近く迫る房總の半島と相對して東京灣の口を扼してゐる。而して横須賀の驛は東京驛から三八・八哩、約一時四十六分(九十八錢)にして此の地を踏めば、軍港としての種々な施設、要塞地としての特別なカラー、殊更是等を中心として活氣旺盛する市街の景況、誰しも一種の感をそそられぬ人はあるまい、浦賀の町は横須賀から約二里(自動車がある)、ペルリ提督渡來の跡に過去六十年我が時勢の進展に今更今昔の感が深い。而も衣笠の城址に、走水の御祠に誰かは懐古の情緒が湧かぬであらうか。

横須賀驛へは東京から日に二十回以上の汽車便あり、横濱からは四回の汽船便あり、浦賀靈岸島間亦汽船の便(約五時間)あつて交通至便、變化に富む旅行が出来る。

**追濱飛行場** 横須賀から一つ手前の田浦驛から北約一里、海軍の飛行場であつて、我が飛行界に甚だ重きをなしてゐる。金、土、日曜の三日に一般の觀覽を許されるから見學者は此の日を選ぶがよい。文明の威力に今更驚かされるのみである。此處から横須賀へは約一里半。

**海軍工廠** 横須賀の驛から東南約十五六町、勝ヶ崎と箱崎とによつて抱かれ、連山其の周圍を繞り、天然の良港灣をなす横須賀灣、南西に面した平地を占めて、大規模の船渠、船臺、鐵船製造場、鑄物場、船具製造場等あり、施設の完きと機械の威力の絶大なるに一驚を喫する。

附近に鎮守府あり、海兵團は驛から西四町、要塞司令部、旅團司令部、海軍病院等は南

横須賀、浦賀附近

方に、砲術學校は北方に何れも稍々遠く隔つてゐる。

又東京灣汽船及び横濱汽船の發着所は何れも東の港岸にある。

**安針塚** 驛から西約二十町の丘上にある。安針、原名はウィリヤム、アダムス、英國の人、和蘭艦隊の水先案内役であつたが、慶長五年難船して我が國に漂着し、徳川家康に用ひられて歸化し、江戸は日本橋今の安針町に邸宅を授けられ、職祿二百五十石を賜り、此の三浦郡逸見の地を領し、三浦安針と稱した。安針いたく此の地の風光を愛して遺言して此に葬らせたといふ。塚は二つあつて一は妻女のであるといふ。

**龍本寺** 驛から約半里、町の西端の斷崖上にある。日蓮宗に屬し、日蓮上人の木像を安置する。此の岬は米ヶ濱と呼ばれるので、里俗米ヶ濱の祖師堂と稱してゐる。砲臺ある猿島は眼下にあり、觀音崎を隔て、遠く鋸山を望む光景、附近得難い佳景である。

**衣笠城址** 驛から南一里、衣笠村大字衣笠の山嶺にある三浦家累代の居城址三浦大介義明治承四年畠山重忠の爲に亡ほされ、今老樹蒼鬱たる間に僅に城壘の跡を留めてゐる。

大介の墓は此處から東南八町同村大矢部の満昌寺の境内にあり。堂宇を設け大介東帯の像を安置してあつて、土俗御靈明神と稱してゐる。頼朝も嘗て此に參詣して其の十七回忌の法要を営んだといふ。

**大津海水浴場** 浦賀町大字大津にあつて横須賀驛から一里、自動車ならわけはない。左に本牧、右に觀音崎を望んで風景が佳い。

**走水神社** 浦賀町大字走水にあつて大津から半里餘、日本武尊を奉祀する郷社である。

浦賀水道に臨んで、近く上總の富津と相對してゐる。弟橋姫の入水し給ひし故事は景行紀に特筆されてゐる所、遠き其の當初を偲べば感慨果てしもない。

**觀音崎** 走水の東方十町餘、浦賀の市街から東北約二十町、三漕を隔つる富津の砲臺と共に東京灣口を扼する砲臺がある。崎端に建つ燈臺は海拔一七八尺、光芒十七漕に及ぶといふ。

**ペルリ上陸記念碑** 浦賀の町で見物すべきは浦賀船渠會社であらう。次に見るべきは



三崎附近

ペルリ上陸記念碑、町から西南約一里、久里濱村大字八幡久里の三浦街道から東に入つた海濱にある。地は實に嘉永六年六月三日來朝した米國艦隊の水師提督ペルリが同月九日幕吏と會見の爲上陸した處で、碑は明治三十四年の建設に係り、其の除幕式にはペルリ提督の孫ロジャ將軍遠く軍艦を率ゐて來り會した程で非常に盛大なものであつた。

〔三崎附近〕

(城ヶ島、二町谷海水浴場、新井城址、臨海實驗所、油壺)

概説 東京灣の一角を劃する三浦半島の南端、夏は涼しき上に海水浴も出來、冬は暖にして終冬殆ど雪を知らぬといふ三崎の地、殊更世界に有名な魚類の産地として鮮魚豊に附近に油壺を始め勝れた風光を有し、加ふるに頼朝の當時からの數々の史蹟に富む地として近年保養に出かける人遊覽に訪れる人が甚だ多くなつた。東京から眞直に行くなら靈岸島から船にするとよいが(五時間一圓)、若し横須賀或は逗子地方からなら各約六里の道、



三浦半島

馬車や自動車を利用して行くことが出来る。さうして三浦半島を一週するなら一層面白い行程となる。但し少くとも二日を要する。  
三崎横須賀間  
約六里、馬車  
二時間、約七

三崎返子間、六里餘、馬車、二時間半、一圓四十錢。

十錢。

自動車、一時間、約九圓。

旅館(三崎)―三崎館、青柳亭、紀の國屋等。

**城ヶ島** 陸路を來ても、汽船で來ても、三崎に着いて先づ目に着くのは灣頭に横はる城ヶ島、幅四町、長さ一里に近く、四町の海峡を隔て、三崎の南にあり、奇岩怪石を以て圍まれて、三崎港自らの防波堤となつてゐる。三崎の帯の様な灣が昔から和船の輻湊所として繁昌したのは、實に此の天爲の防波境の御蔭である。町から小舟の便があつて往來は自由である。民家も可なりあつて水仙の栽培が行はれ、花の頃は全島雪で蔽はれたやうである。島中西邊に燈臺があつて光達距離十裡と稱せられる。

**二町谷海水浴場**

三崎の町は海岸何處でも見る漁師町に過ぎぬので、見物すべき場所としては、北方の三崎城址(弘治二年北條氏康の屬將が里見義弘と戦つた處)、頼朝の別墅

を構へた跡だといふ櫻の御所、桃の御所、椿の御所等の遺跡位に過ぎぬが、是等とても今何等跡を留めてゐるものはない。

町の裏手にある二町谷は海水浴に最も適當な處で、なか／＼の盛況である。此處を一に歌舞島といふのは其の昔頼朝が此處で侍女白拍子等を集めて長樂の宴を開いたのに基づくといふ。

旅館―岬陽館、初聲館、三崎館。

**新井城址**

三崎から約一里小網代の半島の先端にある。永正九年八月城主三浦道寸及び其の子荒次郎が北條早雲の爲に圍まれて三年の籠城をなし、食盡きて自刃した處、城は其の後北條氏に歸して天正十八年の廢城に及んだ。今猶ほ壘壁濠溝の跡が歴然と残つてゐる。道寸父子の墓は此處から臨海實驗所に行く手前、右へ折れた林間にある。

**臨海實驗所**

東京帝國大學理科大学に屬してゐて、新井城址の附近、やはり小網代にある。由來相模灘は海産の豊富なること本邦屈指で、臨海實驗所の此處に置かれたのもこ

## 三崎附近

れが爲である。従つて此の實驗所の名は世界の學界に聞えたものである。奇魚異草の多いこと驚く許り、殊更裏手の生簀は素人目を喜ばせること夥しい。

**油壺** 實驗所に近い一二町の間は左右に深く鬱入した海、周圍の丘陵の翠緑に映つて海水紺碧と澄み、風涼しく波穩かにして眞に油壺の名に背かない。其の昔新井城没落の時三浦氏の一族郎黨自ら刺して海に投ずる者算無く、油壺の水爲に變じて紅となつたと傳ふる史乘を偲べば碧水猶ほ千古の恨を湛へるかの如くである。

三崎から葉山に到る途中には長井の絶景あり、又三崎から東一里半劍ヶ崎には燈臺あり附近の松輪は風光に富んでゐる。

## 二、大磯、箱根、富士、熱海、修善寺方面

## 〔平塚、大磯附近〕

(平塚海水浴場、馬入川の鮎漁、長村の櫻、太田道灌の墓、大山、大磯海水浴場、鴨立澤、千疊敷、小千疊、高麗山、國府跡)

**平塚海水浴場** 茅ヶ崎から西して馬入川の鐵橋を渡ればやがて平塚の驛に着く。五十三次の中でも聞えた宿驛であり、今も秦野・大山・厚木等の要路に當つて活氣ある街衢を成してゐる。海岸は驛から七町。

此の海岸は香雲堂の分院があるので人に知られてゐる。砂丘の發達した海濱廣く連り、江の島は近く指呼の間にあり、東に打ちつゞく三浦半島の翠微、西に仰ぐ箱根・天城の連山、殊に晴れた日に鮮に描き出される鋸山や伊豆の大島、飽かぬ眺めである。海は勿論遠

平塚、大磯附近

浅、危険もなく良好な海水浴場である。

**馬入川の鮎漁** 平塚驛から東八町、上流川下り快遊に楽しい相模川、此の地方に来ては既に岸は遠く平野は漠々と開けて其の快遊は望むべくもないが、鮎は少くない。汽車の便利はよし、遊漁者の多いこと多摩川に次ぐ位である。

**長持の櫻** 驛から西北二十五六町、金田村大字長持の地、頼朝の傳説で名高い花不見川（花水川）堤上の櫻花一里、近村近郷の人出多く、爲に附近は花時鶏卵の價が暴騰するといふ。驛から自動車も馬車も人力車もある。

**太田道灌の墓** 平塚驛から北西約三里、伊勢原町と大山町との中間高部屋村大字上粕屋の洞昌院内、二株の老松の間に建つ四尺許りの五輪塔がそれである。山内顯定の計にかゝつて粕屋の第で死んだ道灌の遺骨を埋むる處といふ。

**大山** 平塚驛から北西四里半、大山町大字大山にあつて、海拔一九〇〇米、豪壯な山容を有して相模平野を飾る名山である。山頂には大山祇命を祀る縣社阿夫利神社がある。

此の阿夫利神社昔は石尊大權現と稱せられ、全く佛に歸して眞言宗を奉じ坊舎十八院を有したといふ。傳説によれば往古日本武尊此の山上の岩石の上より國見し給うたといふ。孝謙天皇の御宇僧良辨が中興して以來大いに著はれたが、後焼失し徳川家治之を建立し、家齊更に修築して現今の如き銅葺としたといふ。祭日は毎年四月一日から二十一日まで及び七月二十六日から八月十五日まで、賽者甚だ多く、就中七八月の祭禮には數萬を算するといふ。

登山路は平塚から伊勢原を経るものは道路が最もよく登山が容易である。平塚から明神前まで約三里半、馬車・人力車あり、明神前から大山町まで二十町、大山町から下社まで十八町、下社から頂上まで二十八町、此の間は山駕籠がある。

此の外二ノ宮から秦野まで軌道によつて行く道、松田驛から登る道等もあるが、何れも前者よりは困難である。

山上よりは秦野・伊勢原等の聚落、丹澤山の連脈、江の島を始め附近の海岸等を俯瞰し